

春日井市障がい者総合福祉計画
改定に係るアンケート調査
報告書

平成 26 年 3 月

春日井市

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果	3
1	回答者について	3
2	日常生活について	11
3	障がい福祉サービスについて	34
4	保健・医療について	40
5	余暇活動について	42
6	就業等について	44
7	生活環境について	48
8	情報の入手手段について	50
9	災害など緊急事態の対応について	54
10	障がい者の人権について	62
11	障がい者施策について	76
12	障がいのある人の家族について	81
III	自由意見	88

I 調査の概要

1 調査の目的

障がい者総合福祉計画の改定にあたり、障がい者の日常生活、社会生活、障がい福祉サービスの利用状況及び今後の意向等について実態調査を行うとともに、障がいのない人に対して、障がい者への理解や意識等の調査を実施し、計画策定の基礎資料を得ることを目的とします。

2 調査の対象と方法

(1) 障がい者のくらし・社会参加に関するアンケート調査

調査地域：春日井市全域

調査対象：身体障がいのある人 18歳以上の身体障がい者手帳所持者
知的障がいのある人 18歳以上の療育手帳所持者
精神障がいのある人 18歳以上の精神障がい者保健福祉手帳所持者
障がいのある児童 18歳未満の身体障がい者手帳所持者又は療育手帳所持者
難病患者 特定疾患患者等健康管理手当受給者
障がいのある人の家族 上記対象者の家族
障がいのない人 上記以外の人

調査方法：郵送による配布・回収

調査期間：平成25年12月6日から平成25年12月24日まで

(2) 障がい福祉サービス利用者へのアンケート調査

調査地域：春日井市全域

調査対象：日中・居宅サービス利用者
グループホーム・ケアホーム利用者
施設入所者

調査方法：郵送による配布・回収

調査期間：平成25年6月から平成25年12月まで

3 回収結果


(1) 障がい者のくらし・社会参加に関するアンケート調査

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者	家族	障がいのない人
配布数	650件	400件	400件	275件	275件	2,000件	600件
有効回収数	320件	196件	183件	143件	152件	994件	206件
有効回収率	49.2%	49.0%	45.8%	52.0%	55.3%	49.7%	34.3%

(2) 障がい福祉サービス利用者へのアンケート調査

	日中・居宅サービス利用者	グループホーム・ケアホーム利用者	施設入所者
配布数	735件	64件	180件
有効回収数	308件	32件	94件
有効回収率	41.9%	50.0%	52.2%

4 調査結果の見方

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

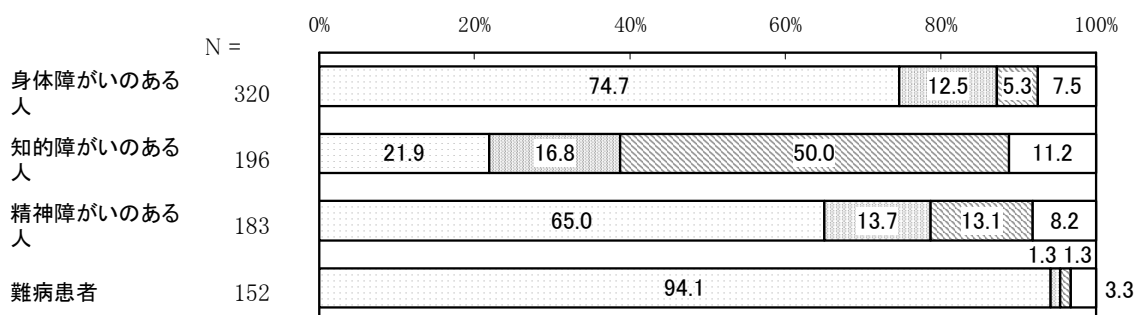
II 調査結果

1 回答者について

問 調査の記入方法【身体：問1、知的：問1、精神：問1、難病：問1】

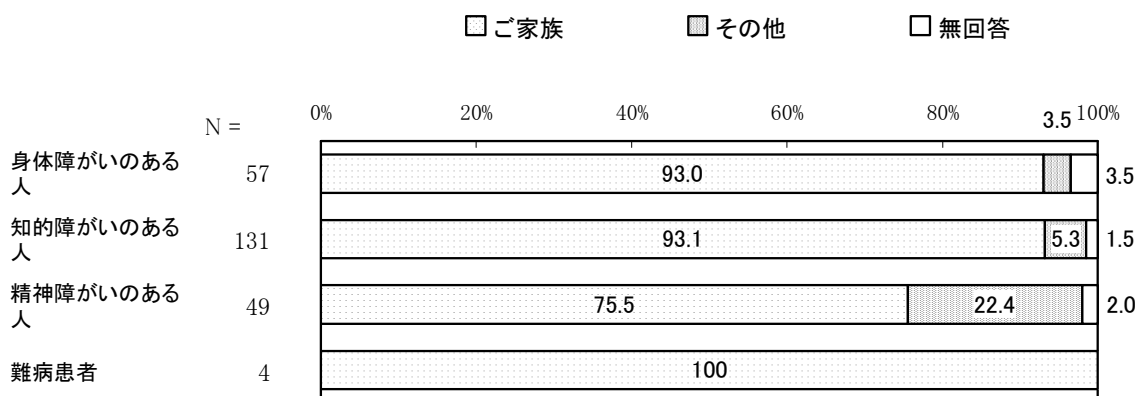
知的障がいのある人で「家族や介助者などが本人の意向をくみ取って代わりに記入」の割合が高くなっています。

- 本人(宛名の方をいいます。)がご自身で記入
- 家族や介助者などが本人の意思を「代筆」で記入
- 家族や介助者などが本人の意向をくみ取って代わりに記入
- 無回答



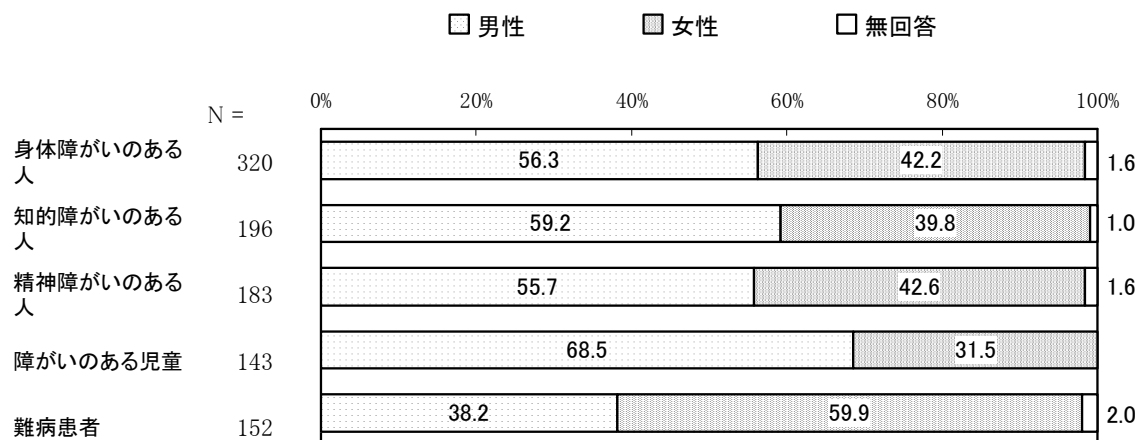
問 記入した方とご本人の関係【身体：問2、知的：問2、精神：問2、難病：問2】 (「家族や介護者が記入した」と答えた方に聞きました。)

障がいのある人すべてで「ご家族」の割合が高くなっています。



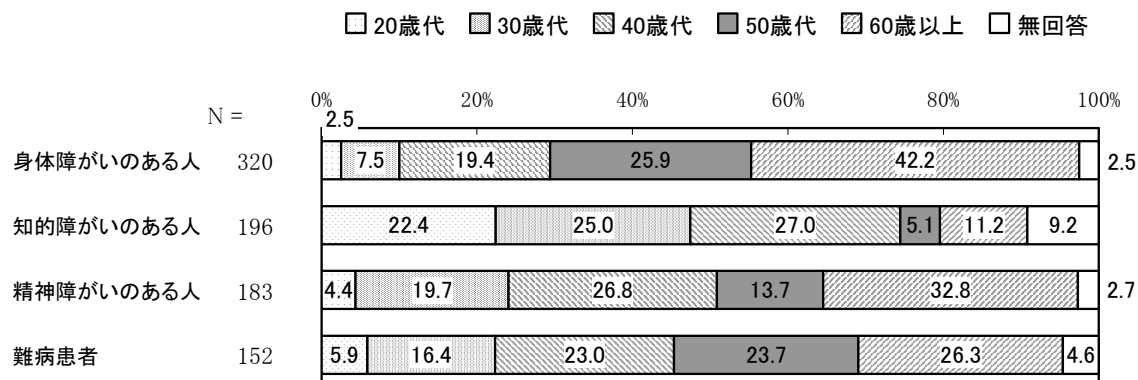
問 性別【身体：問3、知的：問3、精神：問3、児：問1、難病：問3】

障がいのある児童で「男性」、難病患者で「女性」の割合が高くなっています。



問 年齢（平成25年11月1日現在）【身体：問4、知的：問4、精神：問4、難病：問4】

身体障がいのある人で「60歳以上」の割合が高くなっています。



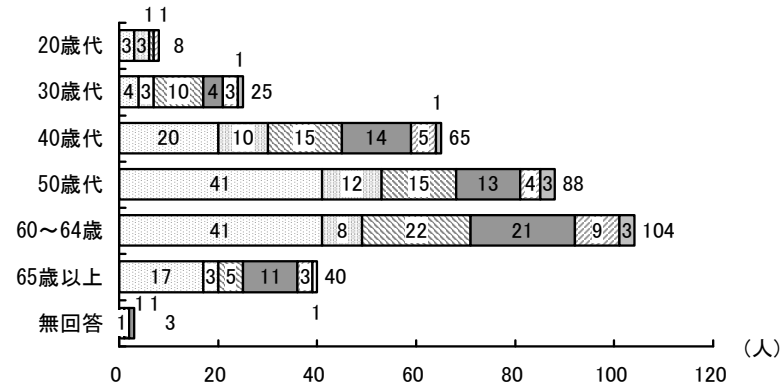
問 障がいの種類・等級【身体：問5、6、知的：問5、精神：問5、児：問3、難病：問5】

年代別の障がいの種類・等級は以下のようになっています。

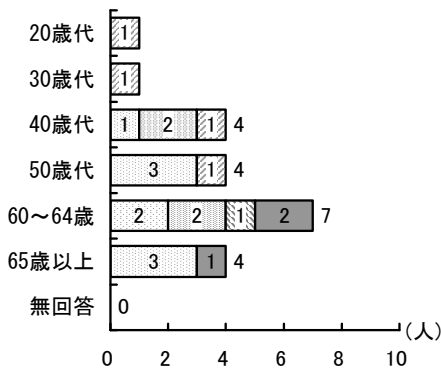
【障がいのある人】

(1) 障がい別・年代別の状況

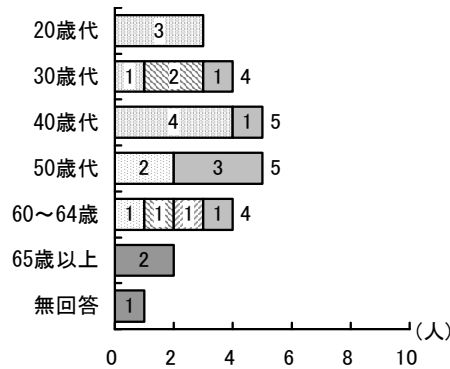
ア 身体障がいのある人



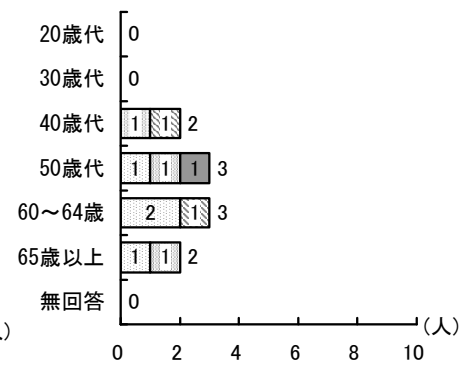
(ア) 視覚障がいのある人



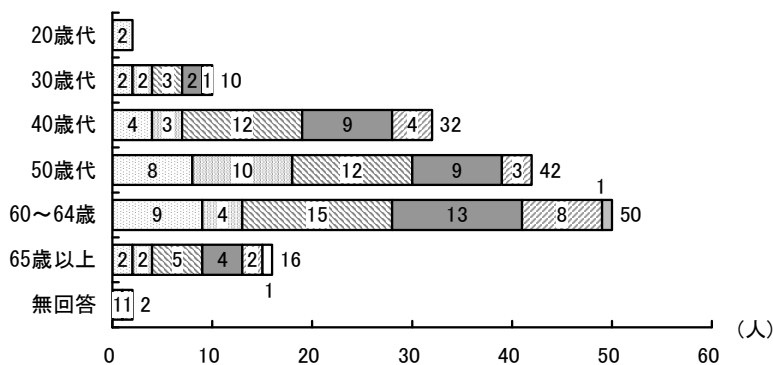
(イ) 聴覚・平衡機能障がいのある人



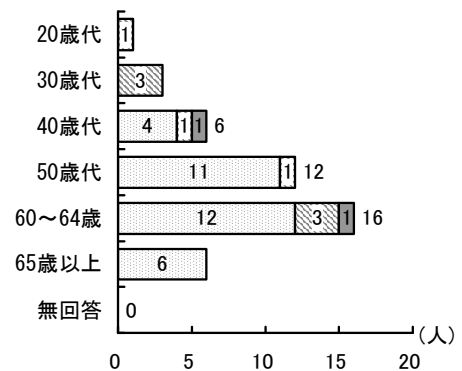
(ウ) 音声・言語・そしゃく機能障がいのある人



(エ) 肢体不自由のある人

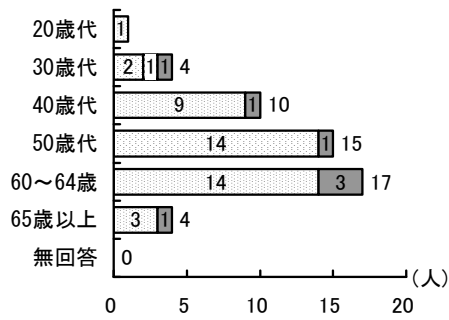


(オ) 心臓機能障がいのある人

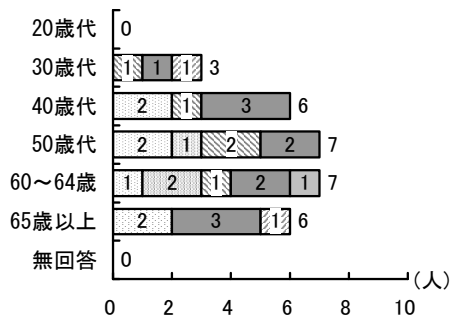


□ 1級 □ 2級 □ 3級 □ 4級 □ 5級 □ 6級 □ わからない

(カ) 腎臓機能障がいのある人

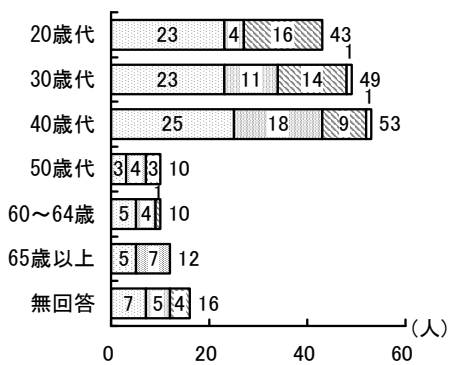


(キ) その他内部障がい（呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓の機能障がいや免疫機能障がい）のある人



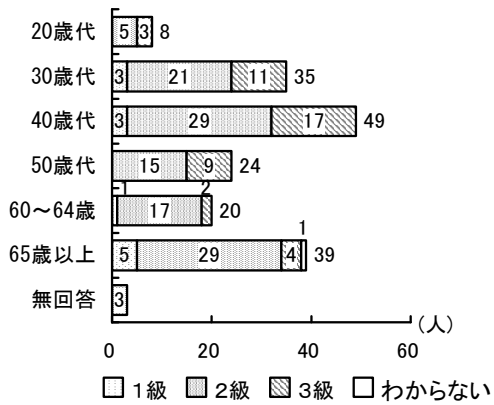
□ 1級 □ 2級 □ 3級 □ 4級 □ 5級 □ 6級 □ わからない

イ 知的障がいのある人

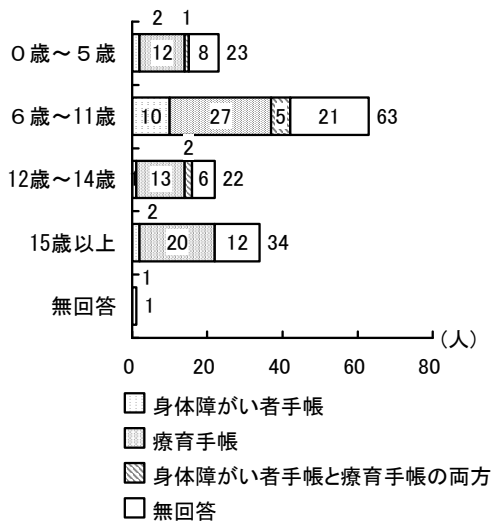


□ A判定 □ B判定 □ C判定 □ わからない

ウ 精神障がいのある人

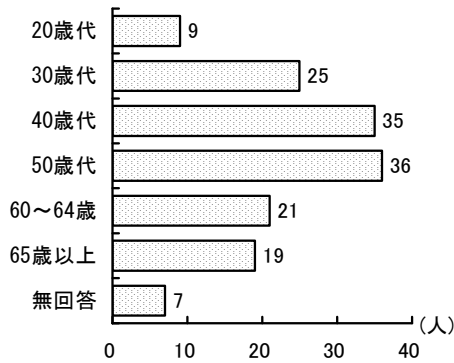


エ 障がいのある児童

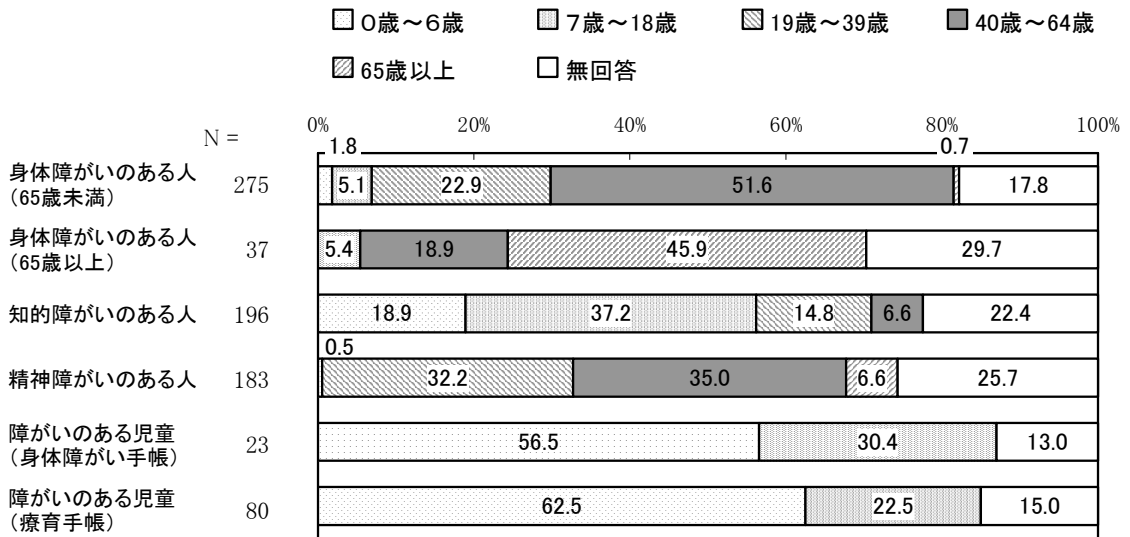


※障がいの重複については、それぞれの障がいに1件ずつ計上しています。

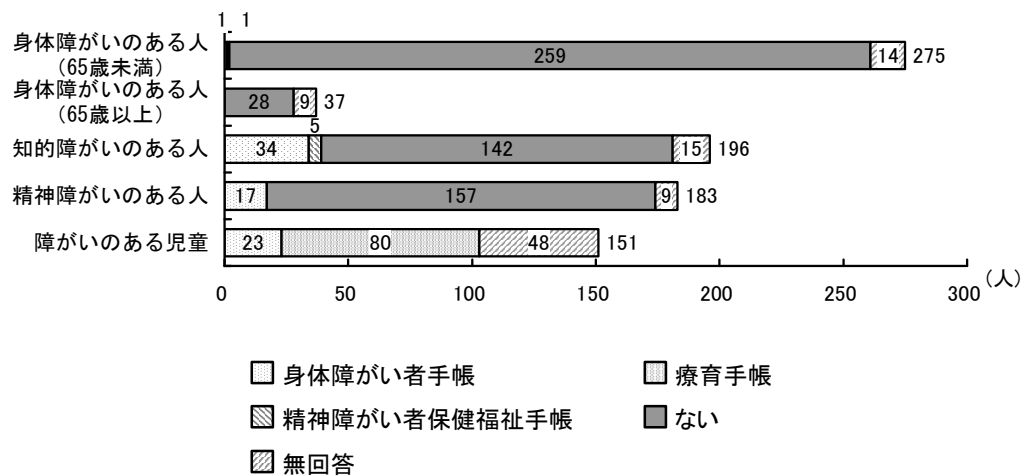
オ 難病患者



(2) 障がい者手帳の取得年齢

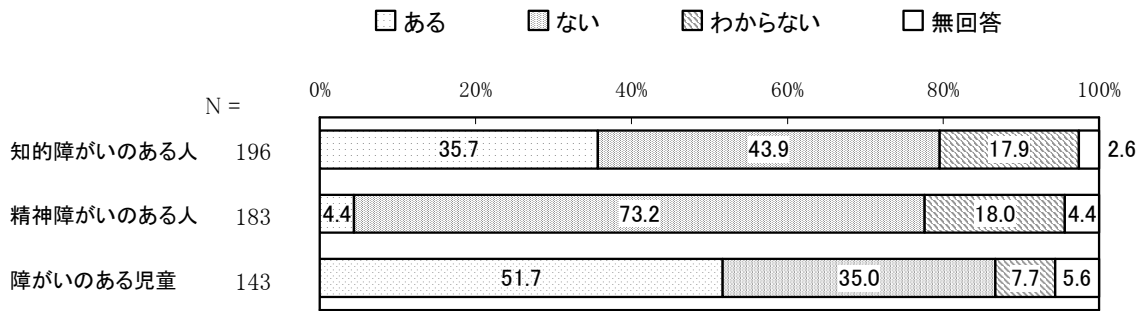


(3) 障がい者手帳の重複状況

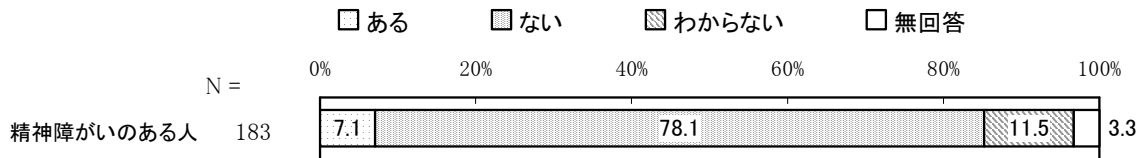


※所持手帳の重複については、それぞれの手帳に1件ずつ計上しています。

(4) 発達障がいの有無

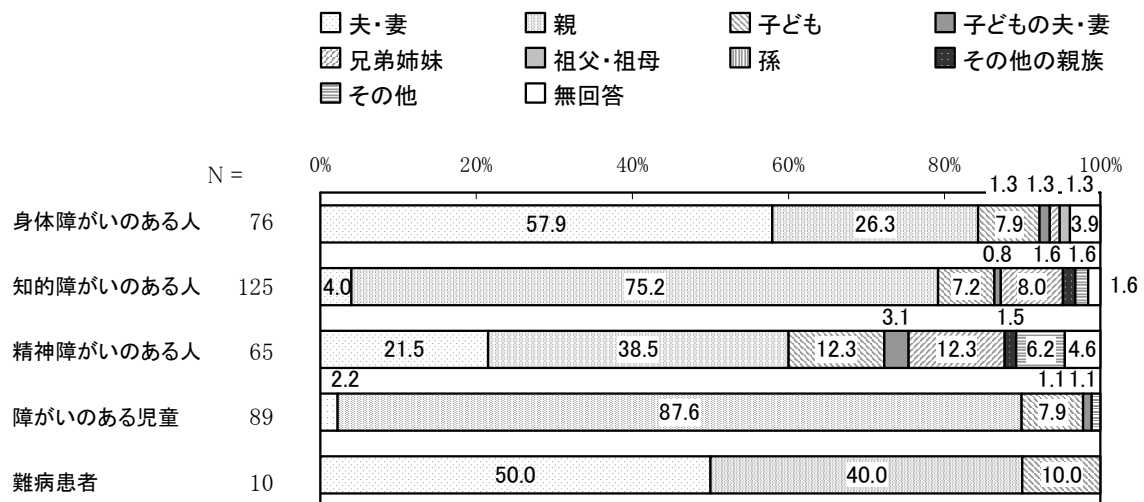


(5) 高次脳機能障がいの有無

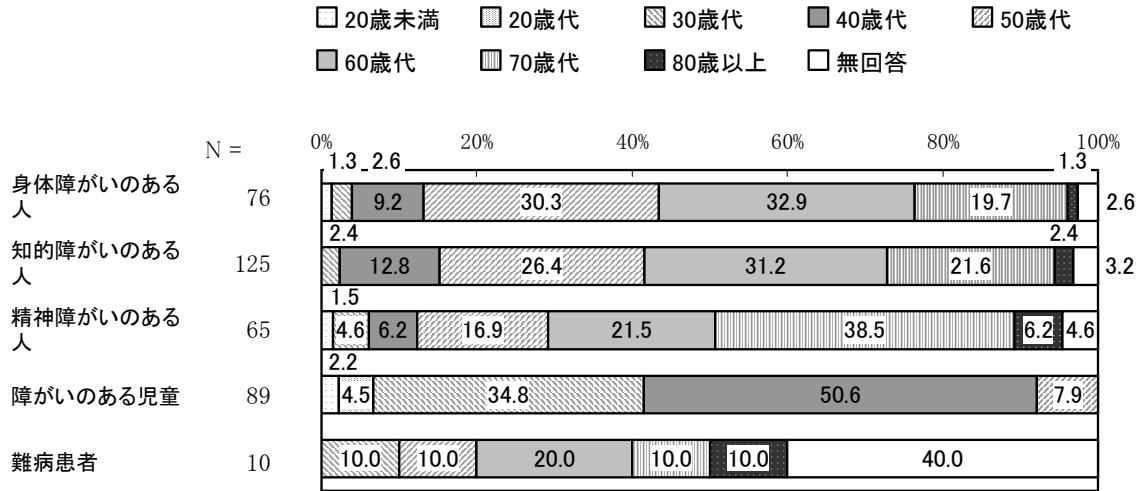


【障がいのある人の家族】

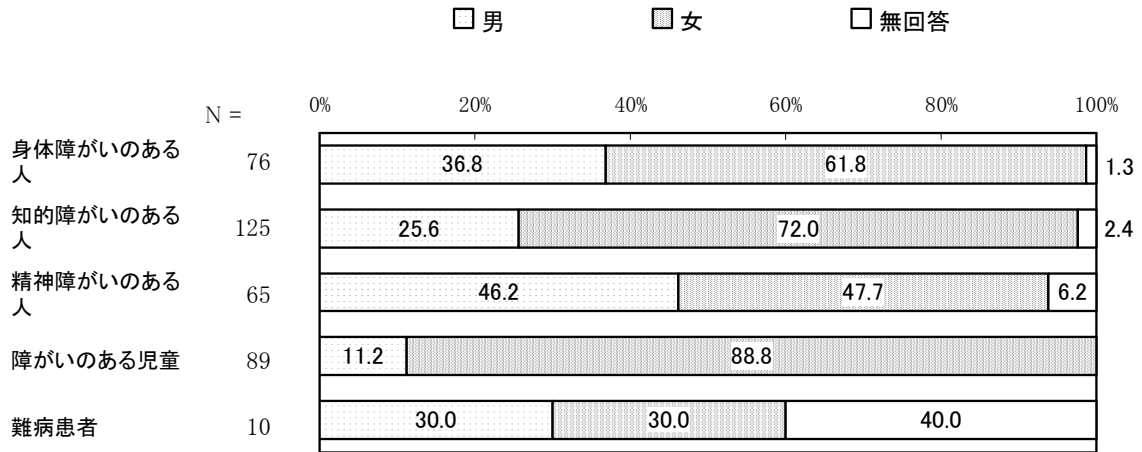
(1) 障がい別・回答者の続柄の状況



(2) 障がい別・年代別の状況

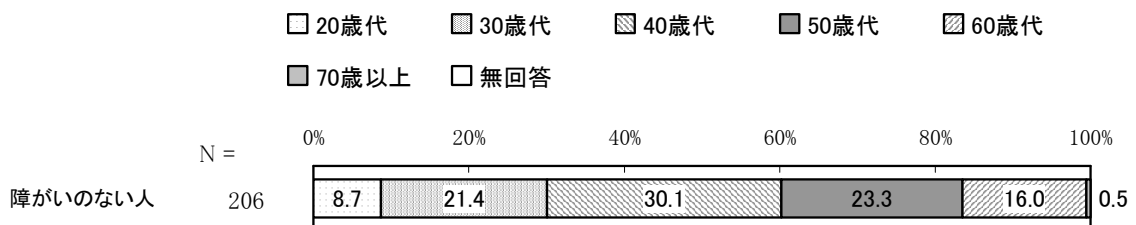


(3) 障がい別・性別の状況



【障がいのない人】

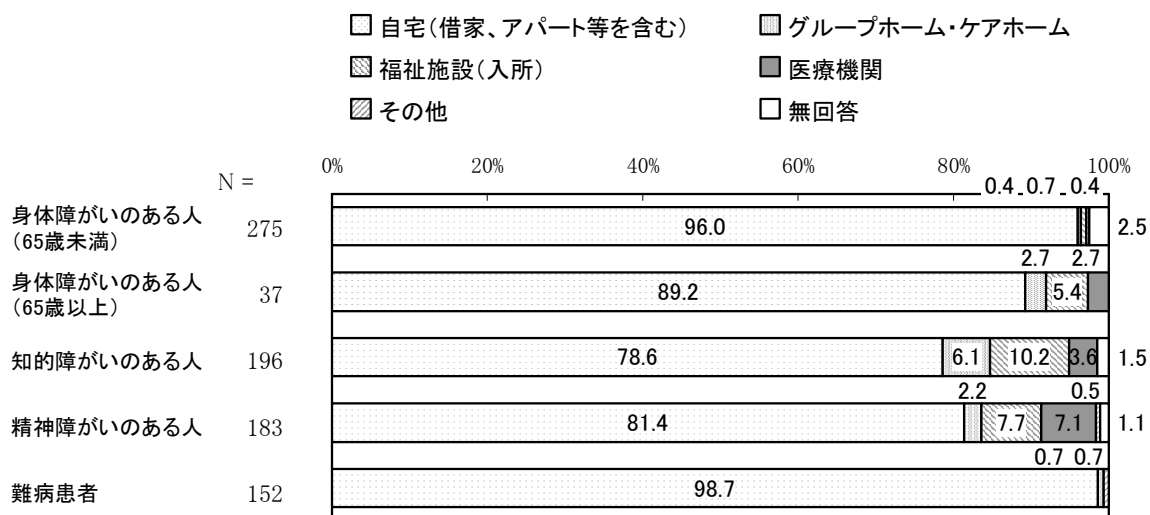
(1) 年代別の状況



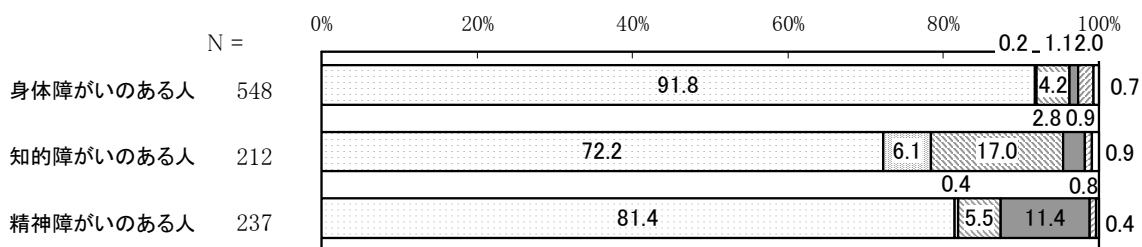
2 日常生活について

問 今、どこでくらしていますか。【身体：問9、知的：問9、精神：問10、難病：問6】

知的障がいのある人で「福祉施設（入所）」の割合が高くなっています。

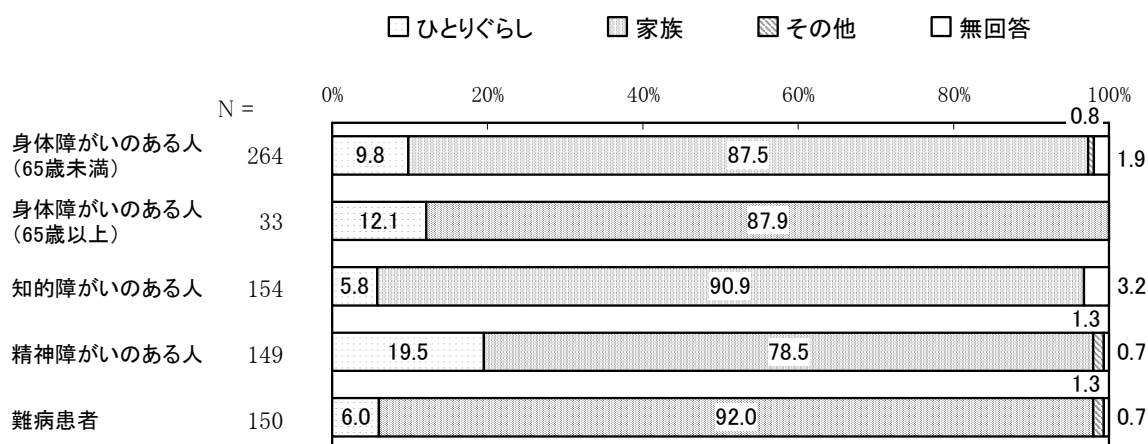


【参考：平成22年度調査結果】

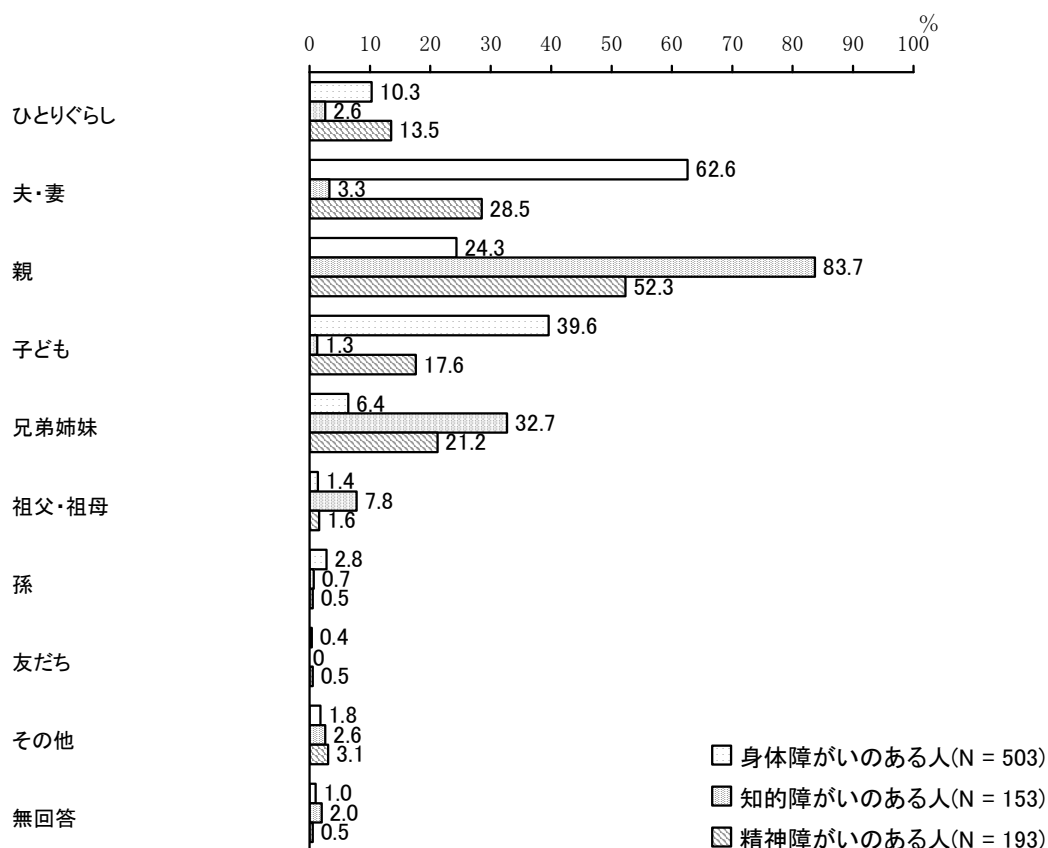


問 今、だれと一緒にくらしていますか。【身体：問 10、知的：問 10、精神：問 11、難病：問 7】（現在、「自宅（借家、アパート等を含む）に住んでいる」と答えた方に聞きました。）

精神障がいのある人で「ひとりぐらし」の割合が高くなっています。

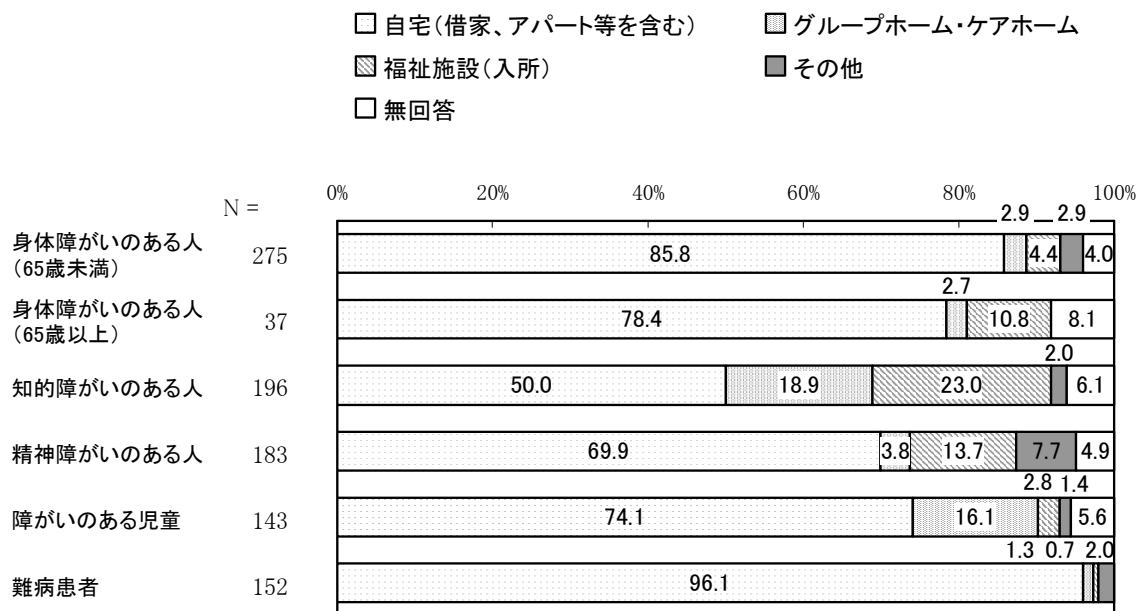


【参考：平成 22 年度調査結果】

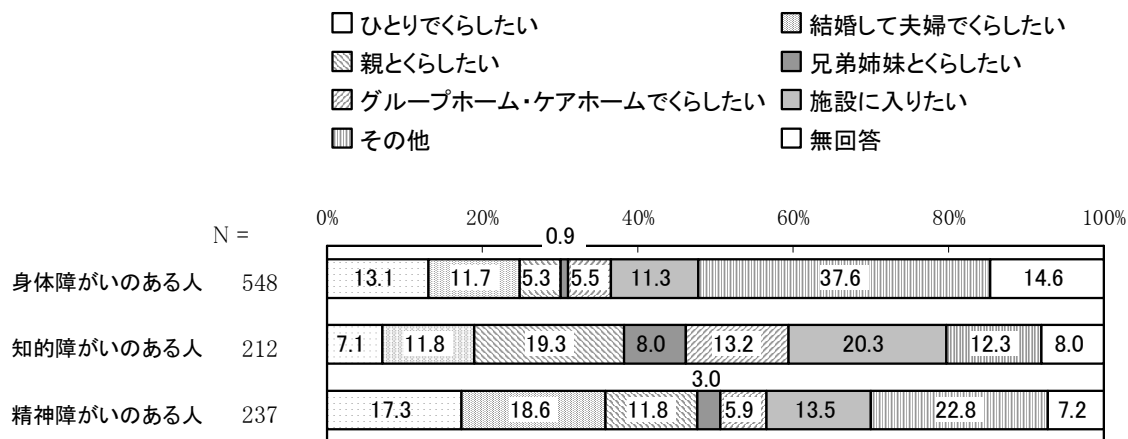


問 将来どこで暮らしたいですか。(お子さんが大人になったらどこで暮らしたいですか。)【身体：問 11、知的：問 11、精神：問 12、児：問 18、難病：問 8】

知的障がいのある人で「グループホーム・ケアホーム」、「福祉施設（入所）」の割合が高くなっています。

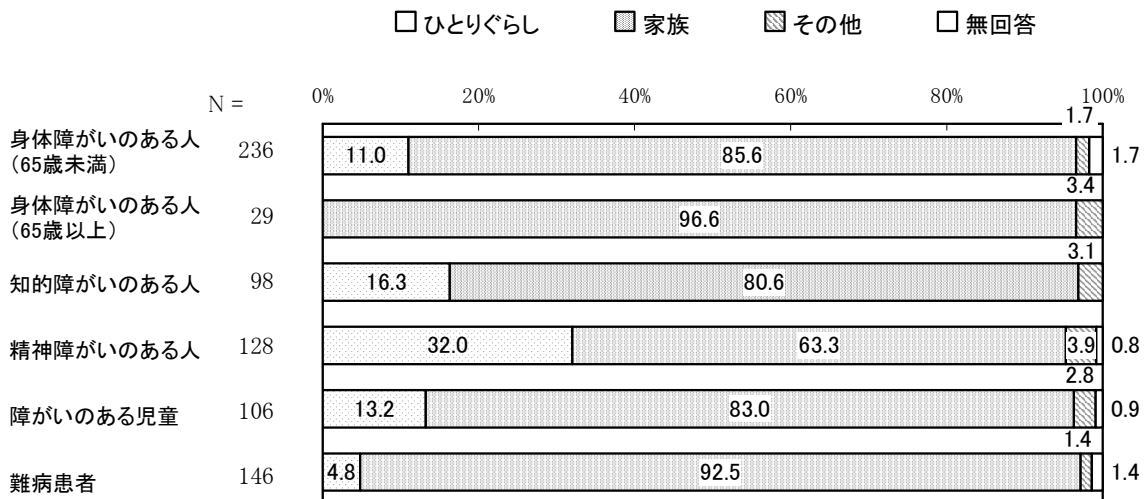


【参考：平成 22 年度調査結果】



問 将来だれと一緒に住みたいですか。(大人になったらだれと一緒に住してもらいたいですか。)【身体：問 12、知的：問 12、精神：問 13、児：問 19、難病：問 9】
 (将来「自宅(借家、アパート等を含む)で暮らしたい」と答えた方に聞きました。)

精神障がいのある人で「ひとりぐらし」の割合が高くなっています。



問 現在、生活をしていく上で支援がなくて困っていることはどのようなことですか。
 あてはまるものにすべてに○をつけてください。【身体：問 13、知的：問 13、精神：
 問 14、難病：問 10】

障がいのある人すべてで「急に体調が悪くなったときの対応」の割合が高くなっています。知的障がいのある人で「銀行や郵便局・役所の利用」、「現金や預金通帳などの管理」、「食事の準備や調理」の割合が高くなっています。

単位：％

	身体障がいのある人 (65歳未満)	身体障がいのある人 (65歳以上)	知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
有効回答数 (件)	275	37	196	183	152
1位	特にない (54.2)	特にない (43.2)	特にない (36.2)	特にない (36.1)	特にない (68.4)
2位	急に体調が悪くなったときの対応 (18.5)	急に体調が悪くなったときの対応 (16.2)	急に体調が悪くなったときの対応 (31.1)	急に体調が悪くなったときの対応 (27.3)	急に体調が悪くなったときの対応 (16.4)
3位	電車・バスなど交通機関の利用 (13.1)	電車・バスなど交通機関の利用 (16.2)	銀行や郵便局・役所の利用 (30.6)	近所の人との会話やつきあい (24.0)	日常の健康管理 (5.9)
4位	部屋の掃除・整理整頓 (9.8)	食事 (13.5)	現金や預金通帳などの管理 (27.6)	規則正しい生活 (22.4)	電車・バスなど交通機関の利用 (5.3)
5位	食事の準備や調理 (8.4)	食事の準備や調理 (13.5)	食事の準備や調理 (25.5)	部屋の掃除・整理整頓 (19.7)	部屋の掃除・整理整頓 (3.9)

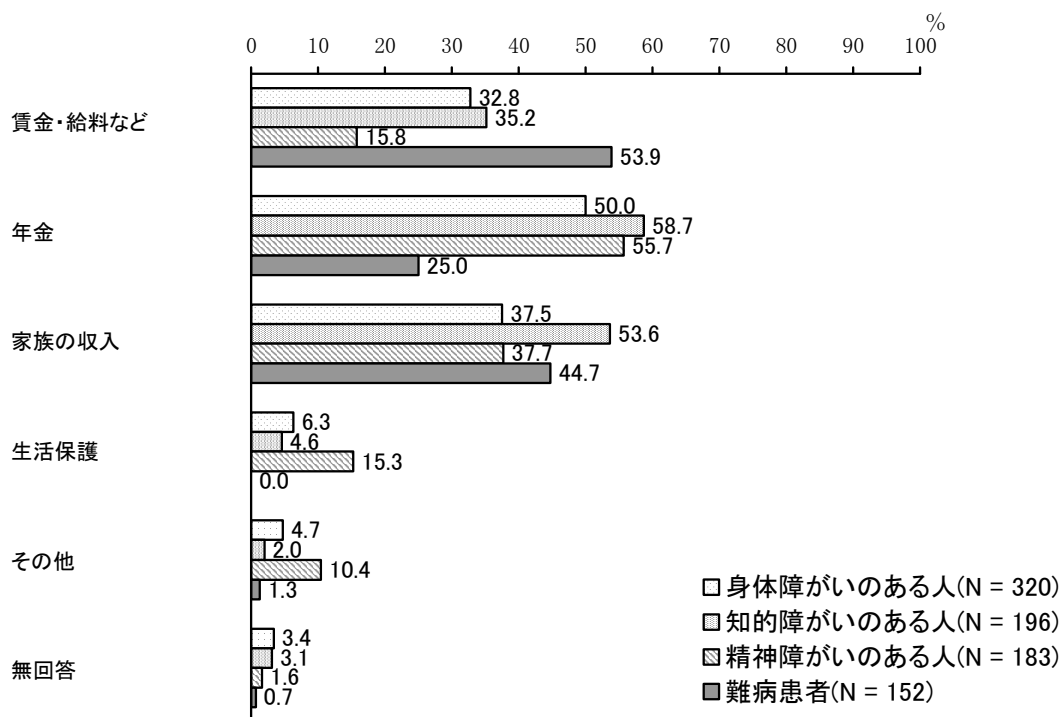
【参考：平成 22 年度調査結果】

単位：％

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人
有効回答数 (件)	548	212	237
1位	特にない (42.5)	現金や預金通帳などの管理ができないこと (59.9)	近所の人との会話やつきあいが少ないこと (44.7)
2位	電車・バスなど交通機関の利用に不便をとまうこと (22.8)	銀行や郵便局・役所の利用に不便をとまうこと (56.1)	部屋の掃除・整理整頓ができないこと (35.0)
3位	日用品などの買い物に不便をとまうこと (16.8)	食事の準備や調理などができないこと (50.9)	食事の準備や調理などができないこと (34.2)
4位	近所の人との会話やつきあいが少ないこと (15.1)	近所の人との会話やつきあいが少ないこと (49.1)	規則正しい生活ができないこと (33.3)
5位	食事の準備や調理などができないこと (14.2)	日用品などの買い物に不便をとまうこと (41.5)	現金や預金通帳などの管理ができないこと (27.0)

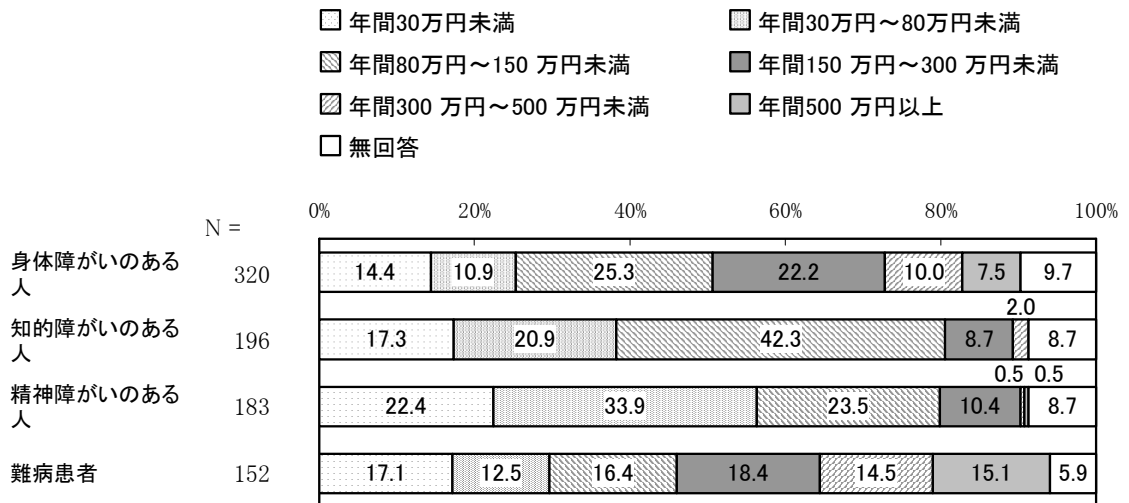
問 日常の生活費はどうしていますか。【身体：問 14、知的：問 14、精神：問 15、難病：問 11】

難病患者以外で「年金」の割合が最も高くなっています。



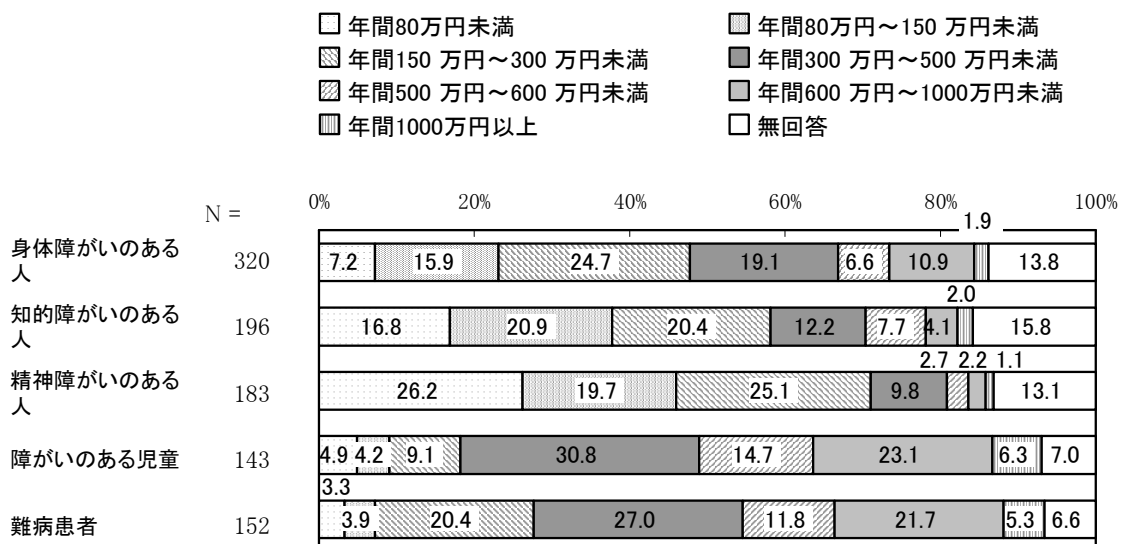
問 今のご本人の収入（税込みの総収入）は、1年にどのくらいありますか。【身体：問15、知的：問15、精神：問16、難病：問12】※収入には工賃・年金を含みます。

精神障がいのある人で「年間80万円未満」（「年間30万円未満」と「年間30万円～80万円未満」の合計）の割合が高くなっています。



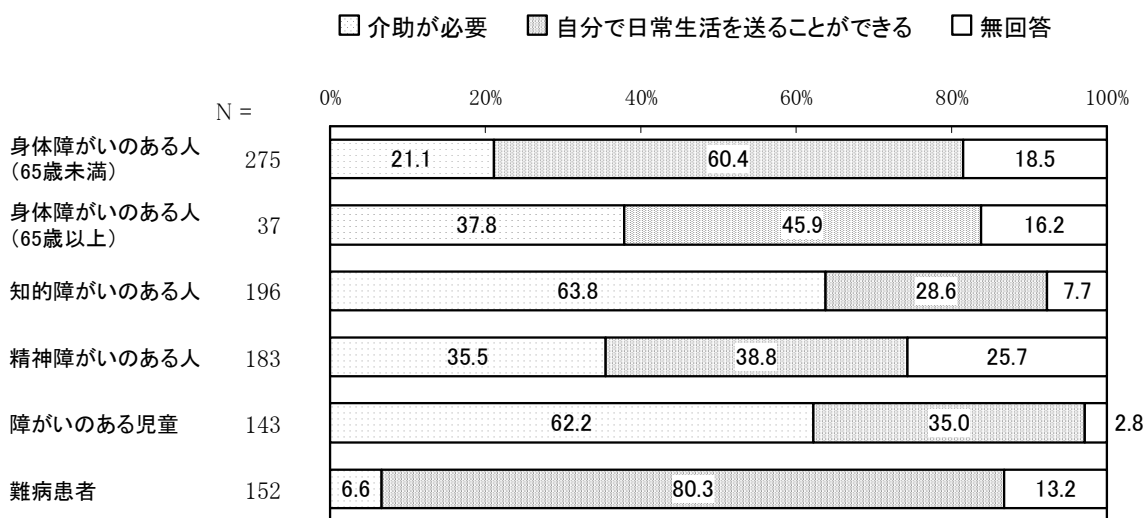
問 今のご本人の世帯収入（税込みの総収入）は、1年にどのくらいありますか。【身体：問16、知的：問16、精神：問17、児：問10、難病：問13】※収入には工賃・年金を含みます。

精神障がいのある人で「年間80万円未満」の割合が高く約3割となっています。



問 日常生活において家族の方などの介助を必要としていますか。【家族：問1】

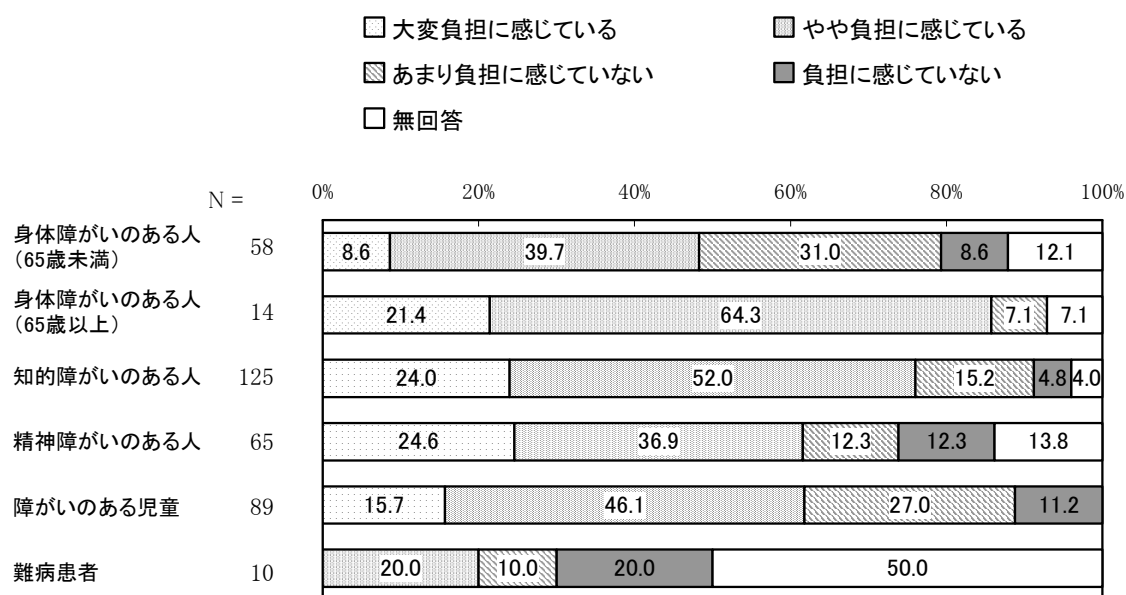
知的障がいのある人、障がいのある児童で介助が必要な人の割合が高くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたが宛名の方ご本人の介助について、どれくらい負担に感じることがありますか。【家族：問7】(「介助が必要」と答えた方に聞きました。)

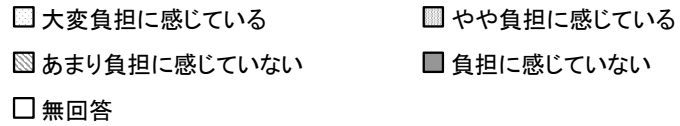
65歳以上の身体障がいのある人で「負担に感じている」(「大変負担に感じている」と「やや負担に感じている」の合計)の割合が高く、8割を超えています。一方で、65歳未満の身体障がいのある人で「負担に感じていない」(「あまり負担に感じていない」と「負担に感じていない」の合計)の割合が高く、約4割となっています。



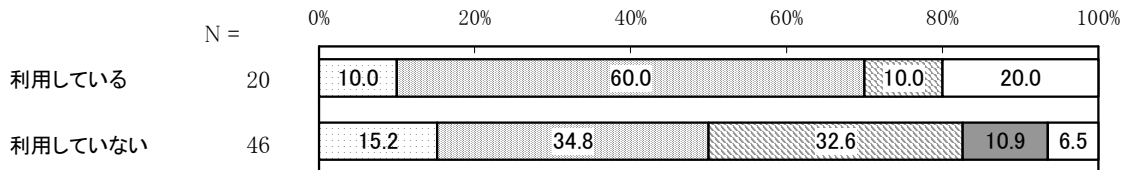
※回答者はご家族の方です。

【障がい福祉サービスの利用の有無別】

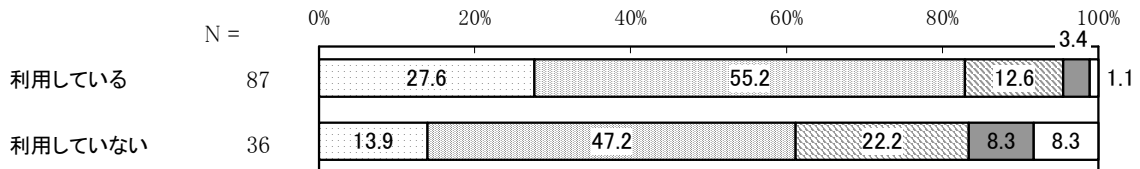
精神障がいのある人以外で福祉サービスを利用していない人に比べ、利用している人で「負担に感じている」の割合が高くなっています。



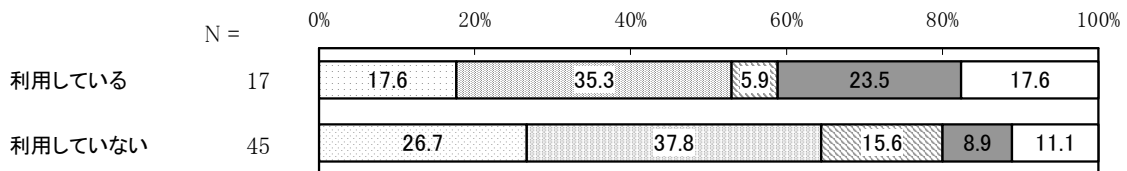
①身体障がいのある人



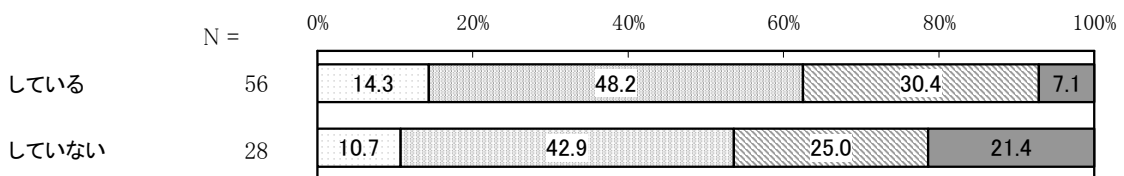
②知的障がいのある人



③精神障がいのある人



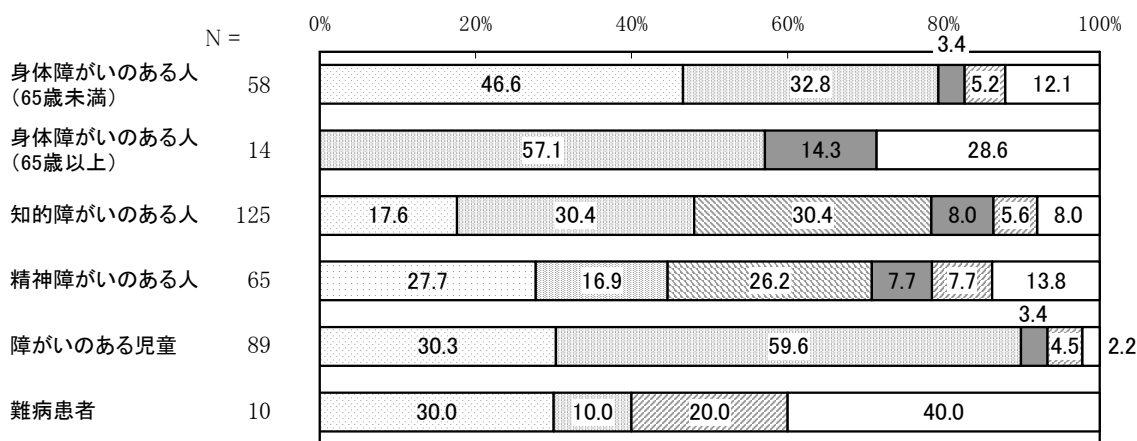
④障がいのある児童



問 今後、あなたは、どのように介助していきたいと思いますか。【家族：問10】
 (「介助が必要」と答えた方に聞きました。)

知的障がいのある人、精神障がいのある人で「施設や病院などに入所・入院させたい」の割合が高く約3割となっています。

- 自宅で家族などを中心に介助していきたい
- 自宅で福祉サービスや介護サービスを利用しながら介助していきたい
- 施設や病院などに入所・入院させたい
- その他
- わからない
- 無回答



※回答者はご家族の方です。

問 あなたが介助する上で困っていることは何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。【家族：問8】
 (「介助が必要」と答えた方に聞きました。)

障がいのある人すべてで「心身が疲れる」、「必要な時に他の人に介助を頼めない」の割合が高くなっています。

単位：%

	身体障がいのある人 (65歳未満)	身体障がいのある人 (65歳以上)	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者
有効回答数 (件)	58	14	125	65	89	10
1位	心身が疲れる (36.2)	心身が疲れる (35.7)	心身が疲れる (53.6)	心身が疲れる (41.5)	心身が疲れる (59.6)	心身が疲れる (30.0)
2位	必要な時に他の人に介助を頼めない (27.6)	必要な時に他の人に介助を頼めない (21.4)	必要な時に他の人に介助を頼めない (42.4)	必要な時に他の人に介助を頼めない (27.7)	必要な時に他の人に介助を頼めない (33.7)	必要な時に他の人に介助を頼めない (10.0)
3位	特にない (25.9)	特にない (14.3)	外出できない (25.6)	相談相手がない (20.0)	外出できない (20.2)	特にない (10.0)
4位	外出できない (17.2)	外出できない (7.1)	特にない (12.8)	特にない (18.5)	特にない (16.9)	その他 (10.0)
5位	相談相手がない (12.1)	相談相手がない (7.1)	相談相手がない (7.2)	外出できない (13.8)	相談相手がない (9.0)	—

※回答者はご家族の方です。

【障がい福祉サービスの利用の有無別】

精神障がいのある人以外で福祉サービスを利用していない人に比べ、利用している人で「外出できない」、「心身が疲れる」の割合が高くなっています。

①身体障がいのある人

単位：％

区分	有効回答数 (件)	外出できない	心身が疲れる	相談相手がない	必要な時に他の人に介助を頼めない	その他	特にない	無回答
利用している	20	25.0	45.0	5.0	25.0	10.0	15.0	15.0
利用していない	46	10.9	30.4	13.0	28.3	10.9	28.3	10.9

②知的障がいのある人

単位：％

区分	有効回答数 (件)	外出できない	心身が疲れる	相談相手がない	必要な時に他の人に介助を頼めない	その他	特にない	無回答
利用している	87	28.7	59.8	4.6	50.6	10.3	10.3	2.3
利用していない	36	16.7	41.7	13.9	25.0	11.1	19.4	13.9

③精神障がいのある人

単位：％

区分	有効回答数 (件)	外出できない	心身が疲れる	相談相手がない	必要な時に他の人に介助を頼めない	その他	特にない	無回答
利用している	17	11.8	29.4	17.6	29.4	5.9	17.6	17.6
利用していない	45	13.3	44.4	20.0	28.9	11.1	20.0	11.1

④障がいのある児童

単位：％

区分	有効回答数 (件)	外出できない	心身が疲れる	相談相手がない	必要な時に他の人に介助を頼めない	その他	特にない	無回答
利用している	56	21.4	64.3	8.9	37.5	5.4	12.5	5.4
利用していない	28	14.3	42.9	10.7	25.0	3.6	28.6	—

問 あなたは、介助する上で困ったとき、だれに相談していますか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。【家族：問9】（「介助が必要」と答えた方に聞きました。）

障がいのある人すべてで「家族」の割合が最も高くなっています。

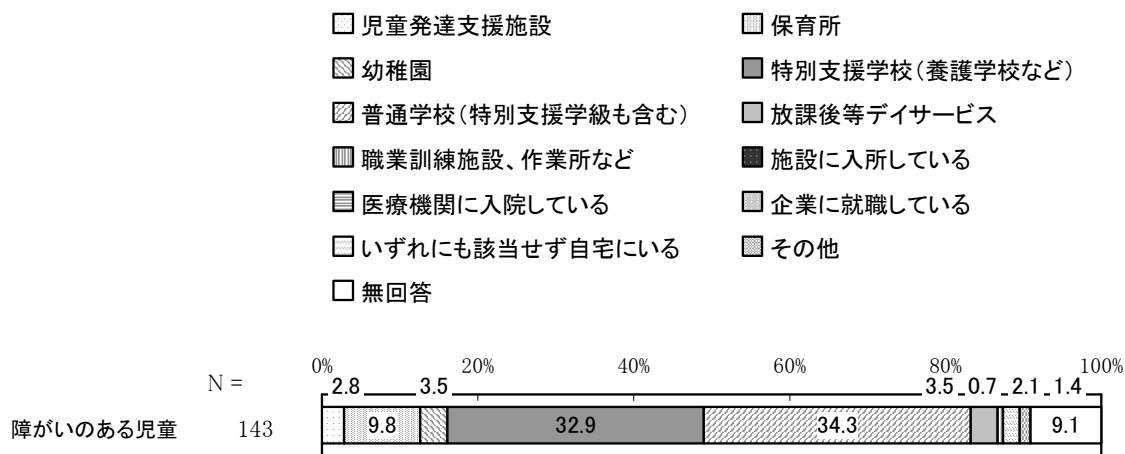
単位：%

区分	有効回答数 (件)	家族	友人・知人	専門機関	いない	その他	無回答
身体障がいのある人 (65歳未満)	58	56.9	17.2	17.2	13.8	13.8	10.3
身体障がいのある人 (65歳以上)	14	71.4	21.4	28.6	—	—	7.1
知的障がいのある人	125	60.0	27.2	27.2	11.2	5.6	4.8
精神障がいのある人	65	50.8	13.8	38.5	16.9	4.6	9.2
障がいのある児童	89	69.7	47.2	33.7	9.0	12.4	—
難病患者	10	40.0	—	10.0	10.0	10.0	40.0

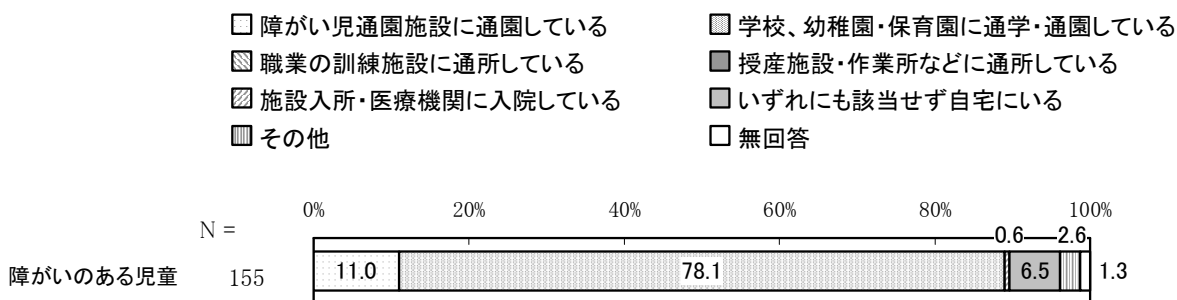
※回答者はご家族の方です。

問 現在のお子さんの主な日中の居場所について、お答えください。【児：問 14】

「普通学校（特別支援学級も含む）」の割合が最も高く、次いで「特別支援学校（養護学校など）」となっており、6割以上が学校へ通っています。一方で、「いずれにも該当せず自宅にいる」の割合がわずかとなっています。

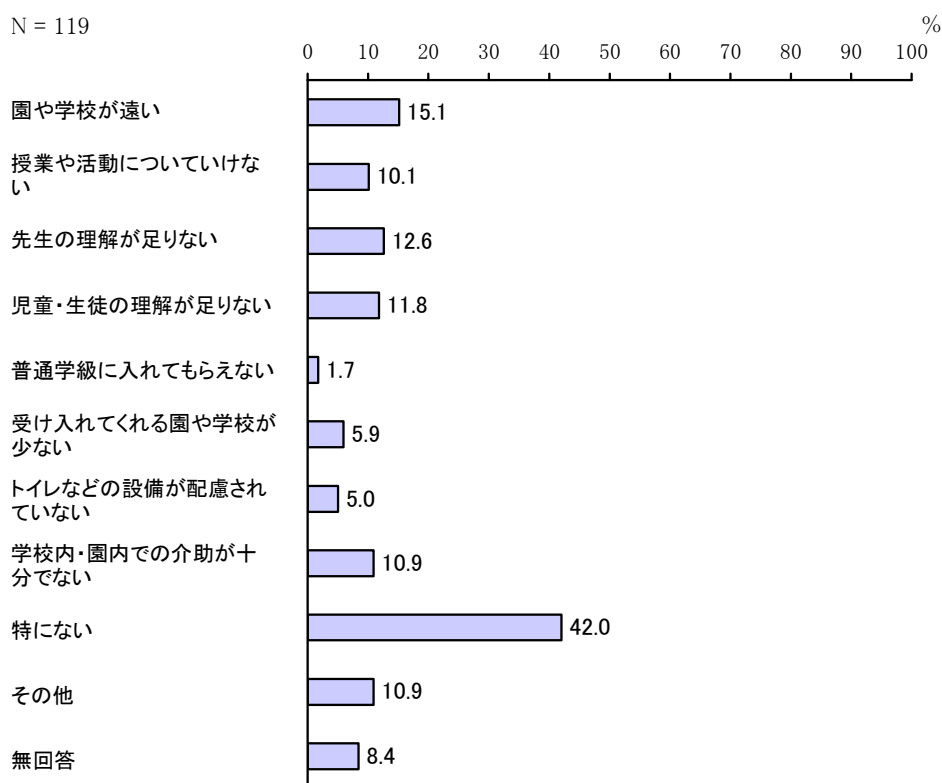


【参考：平成 22 年度調査結果】

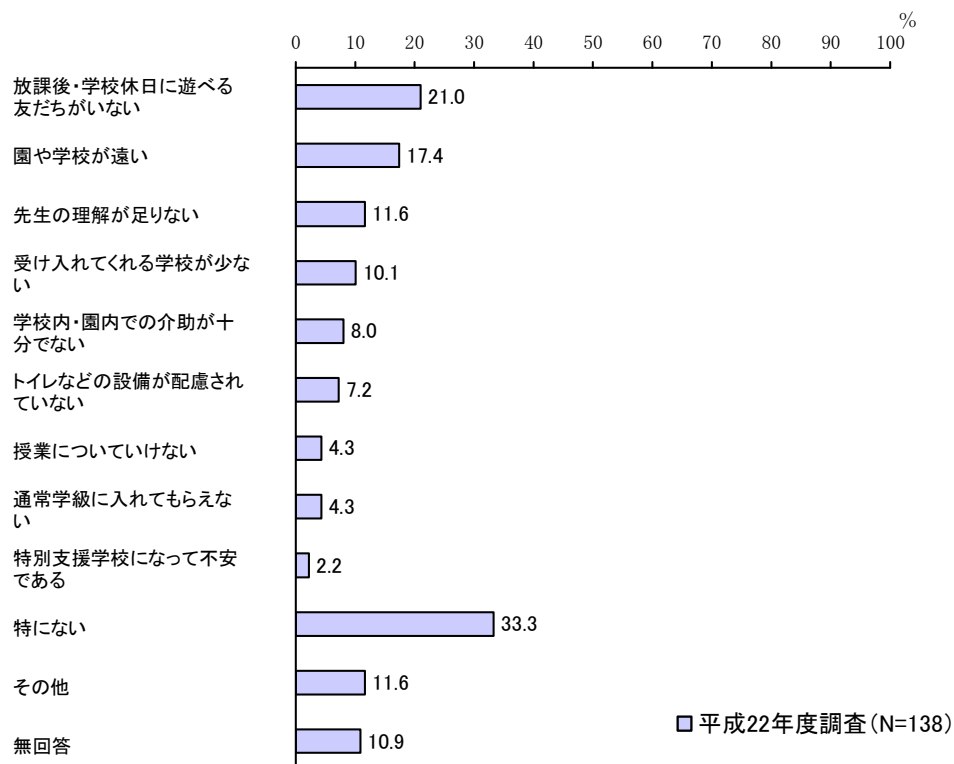


問 現在のお子さんの主な日中の居場所について、お子さんが困っていることは何かありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【児：問 15】(児童発達支援施設、保育所、幼稚園、特別支援学校(養護学校など)、普通学校(特別支援学級も含む)に答えた方に聞きました。)

「特にない」を除くと、「園や学校が遠い」の割合が最も高く、次いで「先生の理解が足りない」、「児童・生徒の理解が足りない」となっています。

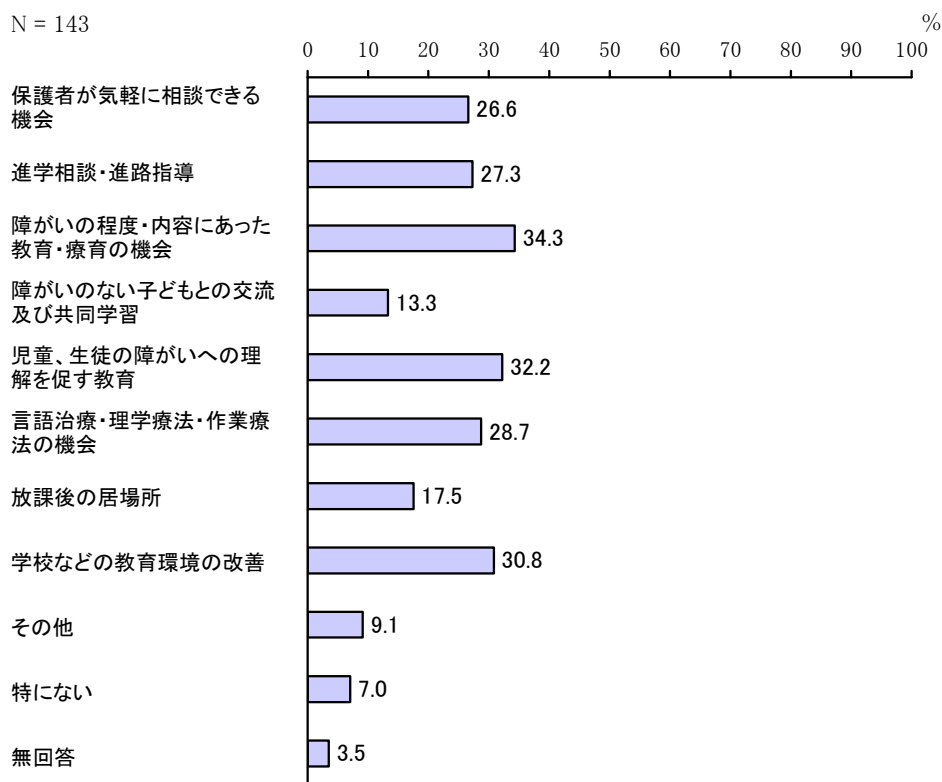


【参考：平成 22 年度調査結果】

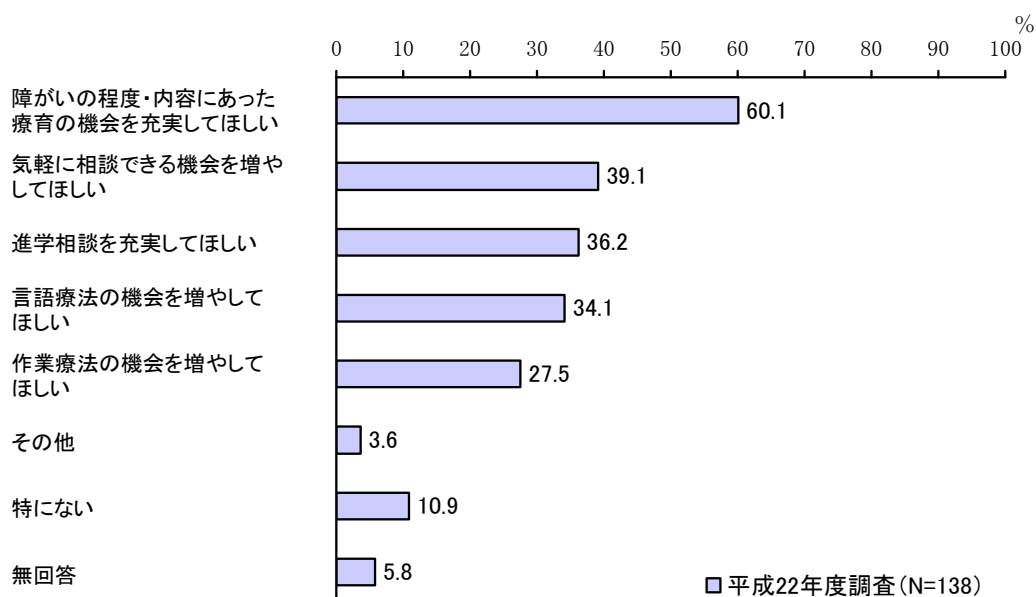


問 お子さんのために今後、充実させてほしい支援は何ですか。主なものに3つまで○をつけてください。【児：問16】

「障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会」や「児童・生徒の障がいへの理解を促す教育」、「学校などの教育環境の改善」の割合が高くなっています。



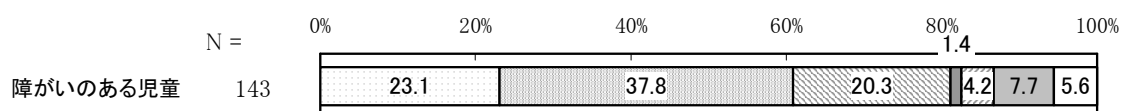
【参考：平成22年度調査結果】



問 お子さんが18歳になったときのことについて何かお考えですか。【児：問17】

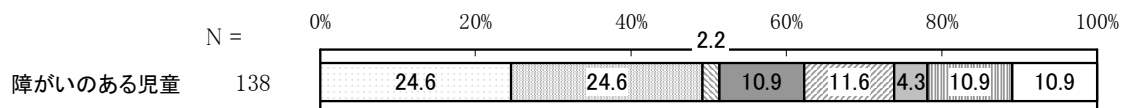
「就職したい、している」の割合が高くなっています。

- 学校・大学・専門学校などに進学したい、している
- 就職したい、している
- 福祉施設に通所したい、している
- 福祉施設に入所したい、している
- その他
- 特に考えていない
- 無回答



【参考：平成22年度調査結果】

- 普通の学校・大学・専門学校などに進学したい
- 養護学校・盲学校・ろう学校などに進学したい
- 福祉施設に入所したい
- 福祉施設に通所したい
- 就職したい
- その他
- 特に考えていない
- 無回答



問 悩みや困ったことを相談する相手は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 20、知的：問 20、精神：問 21、児：問 20、難病：問 15】

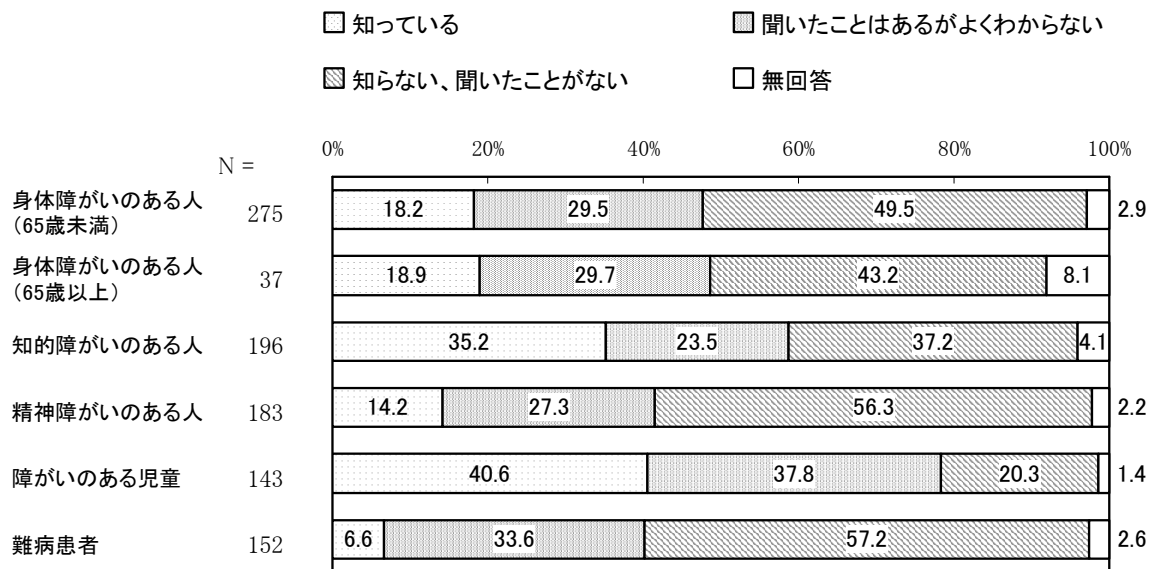
障がいのある人すべてで「家族」の割合が最も高くなっています。また、障がいのある児童で「友人・知人」の割合が約5割となっています。

単位：%

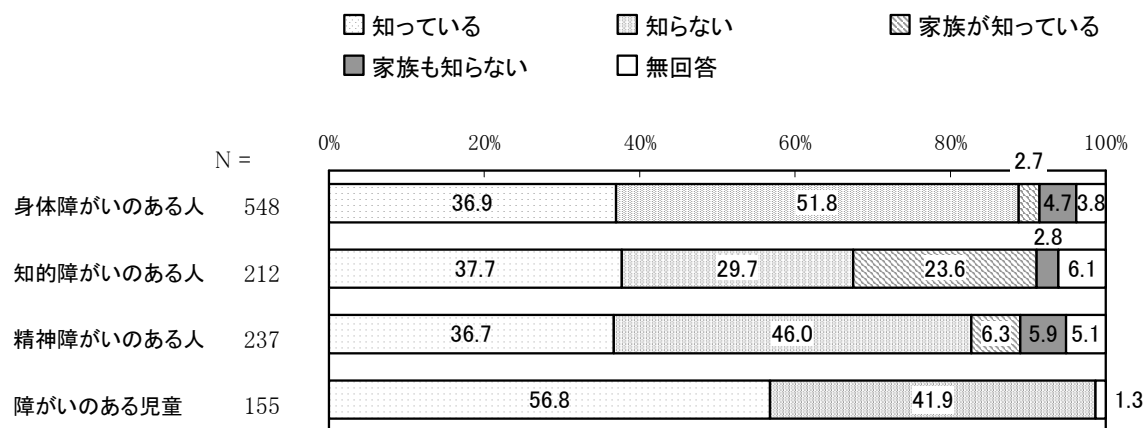
区分	有効回答数 (件)	家族	同じ障がいがある人	同じ病状の人	友人・知人	同じ障がいがある(病状の)人以外の友人・知人	病院や施設の職員、市の窓口、相談支援センターなど	いない	その他	無回答
身体障がいのある人 (65歳未満)	275	79.3	9.5			23.3	16.7	4.7	4.7	4.0
身体障がいのある人 (65歳以上)	37	86.5	8.1			8.1	27.0	2.7	5.4	—
知的障がいのある人	196	71.9	7.7			9.2	38.3	6.1	5.1	4.1
精神障がいのある人	183	55.7	14.2			15.3	42.1	7.7	9.8	2.7
障がいのある児童	143	76.9			50.3		39.9	5.6	16.8	2.1
難病患者	152	81.6		9.9		23.7	24.3	2.6	4.6	2.6

問 障がい者生活支援センター（春日苑、かすがい、JHN まある、あつとわん、しゃきょう）について知っていますか。【身体：問 21、知的：問 21、精神：問 22、児：問 21、難病：問 16】

知的障がいのある人、障がいのある児童で「知っている」の割合が高く、3割を超えています。一方で、精神障がいのある人、難病患者で「知らない、聞いたことがない」の割合が高く、約6割となっています。

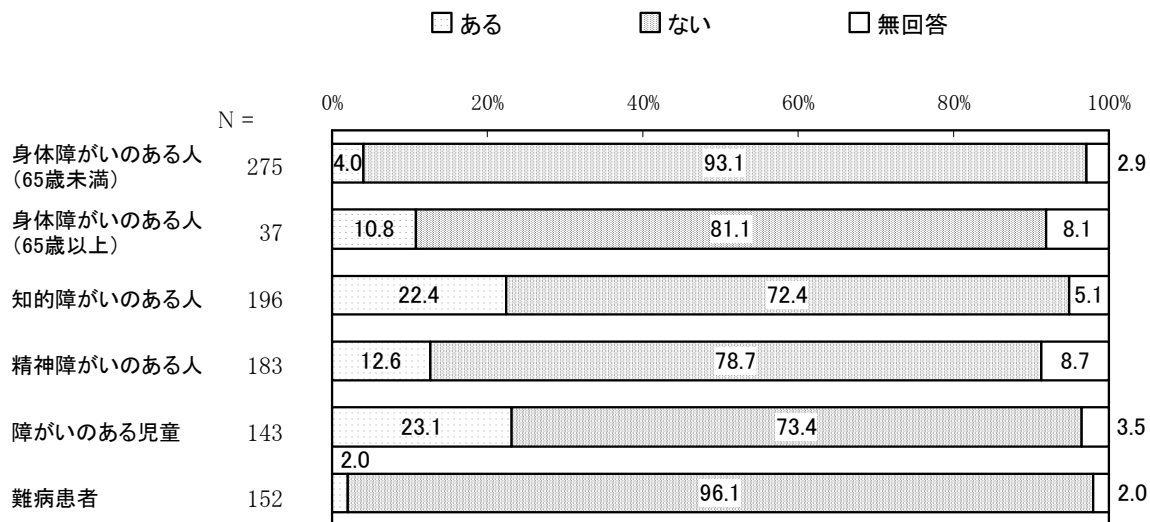


【参考：平成 22 年度調査結果】

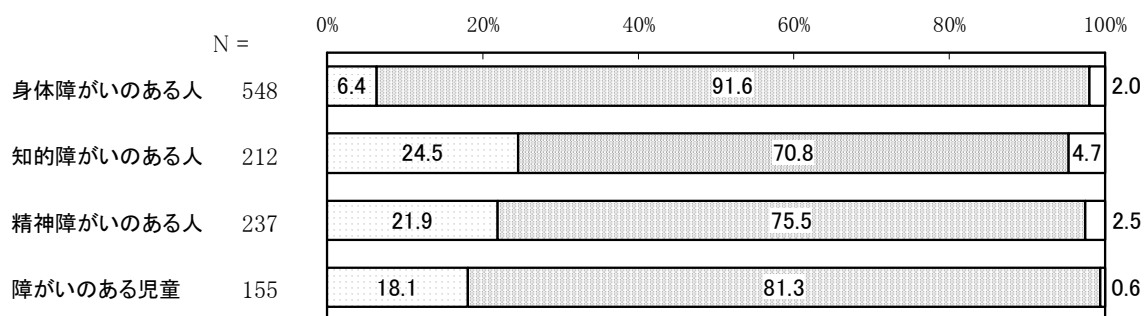


問 障がい者生活支援センターに相談をしたことがありますか。【身体：問 22、知的：問 22、精神：問 23、児：問 22、難病：問 17】

障がい者生活支援センターの認知度と比例して、知的障がいのある人、障がいのある児童の割合が高くなっています。

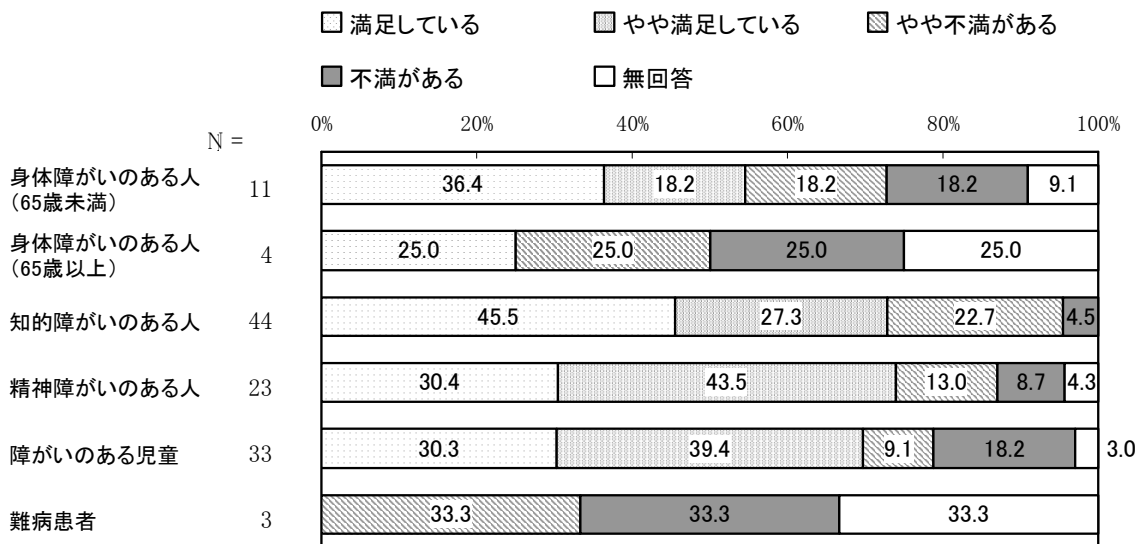


【参考：平成 22 年度調査結果】

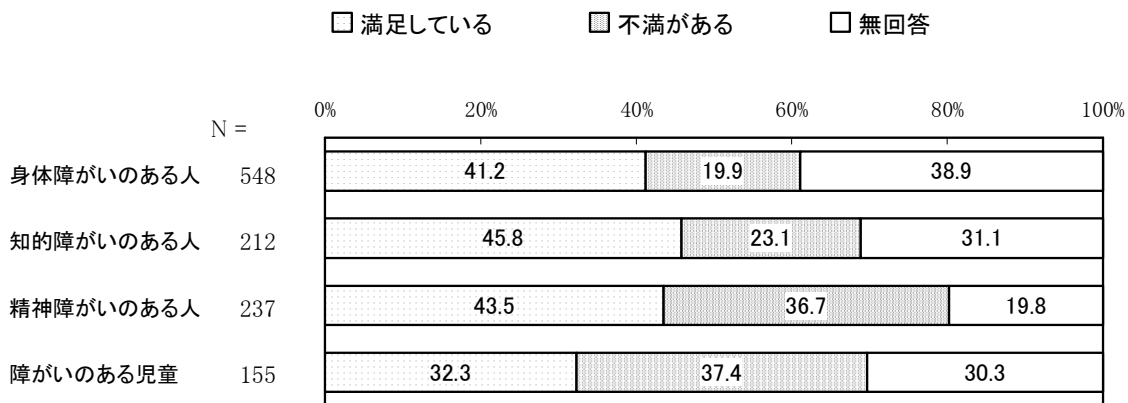


問 障がい者生活支援センターに相談したとき、満足しましたか。【身体：問 23、知的：問 23、精神：問 24、児：問 23、難病：問 18】
 （「障がい者生活支援センターに相談したことがある」と答えた方に聞きました。）

知的障がいのある人、精神障がいのある人、障がいのある児童で「満足している」（「満足している」と「やや満足している」の合計）の割合が高く、約7割となっています。

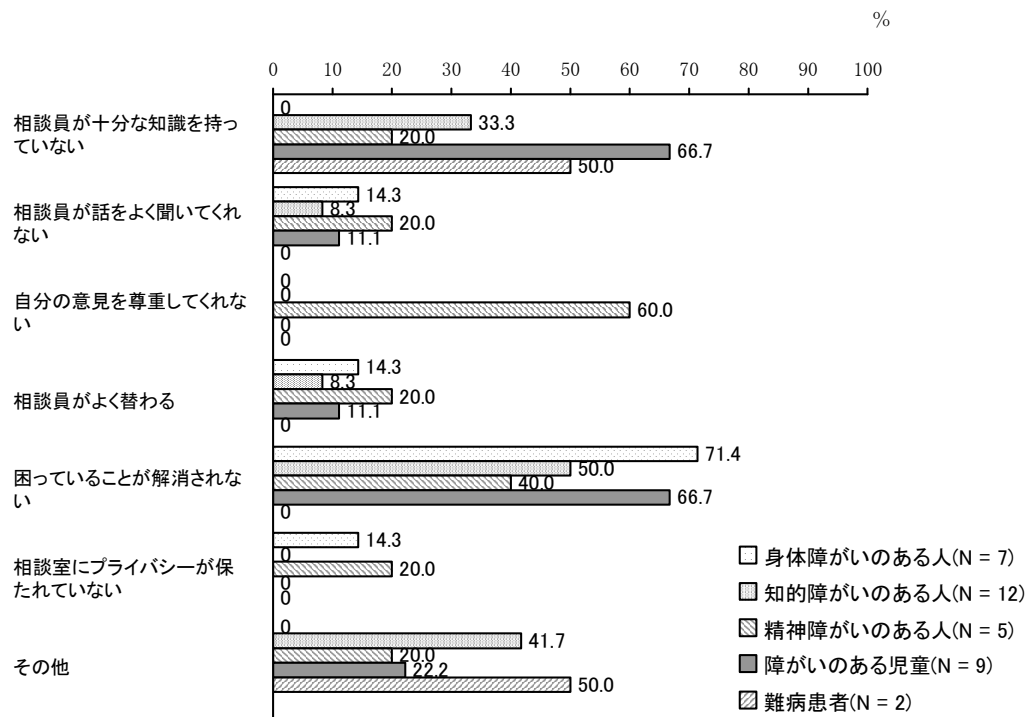


【参考：平成 22 年度調査結果】

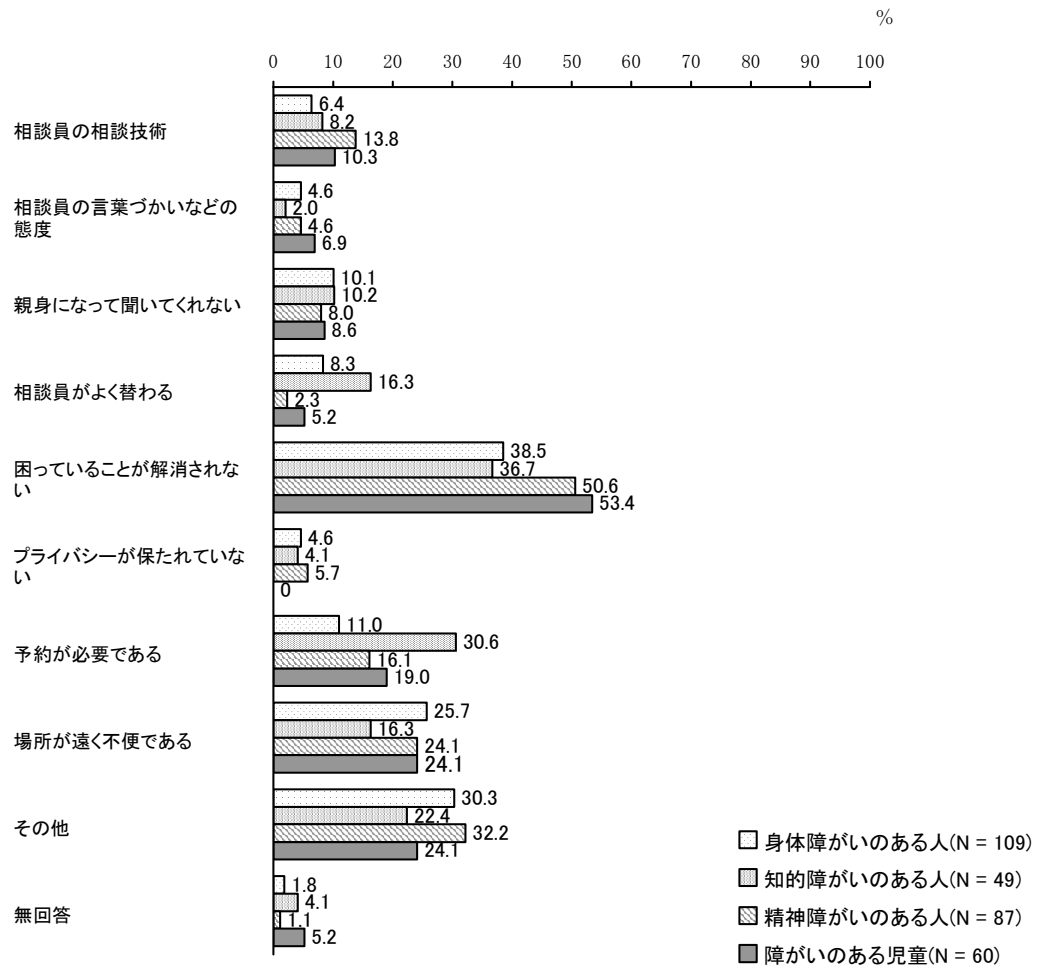


問 どのような点に不満を感じましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
 【身体：問 24、知的：問 24、精神：問 25、児：問 24、難病：問 19】
 (「やや不満がある」「不満がある」と答えた方に聞きました。)

全体的に「困っていることが解消されない」の割合が高くなっています。



【参考：平成 22 年度調査結果】



問 障がい者生活支援センターで相談していること、相談したいと思うことは何ですか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 25、知的：問 25、精神：問
 26、児：問 25、難病：問 20】

障がいのある児童で「就労に関すること」、「日常生活に関すること」の割合が高くなっています。

単位：％

	身体障がいのある人 (65歳未満)	身体障がいのある人 (65歳以上)	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者
有効回答数(件)	275	37	196	183	143	152
1位	特にな (54.9)	特にな (45.9)	特にな (31.6)	特にな (33.3)	就労に関する こと (47.6)	特にな (65.8)
2位	漠然と不安に思 うこと (12.4)	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (16.2)	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (26.0)	就労に関する こと (25.7)	日常生活に関す ること (32.9)	漠然と不安に思 うこと (11.8)
3位	日常生活に関す ること (11.6)	日常生活に関す ること (10.8)	日常生活に関す ること (23.0)	漠然と不安に思 うこと (25.7)	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (31.5)	就労に関する こと (9.2)
4位	就労に関する こと (11.3)	漠然と不安に思 うこと (5.4)	漠然と不安に思 うこと (18.4)	日常生活に関す ること (18.0)	園や学校での対 応のこと (30.8)	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (6.6)
5位	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (10.5)	成年後見制度や 虐待など権利擁 護に関する こと (2.7)	就労に関する こと (15.3)	障がい福祉サー ビス（ヘルパー や施設）の利用 に関する こと (14.2)	漠然と不安に思 うこと (26.6)	日常生活に関す ること (5.9)

【参考：平成 22 年度調査結果】

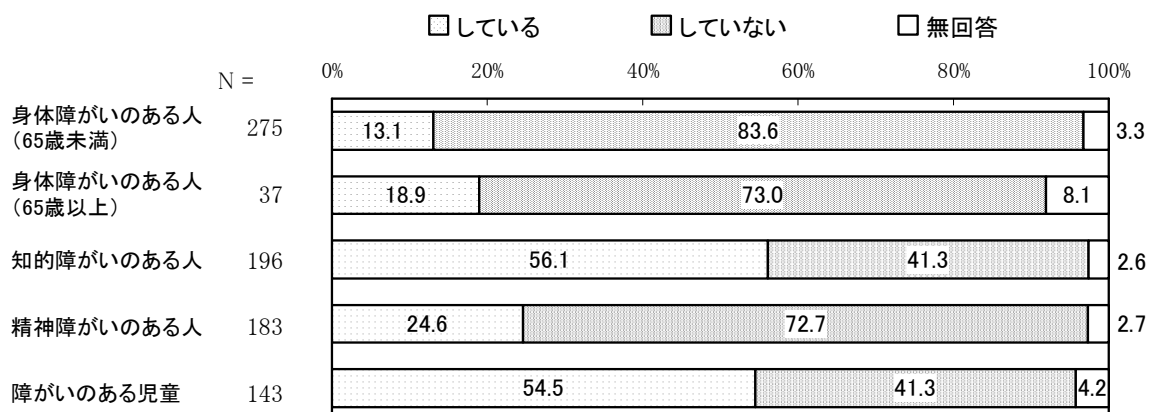
単位：％

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童
有効回答数(件)	548	212	237	155
1位	福祉サービスの利用に 関すること (36.7)	福祉サービスの情報に 関すること (32.1)	日常生活に関する こと (40.1)	就学に関する こと (47.1)
2位	福祉サービスの情報に 関すること (33.9)	福祉サービスの利用に 関すること (31.6)	福祉サービスの情報に 関すること (35.0)	福祉サービスの情報に 関すること (45.2)
3位	特にな (32.1)	特にな (26.4)	福祉サービスの利用に 関すること (33.3)	福祉サービスの利用に 関すること (44.5)
4位	日常生活に関する こと (22.6)	毎日の暮らしに関す ること (24.5)	就労支援に関する こと (26.2)	日常生活に関する こと (34.2)
5位	就労支援に関する こと (11.7)	はたらくことの支援に 関すること (15.6)	特にな (16.0)	成年後見制度や虐待など 権利擁護に関する こと (18.1)

3 障がい福祉サービスについて

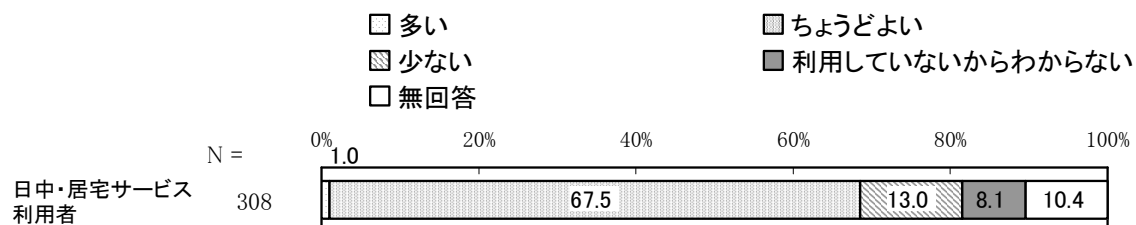
問 現在、障がい福祉サービスを利用していますか。【身体：問 17、知的：問 17、精神：問 18、児：問 11】

知的障がいのある人、障がいのある児童で「している」の割合が高くなっています。



問 市が支給決定をしている時間数又は日数は、いかがですか。【利用者：日中・居宅問 1】

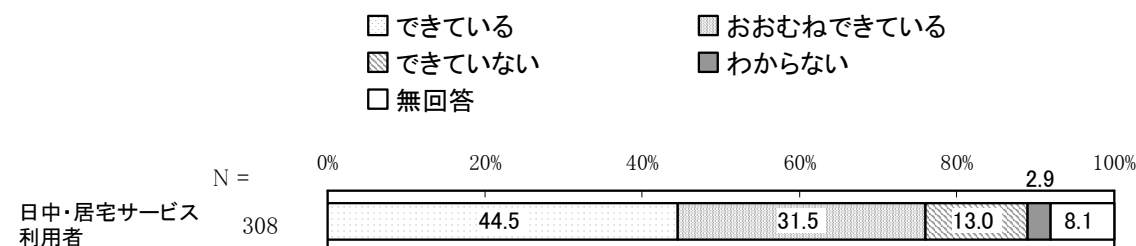
「ちょうどよい」の割合が高くなっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 利用したい曜日、時間にサービスを利用できていますか。【利用者：日中・居宅問 4】

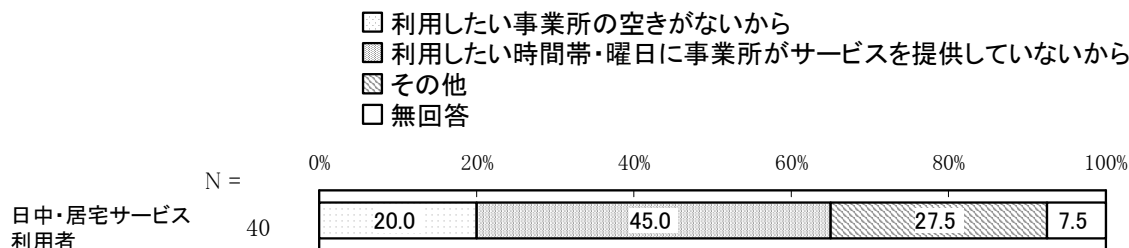
「できている」（「できている」と「おおむねできている」の合計）の割合が高く、約8割となっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 理由を次から選んでください。【利用者：日中・居宅問4-2】
 (「できていない」と答えた方に聞きました。)

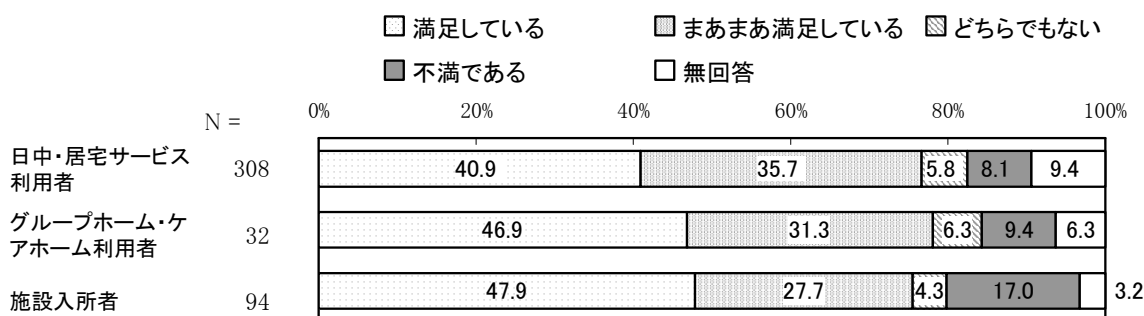
「利用したい時間帯・曜日に事業所がサービスを提供していないから」の割合が高くなっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 現在、利用しているサービスに満足していますか。【利用者：日中・居宅問5、グループホーム問1、施設問1】

「満足している」(「満足している」と「まあまあ満足している」の合計)の割合が7割を超えています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 何が不満ですか。【利用者：日中・居宅問5、グループホーム問1-1、施設問1-1】
 (「不満である」と答えた方に聞きました。)

グループホーム・ケアホーム利用者で「他の利用者との人間関係」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	施設の設備	員の態度	ヘルパー・支援員の技術	送迎の時間	他の利用者との人間関係	家賃、利用料金	その他	無回答
日中・居宅サービス利用者	25	12.0	28.0	40.0	12.0	-	-	44.0	4.0
グループホーム・ケアホーム利用者	3	33.3	33.3	-	-	66.7	-	-	-
施設入所者	16	12.5	-	-	-	18.8	-	50.0	25.0

※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 現在、福祉サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 18、知的：問 18、精神：問 19、児：問 12】
 （「障がい福祉サービスを利用していない」と答えた方に聞きました。）

障がいのある人すべてで「家族などの介助で十分だから」の割合が最も高くなっています。精神障がいのある人で「困っていることを解消するサービスがないから」、「他人の世話になるのは抵抗を感じるから」の割合が他の障がいのある人に比べて高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	福祉サービスを利用する金銭的な余裕がないから	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから	その他	無回答
身体障がいのある人（65歳未満）	230	62.2	4.8	4.8	4.8	3.5	2.6	0.9	23.9	6.1
身体障がいのある人（65歳以上）	27	70.4	—	7.4	11.1	3.7	3.7	—	11.1	18.5
知的障がいのある人	81	66.7	4.9	7.4	3.7	3.7	3.7	1.2	14.8	13.6
精神障がいのある人	133	36.1	18.8	16.5	19.5	13.5	8.3	—	26.3	6.0
障がいのある児童	59	57.6	10.2	6.8	1.7	1.7	1.7	1.7	30.5	3.4

【参考：平成 22 年度調査結果】

単位：％

区分	有効回答数（件）	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	福祉サービスを利用する金銭的な余裕がないから	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから	その他	わからない	無回答
身体障がいのある人	240	44.6	7.5	6.3	5.4	3.8	2.5	0.4	27.5	15.4	3.8
知的障がいのある人	58	46.6	5.2	10.3	1.7	3.4	—	3.4	15.5	22.4	3.4
精神障がいのある人	101	22.8	17.8	17.8	9.9	10.9	4.0	5.0	25.7	22.8	3.0
障がいのある児童	70	54.3	11.4	8.6	1.4	4.3	2.9	4.3	31.4	—	2.9

問 今後1年以内に障がい福祉サービスを利用したいですか。利用したいと思うものすべてに○をつけてください。【身体：問19、知的：問19、精神：問20、児：問13、難病：14】（「障がい福祉サービスを利用していない」と答えた方に聞きました。）

全体的に「相談支援」の割合が高くなっています。また、身体障がいのある人（65歳以上）、知的障がいのある人で「短期入所」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	介護 居宅介護・ 重度訪問	移動 支援・行動 援護・同行 援護	短期 入所	生活 介護	地域 活動支援 センター	B 就労移行 支援・ 就労継続 支援A・	グループ ホーム ケアホーム	相談 支援
身体障がいのある人 (65歳未満)	230	0.4	3.0	1.3	1.3	3.9	4.3	1.7	8.7
身体障がいのある人 (65歳以上)	27	7.4	14.8	14.8	3.7	3.7	—	3.7	7.4
知的障がいのある人	81	3.7	7.4	13.6	7.4	4.9	7.4	9.9	23.5
精神障がいのある人	133	7.5	6.8	8.3	5.3	10.5	18.0	6.8	20.3
障がいのある児童	59	—	10.2	3.4	1.7	3.4	13.6		16.9
難病患者	152	2.0	0.7	2.0	0.7	0.7	0.7	0.7	7.9

区分	意思疎通 支援	訪問入浴	児童発達 支援	放課後等 デイ サービス	保育所等 訪問支援	その他	利用し たくない	無回 答
身体障がいのある人 (65歳未満)	0.4	0.4				21.7	47.4	13.5
身体障がいのある人 (65歳以上)	3.7	3.7				18.5	22.2	33.3
知的障がいのある人	1.2	—				9.9	39.5	9.9
精神障がいのある人	—	—				12.8	27.1	15.0
障がいのある児童	1.7	3.4	16.9	28.8	8.5	11.9	23.7	10.2
難病患者	—	—				13.2	61.2	13.2

※「児童発達支援」「放課後等デイサービス」「保育所等訪問支援」は障がいのある児童のみの選択肢です。

※難病患者はすべての回答者を対象としています。

問 今後、新たに利用したいサービスは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【利用者：日中・居宅問7、グループホーム問3】

【サービス利用者別】

全体的に「計画相談支援」の割合が高くなっています。また、グループホーム・ケアホーム利用で「就労継続支援（B型）」、「共同生活介護、共同生活援助」を引き続き利用したい割合が高くなっています。

単位：％

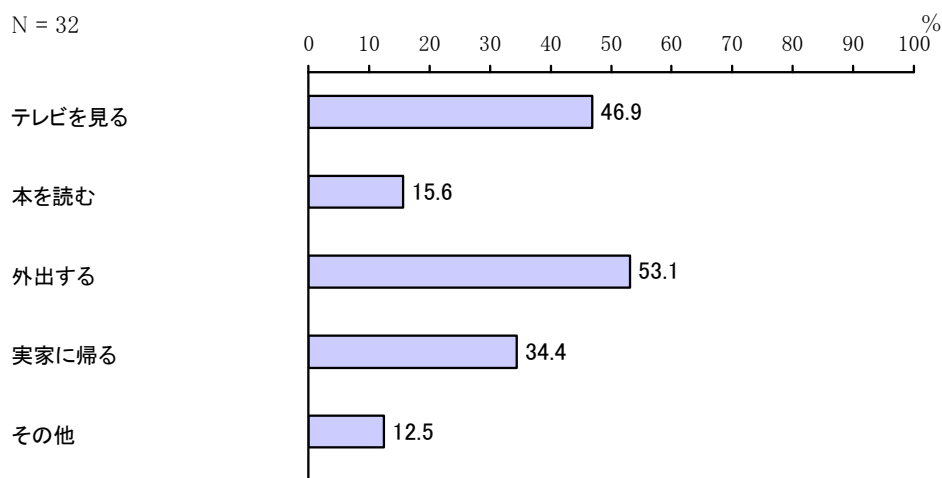
区分	有効回答数(件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障がい者等包括支援	生活介護	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型)	就労継続支援(B型)	療養介護
日中・居宅サービス利用者	308	6.8	1.9	2.9	7.8	2.3	4.2	9.7		9.4	6.8	7.1	1.6
グループホーム・ケアホーム利用者	32	—	—	3.1	6.3	—	3.1	3.1	9.4	6.3	3.1	12.5	3.1

区分	短期入所	共同生活介護(CH)	共同生活援助(GH)	施設入所支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	移動支援事業	地域活動支援センター事業	日中一時支援事業	訪問入浴サービス事業	わからない	無回答
日中・居宅サービス利用者	13.3	9.7	3.2	12.3	0.6	3.2	11.4	8.1	8.4	2.3	15.6	37.3	
グループホーム・ケアホーム利用者	3.1	18.8	—	12.5	3.1	—	/	/	/	/	25.0	40.6	

※日中・居宅サービス利用者では「自立訓練（機能訓練）」「自立訓練（生活訓練）」はまとめて1つの選択肢となっています。
 ※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 土曜日、日曜日など、施設に通所しない日は、何をしておりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【利用者：グループホーム問2】

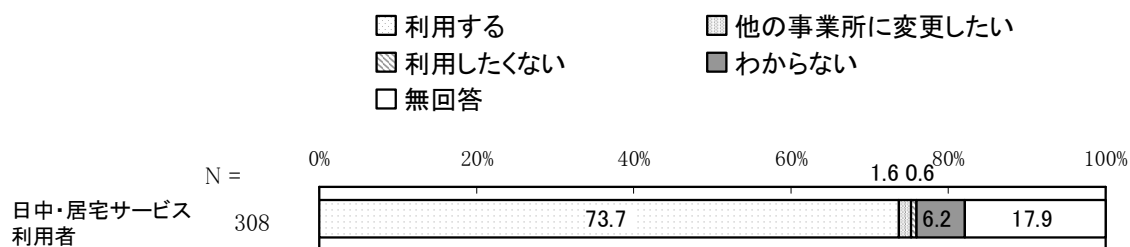
「外出する」の割合が最も高くなっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 現在、利用しているサービスを今後も利用しますか。【利用者：日中・居宅問6】

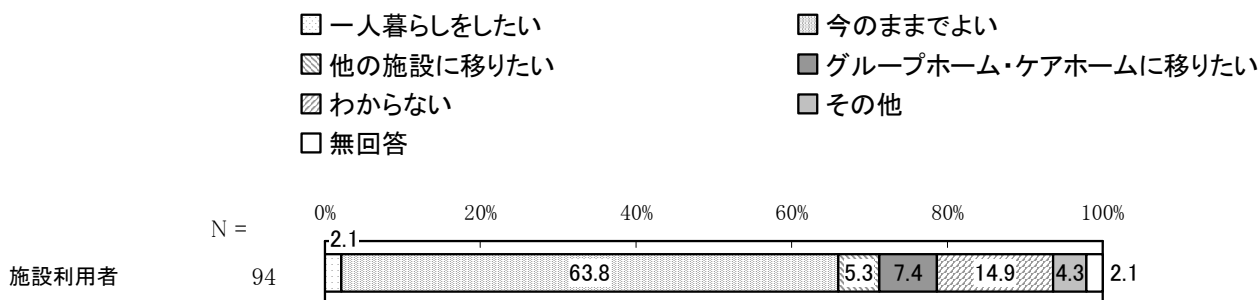
「利用する」の割合が7割を超えています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 今後、施設を退所し、地域で自立して生活したいですか。【利用者：施設問2】

「今のままでよい」の割合が6割を超えています。

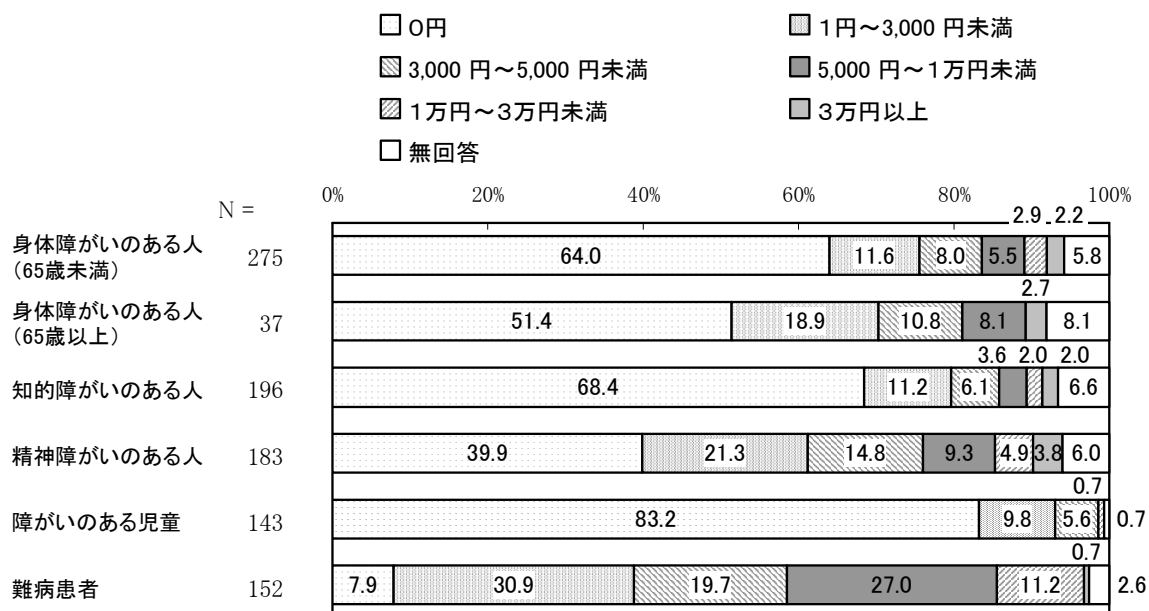


※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

4 保健・医療について

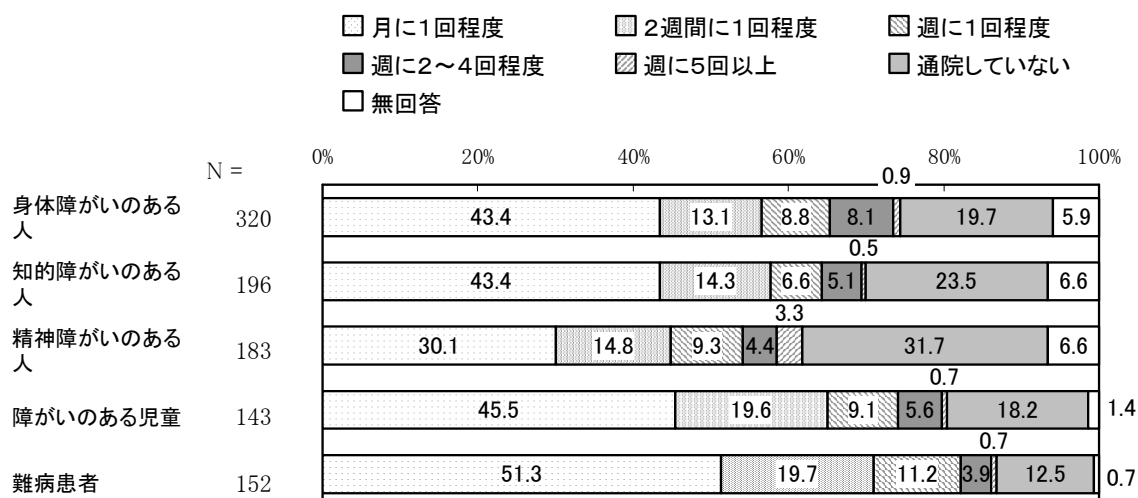
問 風邪、歯の治療などすべての医療費は、1か月あたりいくら負担していますか。【身体：問26、知的：問26、精神：問27、児：問26、難病：問21】

身体障がいのある人、知的障がいのある人、障がいのある児童で「0円」が5割以上となっています。また、難病患者で「5,000円～1万円未満」、「1万円～3万円未満」の割合が高くなっています。



問 風邪、歯の治療などすべての医療について、最近3か月で、病院にどれくらい通院しましたか。【身体：問27、知的：問27、精神：問28、児：問27、難病：問22】

全体的に「月に1回程度」の割合が高くなっています。



問 医療について困ったことや不便に思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 28、知的：問 28、精神：問 29、児：問 28、難病：問 23】

全体的に「特に困ったことはない」の割合が最も高くなっています。次いで「医療費の負担が大きい」、「障がい（病状）のため症状を正確に伝えられない」の割合が高くなっています。

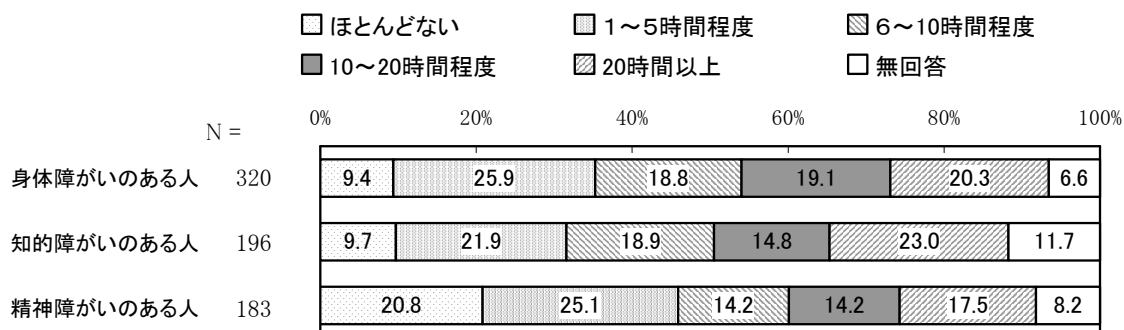
単位：％

	身体障がいの ある人（65歳 未満）	身体障がいの ある人（65歳 以上）	知的障がいの ある人	精神障がいの ある人	障がいのある 児童	難病患者
有効回答数 (件)	275	37	196	183	143	152
1位	特に困ったこと はない (68.0)	特に困ったこと はない (64.9)	特に困ったこと はない (44.4)	特に困ったこと はない (45.9)	特に困ったこと はない (48.3)	特に困ったこと はない (55.9)
2位	医療費の負担 が大きい (8.0)	障がい（病状） のため症状を正 確に伝えられ ない (8.1)	障がい（病状） のため症状を正 確に伝えられ ない (27.6)	医療費の負担が 大きい (18.0)	障がい（病状） に配慮してもら えない (23.8)	医療費の負担が 大きい (27.0)
3位	障がい（病状） のため症状を 正確に伝えら れない (7.6)	その他 (8.1)	気軽に往診を頼 める医師がい ない (9.2)	障がい（病状） のため症状を正 確に伝えられ ない (13.7)	障がい（病状） のため症状を正 確に伝えられ ない (23.8)	その他 (9.2)
4位	障がい（病状） に配慮しても もらえない (6.5)	通院する時に付 き添いをして くれる人がい ない (5.4)	障がい（病状） に配慮しても もらえない (8.7)	その他 (13.1)	その他 (9.8)	障がい（病状） に配慮しても もらえない (3.9)
5位	その他 (5.5)	気軽に往診を頼 める医師がい ない (5.4)	通院する時に付 き添いをして くれる人がい ない (8.2)	障がい（病状） に配慮しても もらえない (7.7)	通院する時に付 き添いをして くれる人がい ない (6.3)	通院する時に付 き添いをして くれる人がい ない (2.6) 気軽に往診を頼 める医師がい ない (2.6)

5 余暇活動について

問 1週間のうちに自分の楽しみに使う時間はどれくらいありますか。【身体：問 29、知的：問 29、精神：問 30】

全体的に「1～5時間程度」の割合が高くなっています。



問 自分の楽しみに使う時間をどのように過ごしていますか。主なものに3つまで○をつけてください。【身体：問 30、知的：問 30、精神：問 31】

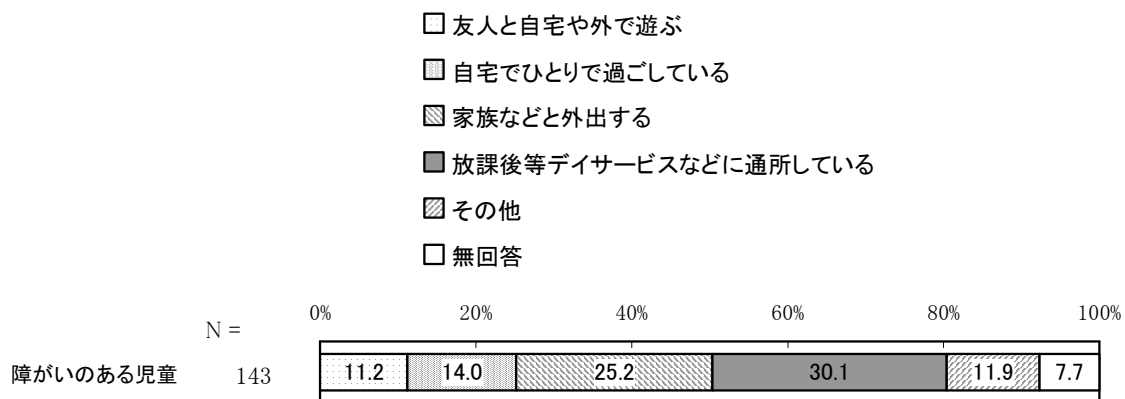
全体的に「テレビをみる」、「買い物に行く」の割合が高くなっています。

単位：%

	身体障がいのある人 (65歳未満)	身体障がいのある人 (65歳以上)	知的障がいのある人	精神障がいのある人
有効回答数 (件)	275	37	196	183
1位	テレビをみる (61.5)	買い物に行く (37.8)	テレビをみる (52.0)	テレビをみる (50.8)
2位	買い物に行く (39.6)	テレビをみる (32.4)	買い物に行く (33.7)	買い物に行く (31.1)
3位	友人と会う (29.1)	レストラン、喫茶店に行く (27.0)	散歩をする (15.8)	散歩をする (16.9)
4位	散歩をする (18.5)	友人と会う (21.6)	ゲームをする (13.3)	読書をする (14.8)
5位	レストラン、喫茶店に行く (17.1)	読書をする (18.9)	レストラン、喫茶店に行く (12.8)	レストラン、喫茶店に行く (13.7)

問 お子さんは、放課後や休日など自由な時間をどのように過ごしていますか。【児：問29】

「放課後等デイサービスなどに通所している」の割合が最も高く、次いで「家族などと外出する」、「自宅でひとりで過ごしている」となっています。

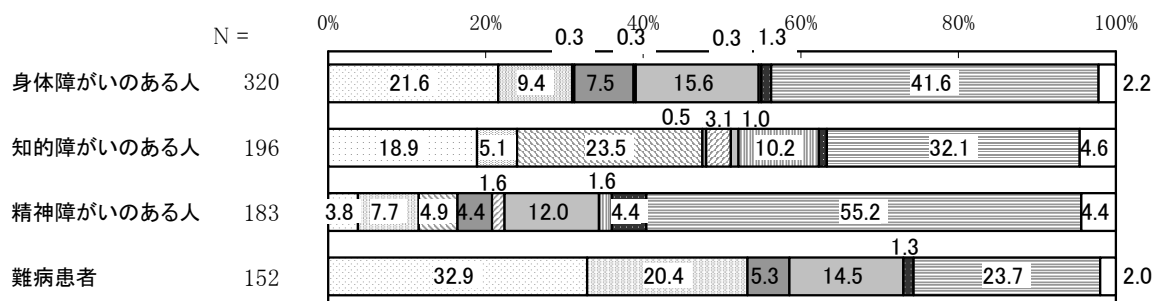


6 就業等について

問 現在の就労などの状況についてお答えください。【身体：問 31、知的：問 31、精神：問 32、難病：問 24】

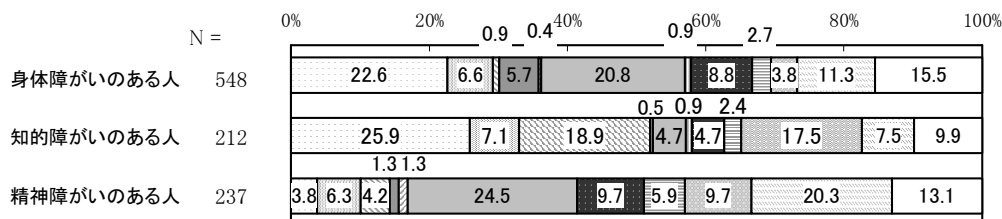
身体障がいのある人、難病患者で「一般企業に就職している」の割合が高くなっています。一方で、精神障がいのある人で「働いていない」の割合が高くなっています。

- 一般企業に就職している
- パート・アルバイトで短時間の仕事をしている
- 就労継続支援A・Bを利用している
- 自営業で働いている、家の仕事を手伝っている
- 職業の訓練施設に通っている、就労移行支援を利用している
- 自宅の家事をしている(主婦、家事の手伝い)
- 生活介護を利用している、地域活動支援センターを利用している
- その他
- 働いていない
- 無回答



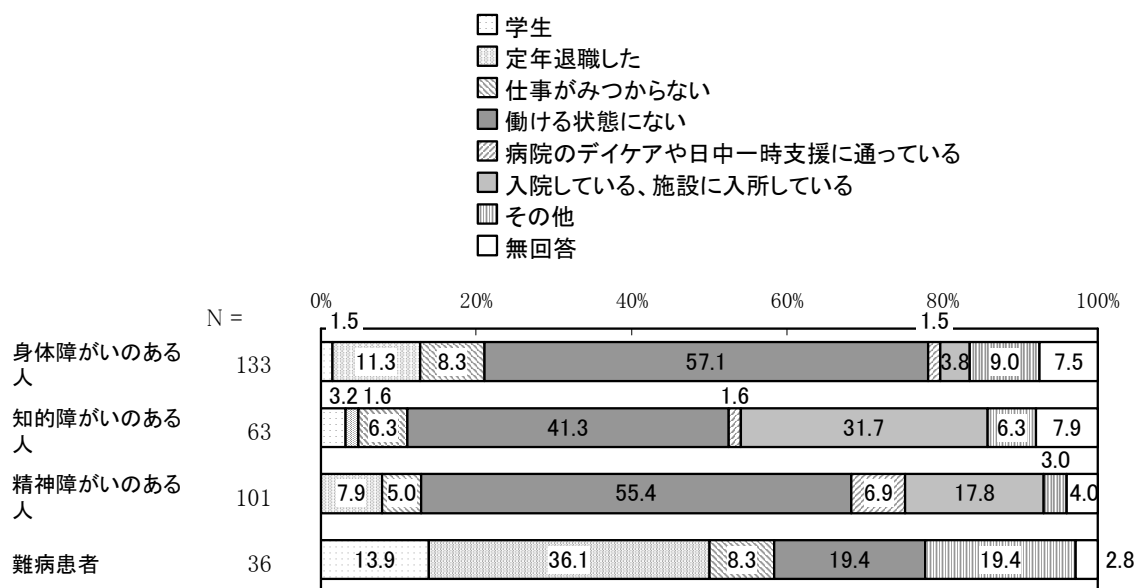
【参考：平成 22 年度調査結果】

- 会社で仕事をしている
- パート・アルバイトで短時間の仕事をしている
- 授産施設・作業所などに通っている
- 自営業(商店や家内工場など)で働いている
- 職業の訓練施設に通っている
- 自宅の家事をしている(主婦、家事の手伝い)
- 学生など
- 働きたいが仕事が見つからない
- 働きたくない
- 施設に入所している
- その他
- 無回答



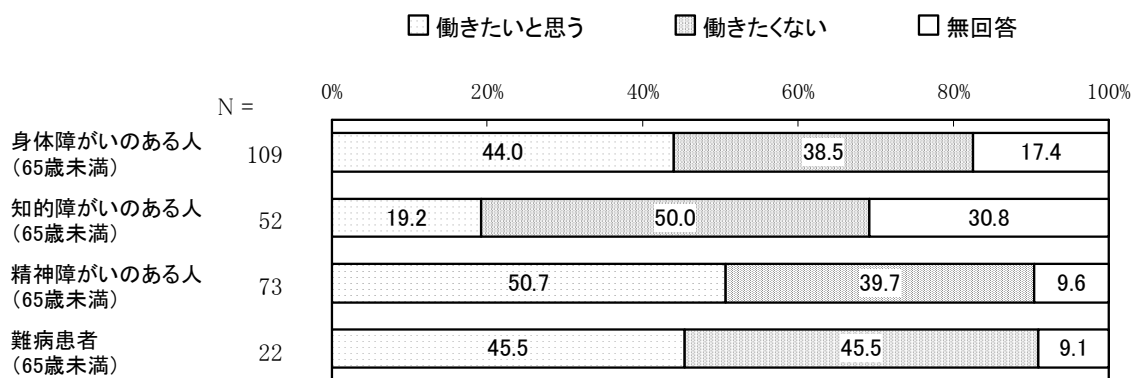
問 働いていない理由はなんですか。【身体：問 32、知的：問 32、精神：問 33、難病：問 25】（「現在働いていない」と答えた方に聞きました。）

難病患者以外で「働ける状態にない」の割合が高くなっています。



問 今後働きたいと思いますか。【身体：問 33、知的：問 33、精神：問 34、難病：問 26】（「現在働いていない」と答えた方に聞きました。）

精神障がいのある人で「働きたいと思う」の割合が約5割となっています。一方で、知的障がいのある人で「働きたいと思う」の割合が低くなっています。



問 どのような支援や配慮があったら働けると思いますか。主なものに3つまで○をつけてください。【身体：問 34、知的：問 34、精神：問 35、難病：問 27】
 （「現在働いていない」と答えた方に聞きました。）

難病患者（65 歳未満）で「職場の人たちが障がいのことを理解すること」の割合が高くなっています。また、身体障がいのある人（65 歳未満）、精神障がいのある人（65 歳未満）で「障がいに応じて短時間の就労などができること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	会社などで働くための指導や訓練	障がいに応じて短時間の就労などができること	職場に障がいに応じた設備があること	職場の人たちが障がいのことを理解すること	職場内で相談をする人がいること	通勤する方法や通勤の手助け（介助等）があること	仕事や職場に慣れるまで、付き添って助けをする人がいること	その他	無回答
身体障がいのある人（65 歳未満）	109	11.0	40.4	17.4	31.2	9.2	16.5	8.3	14.7	28.4
知的障がいのある人（65 歳未満）	52	7.7	13.5	9.6	23.1	13.5	7.7	13.5	26.9	40.4
精神障がいのある人（65 歳未満）	73	9.6	41.1	4.1	34.2	20.5	20.5	6.8	20.5	19.2
難病患者（65 歳未満）	22	9.1	40.9	—	50.0	18.2	13.6	4.5	—	27.3

問 現在している仕事について不安や不満はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 35、知的：問 35、精神：問 36、難病：問 28】
 （「現在仕事をしている」と答えた方に聞きました。）

精神障がいのある人で「収入が少ない」の割合が最も高くなっています。

単位：％

	身体障がいのある人 (65歳未満)	知的障がいのある人 (65歳未満)	精神障がいのある人 (65歳未満)	難病患者 (65歳未満)
有効回答数 (件)	119	94	38	89
1位	特にな (47.1)	特にな (46.8)	収入が少 (36.8)	特にな (55.1)
2位	収入が少 (23.5)	収入が少 (20.2)	その他 (18.4)	収入が少 (14.6)
3位	職場の身分が不安定で ある (13.4)	人間関係がよくない (10.6)	職場の身分が不安定で ある (15.8)	その他 (13.5)
4位	職場に相談する人がい ない (8.4)	職場に相談する人がい ない (7.4)	職場に相談する人がい ない (15.8)	職場の設備に支障があ る (5.6)
5位	通勤に支障がある (7.6)	通勤に支障がある (5.3)	毎日働くことができな い (15.8)	職場の身分が不安定で ある (5.6)

【参考：平成 22 年度調査結果】

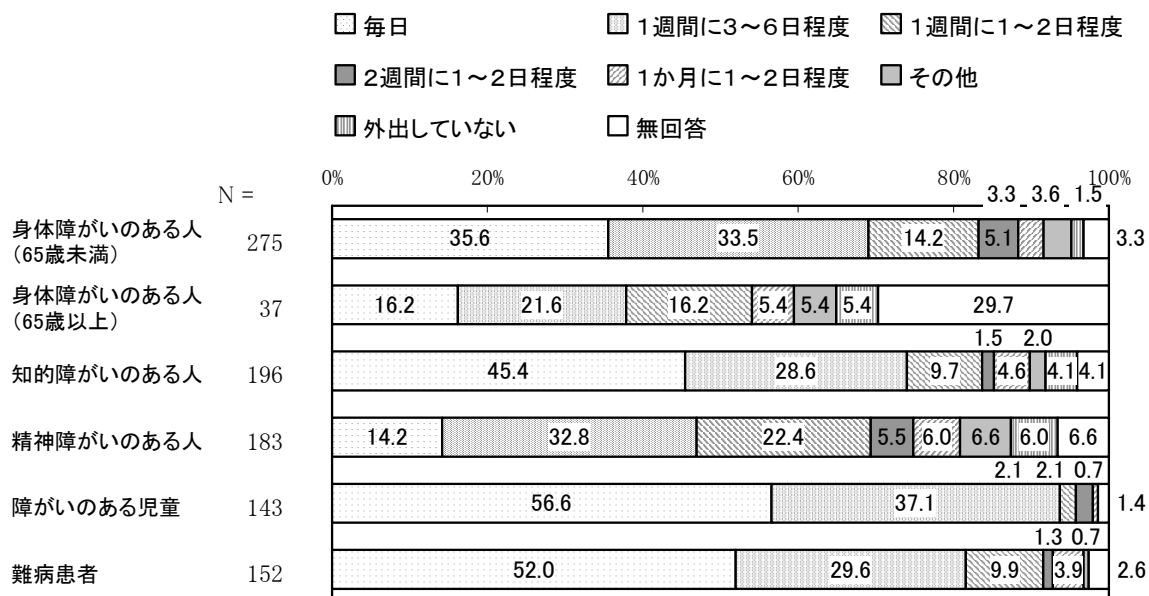
単位：％

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人
有効回答数 (件)	196	111	37
1位	特にな (51.5)	特にな (41.4)	給料が安 (40.5)
2位	給料が安 (15.8)	会社の設備に不安や不 満がある (25.2)	特にな (24.3)
3位	障がいに対する配慮が ない (11.7)	通勤に不安や不満があ る (9.9)	障がいに対する配慮が ない (10.8)
4位	職場の設備に支障があ る (9.2)	人づきあいがよくない (8.1)	毎日働くことができな い (10.8)
5位	通勤に支障がある (7.7)	給料が安 (7.2)	通勤に支障がある (8.1)

7 生活環境について

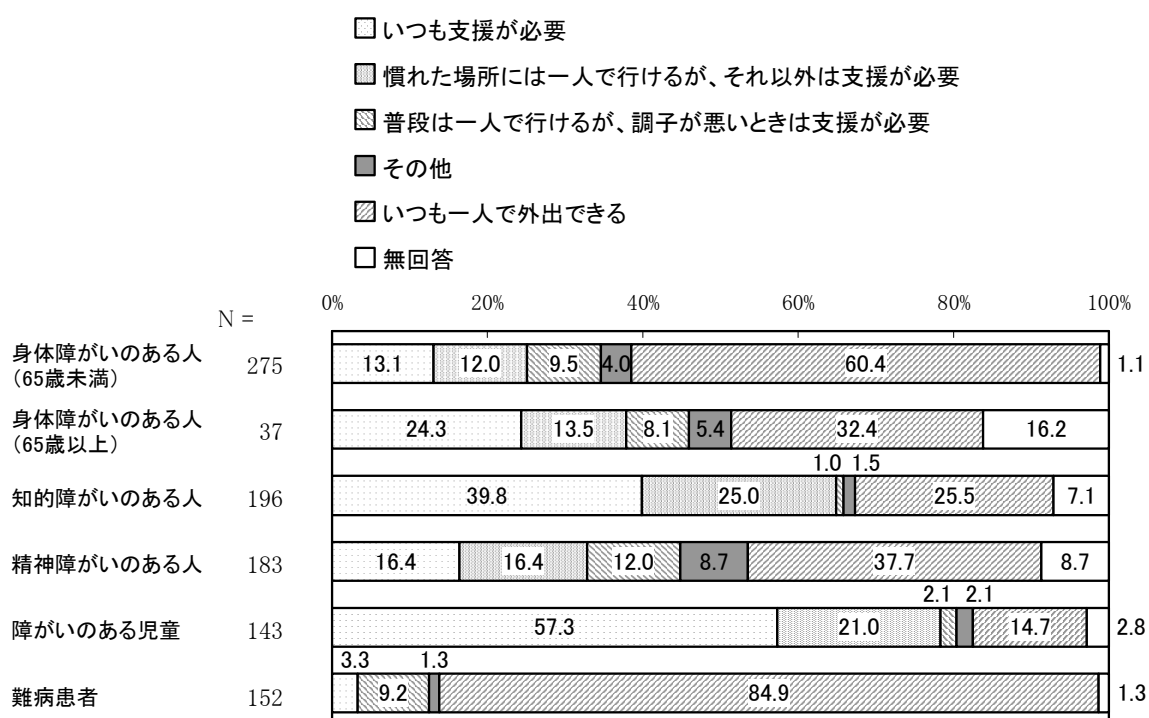
問 おおむねこの1年（平成24年11月30日～平成25年11月30日）のあいだにどの程度外出（通勤・通学を含む）しましたか。【身体：問36、知的：問36、精神：問37、児：問30、難病：問29】

障がいのある人すべてで「毎日」と「1週間に3～6日程度」の合計が約5割となっています。



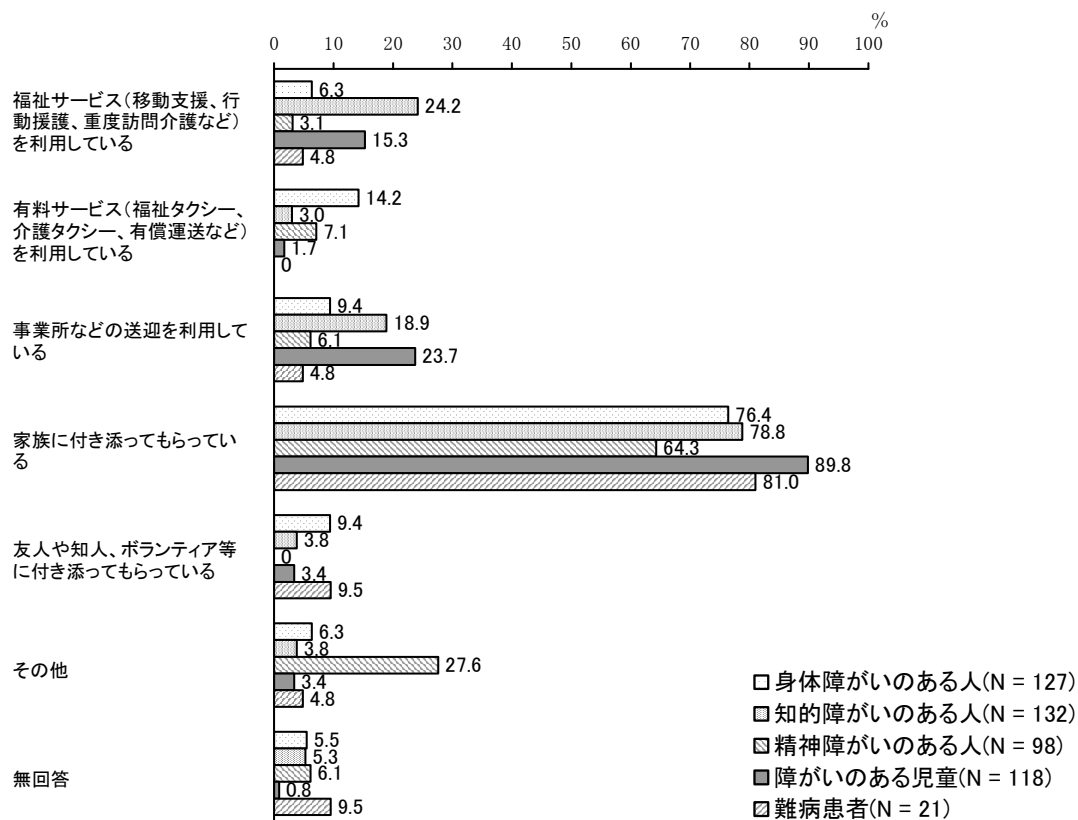
問 外出をするときに支援は必要ですか。【身体：問37、知的：問37、精神：問38、児：問31、難病：問30】

知的障がいのある人、障がいのある児童で「いつも支援が必要」の割合が高くなっています。



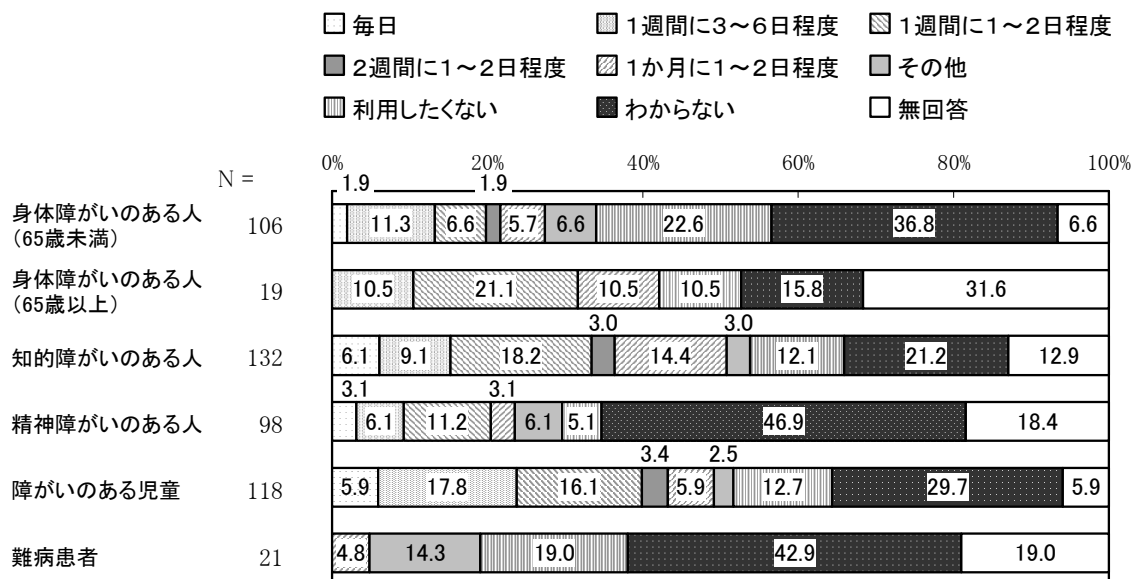
問 一人で外出できない場合、どのように外出していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 38、知的：問 38、精神：問 39、児：問 32、難病：問 31】（「外出をする時に支援が必要」と答えた方に聞きました。）

全体的に「家族に付き添ってもらっている」の割合が高くなっています。



問 通勤・通学以外で外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか。【身体：問 39、知的：問 39、精神：問 40、児：問 33、難病：問 32】（「外出をする時に支援が必要」と答えた方に聞きました。）

障がいのある児童で「1週間に1日以上」（「毎日」「1週間に3～6日程度」「1週間に1～2日程度」の合計）の割合が高くなっています。



8 情報の入手手段について

問 福祉などの情報を得る手段はどれですか。主なものに3つまで○をつけてください。
【身体：問 40、知的：問 40、精神：問 41、児：問 34、難病：問 33】

全体的に「市の広報」「新聞・雑誌・一般図書」の割合が高くなっています。また、知的障がいのある人、障がいのある児童で「家族・友人」の割合が高くなっています。

単位：％

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者
有効回答数(件)	320	196	183	143	152
1位	市の広報 (47.5)	家族・友人 (34.7)	市の広報 (30.1)	市の広報 (43.4)	市の広報 (53.3)
2位	新聞・雑誌・一般図書 (41.3)	市の広報 (34.2)	新聞・雑誌・一般図書 (29.0)	家族・友人 (39.9)	新聞・雑誌・一般図書 (43.4)
3位	テレビ（一般放送） (30.6)	テレビ（一般放送） (21.9)	テレビ（一般放送） (24.0)	新聞・雑誌・一般図書 (29.4)	ホームページ・電子メール (25.7)
4位	ホームページ・電子メール (15.0)	新聞・雑誌・一般図書 (15.3)	特にない (19.1)	市・県の福祉サービスガイド (23.8)	テレビ（一般放送） (22.4)
5位	家族・友人 (14.7)	特にない (13.3)	家族・友人 (18.6)	ホームページ・電子メール (23.1)	携帯電話・スマートフォン (12.5) 家族・友人 (12.5)

【参考：平成 22 年度調査結果】

単位：％

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童
有効回答数(件)	548	212	237	155
1位	市の広報 (48.7)	市の広報 (41.0)	市の広報 (30.0)	家族・友人 (42.6)
2位	新聞・雑誌・一般図書 (43.6)	家族・友だち (31.1)	家族・友人 (26.2)	市の広報 (27.1)
3位	テレビ（一般放送） (28.6)	市・県の福祉サービスガイド (25.0)	新聞・雑誌・一般図書 (24.9)	新聞・雑誌・一般図書 (25.2)
4位	市・県の福祉サービスガイド (22.8)	特にない (25.0)	テレビ (22.4)	特にない (23.2)
5位	家族・友人 (19.7)	新聞・雑誌・本 (24.5)	市・県の福祉サービスガイド (20.7)	市・県の福祉サービスガイド (18.7)

【年齢別】

身体障がいのある人、難病患者で年齢に関係なく「ホームページ・電子メール」の割合が高くなっています。

①身体障がいのある人

単位：％

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
有効回答数 (件)	8	24	62	83	135
1位	新聞・雑誌・一般 図書 (87.5)	市の広報 (50.0)	市の広報 (46.8)	新聞・雑誌・一般図 書 (44.6)	市の広報 (52.6)
2位	携帯電話・スマート フォン (37.5)	携帯電話・スマート フォン (33.3)	新聞・雑誌・一般図 書 (45.2)	市の広報 (43.4)	新聞・雑誌・一般図 書 (38.5)
3位	市の広報 (37.5)	テレビ（一般放送） (33.3)	ホームページ・電子 メール (29.0)	テレビ（一般放送） (34.9)	テレビ（一般放送） (30.4)
4位	ホームページ・電 子メール (25.0)	ホームページ・電 子メール (29.2)	テレビ（一般放送） (25.8)	ホームページ・電子 メール (15.7)	家族・友人 (17.0)
5位	テレビ（一般放送） (12.5)	新聞・雑誌・一般 図書 (25.0)	携帯電話・スマート フォン (21.0)	町内会・自治会の回 覧板 (10.8)	町内会・自治会の回 覧板 (15.6)
		家族・友人 (25.0)		市・県の福祉サービ スガイド (10.8)	市・県の福祉サービ スガイド (15.6)

②知的障がいのある人

単位：％

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
有効回答数 (件)	44	49	53	10	22
1位	家族・友人 (34.1)	家族・友人 (49.0)	市の広報 (43.4)	市の広報 (40.0)	特にない (31.8)
2位	市の広報 (31.8)	市の広報 (40.8)	テレビ（一般放送） (26.4)	特にない (30.0)	テレビ（一般放送） (22.7)
3位	テレビ（一般放送） (20.5)	テレビ（一般放送） (24.5)	家族・友人 (24.5)	新聞・雑誌・一般図書 (20.0)	市の広報 (18.2)
4位	新聞・雑誌・一般 図書 (18.2)	新聞・雑誌・一般 図書 (22.4)	新聞・雑誌・一般図 書 (13.2)	家族・友人 (20.0)	その他 (13.6)
5位	その他 (18.2)	市・県の福祉サービ スガイド (16.3)	その他 (11.3)	携帯電話・スマート フォン (10.0)	ラジオ (4.5)
				ラジオ (10.0)	町内会・自治会の回覧板 (4.5)
				市・県の福祉サービ スガイド (10.0)	市・県の福祉サービ スガイド (4.5)
			特にない (11.3)		家族・友人 (4.5)

③精神障がいのある人

単位：％

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
有効回答数 (件)	8	36	49	25	60
1位	家族・友人 (37.5)	市の広報 (30.6)	新聞・雑誌・一般図書 (28.6)	テレビ（一般放送） (44.0)	市の広報 (33.3)
2位	特にない (37.5)	新聞・雑誌・一般図書 (27.8)	市の広報 (28.6)	新聞・雑誌・一般図書 (32.0)	新聞・雑誌・一般図書 (30.0)
3位	新聞・雑誌・一般図書 (12.5)	ホームページ・電子メール (25.0)	特にない (24.5)	市の広報 (28.0)	テレビ（一般放送） (30.0)
4位	市の広報 (12.5)	家族・友人 (19.4)	家族・友人 (20.4)	家族・友人 (16.0)	家族・友人 (16.7)
5位		特にない (19.4)	市・県の福祉サービスガイド (18.4)	市・県の福祉サービスガイド (12.0)	特にない (16.7)

④難病患者

単位：％

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
有効回答数 (件)	9	25	35	36	40
1位	テレビ（一般放送） (44.4)	新聞・雑誌・一般図書 (48.0)	市の広報 (51.4)	市の広報 (50.0)	市の広報 (72.5)
2位	市の広報 (33.3)	市の広報 (44.0)	ホームページ・電子メール (45.7)	新聞・雑誌・一般図書 (47.2)	新聞・雑誌・一般図書 (50.0)
3位	新聞・雑誌・一般図書 (22.2)	ホームページ・電子メール (32.0)	新聞・雑誌・一般図書 (31.4)	町内会・自治会の回覧板 (19.4)	市・県の福祉サービスガイド (30.0)
4位	ホームページ・電子メール (22.2)	テレビ（一般放送） (28.0)	テレビ（一般放送） (22.9)	特にない (16.7)	テレビ（一般放送） (22.5)
5位	特にない (22.2)	携帯電話・スマートフォン (24.0)	特にない (14.3)	ホームページ・電子メール (13.9)	町内会・自治会の回覧板 (17.5)
				携帯電話・スマートフォン (13.9)	
				家族・友人 (13.9)	

【身体障がいの部位別】

「市の広報」、「新聞・雑誌・一般図書」、「テレビ（一般放送）」の割合が高くなっています。

単位：％

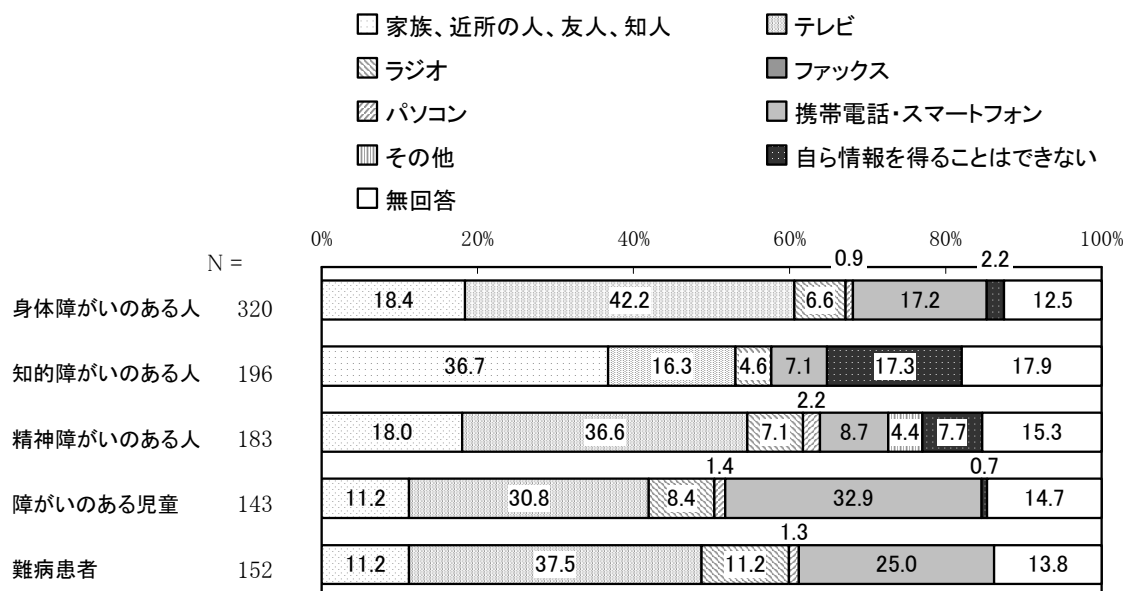
	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由
有効回答数(件)	21	24	10	156
1位	テレビ（一般放送） (38.1)	新聞・雑誌・一般図書 (45.8)	市の広報 (50.0)	市の広報 (46.8)
2位	新聞・雑誌・一般図書 (28.6)	市の広報 (45.8)	新聞・雑誌・一般図書 (30.0)	新聞・雑誌・一般図書 (36.5)
3位	家族・友人 (19.0)	家族・友人 (33.3)	携帯電話・スマートフォン (20.0)	テレビ（一般放送） (32.1)
4位	ホームページ・電子メール (14.3)	携帯電話・スマートフォン (29.2)	テレビ（一般放送） (20.0)	家族・友人 (14.7)
5位	市の広報 (14.3)	テレビ（一般放送） (20.8)	ホームページ・電子メール (10.0)	町内会・自治会の回覧板 (12.2)
	市・県の福祉サービスガイド (14.3)		ファックス (10.0)	
			市・県の福祉サービスガイド (10.0)	

	心臓機能障がい	腎臓機能障がい	その他内部障がい	わからない
有効回答数(件)	44	51	30	5
1位	新聞・雑誌・一般図書 (52.3)	市の広報 (54.9)	新聞・雑誌・一般図書 (50.0)	市の広報 (60.0)
2位	市の広報 (47.7)	新聞・雑誌・一般図書 (43.1)	市の広報 (43.3)	新聞・雑誌・一般図書 (40.0)
3位	テレビ（一般放送） (31.8)	テレビ（一般放送） (37.3)	テレビ（一般放送） (30.0)	テレビ（一般放送） (20.0)
4位	ホームページ・電子メール (18.2)	ホームページ・電子メール (19.6)	市・県の福祉サービスガイド (26.7)	町内会・自治会の回覧板 (20.0)
5位	町内会・自治会の回覧板 (15.9)	市・県の福祉サービスガイド (13.7)	ホームページ・電子メール (20.0)	市・県の福祉サービスガイド (20.0)
	市・県の福祉サービスガイド (15.9)		家族・友人 (20.0)	

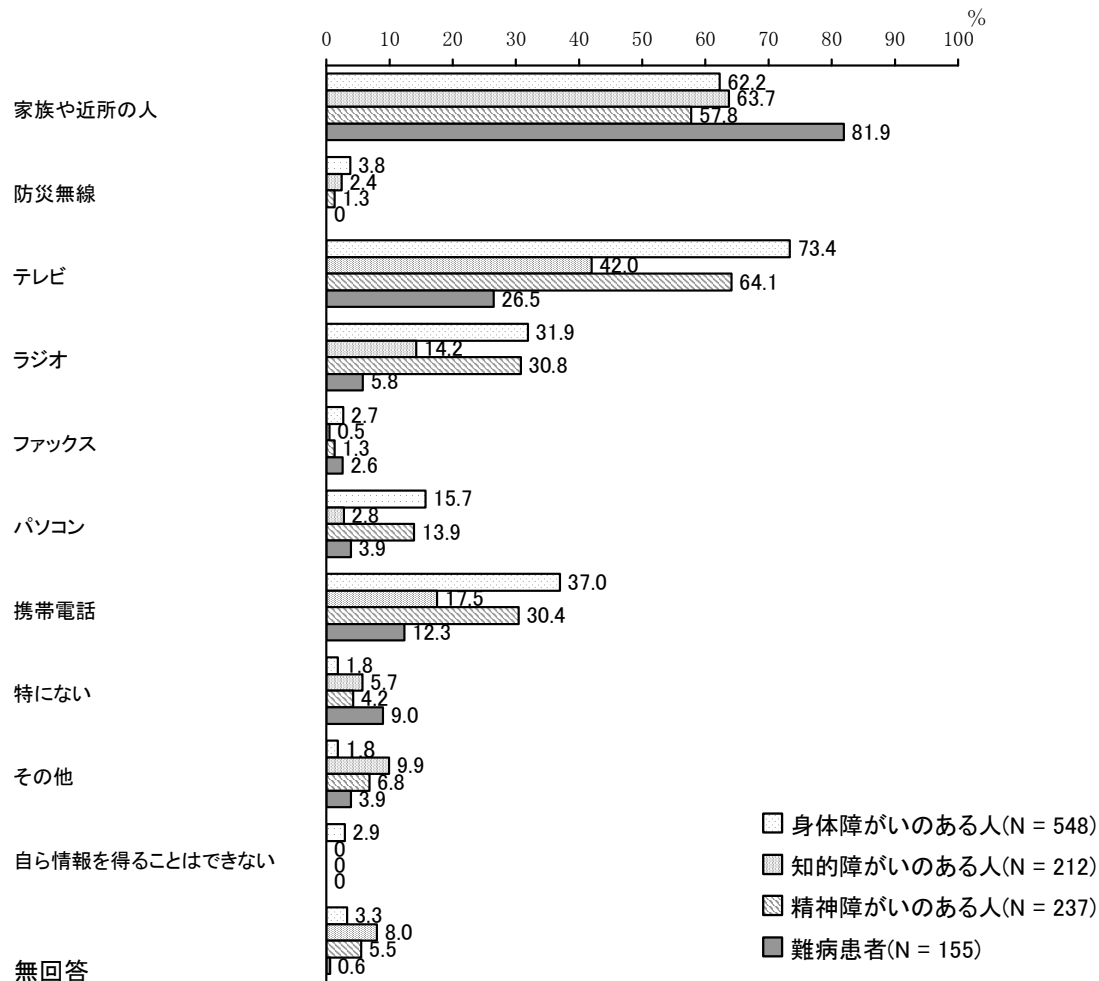
9 災害など緊急事態の対応について

問 災害などの緊急事態が発生した場合、主に情報を得る手段は何だと思えますか。【身体：問 41、知的：問 41、精神：問 42、児：問 35、難病：問 34】

障がいのある人すべてで「家族、近所の人、友人、知人」、「テレビ」の割合が高くなっています。

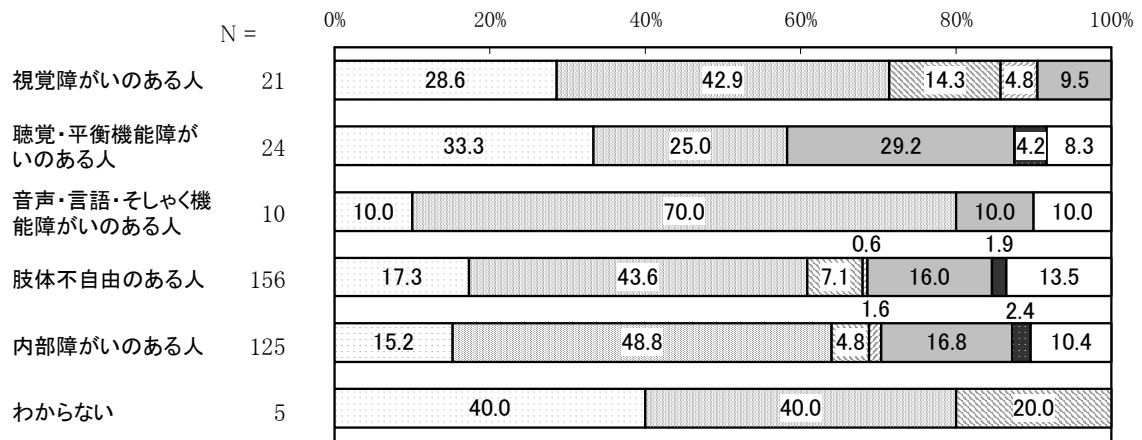


【参考：平成 22 年度調査結果】



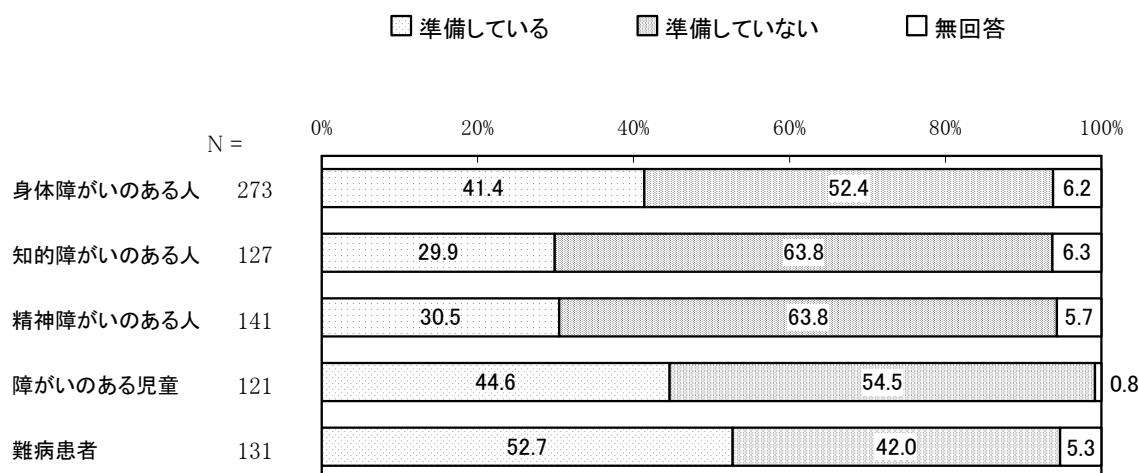
【身体障がい の 部位別】

「テレビ」の割合が高くなっています。



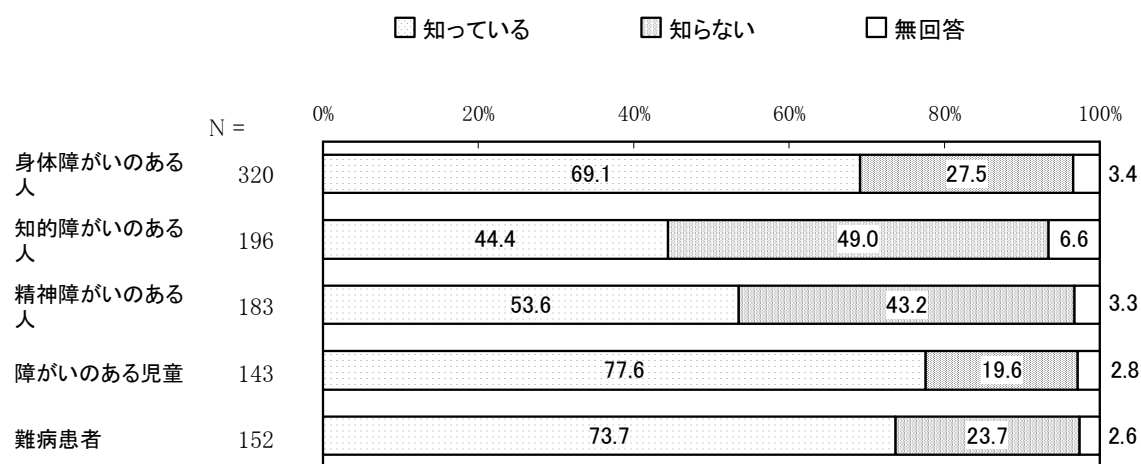
問 災害などの緊急事態が発生した場合の情報を得る手段について、緊急事態が発生した場合に利用できるよう準備していますか。【身体：問 42、知的：問 42、精神：問 43、児：問 36、難病：問 35】（「自ら情報を得ることはできない」と答えた方以外に聞きました。）

知的障がいのある人、精神障がいのある人で「準備していない」の割合が高くなっています。



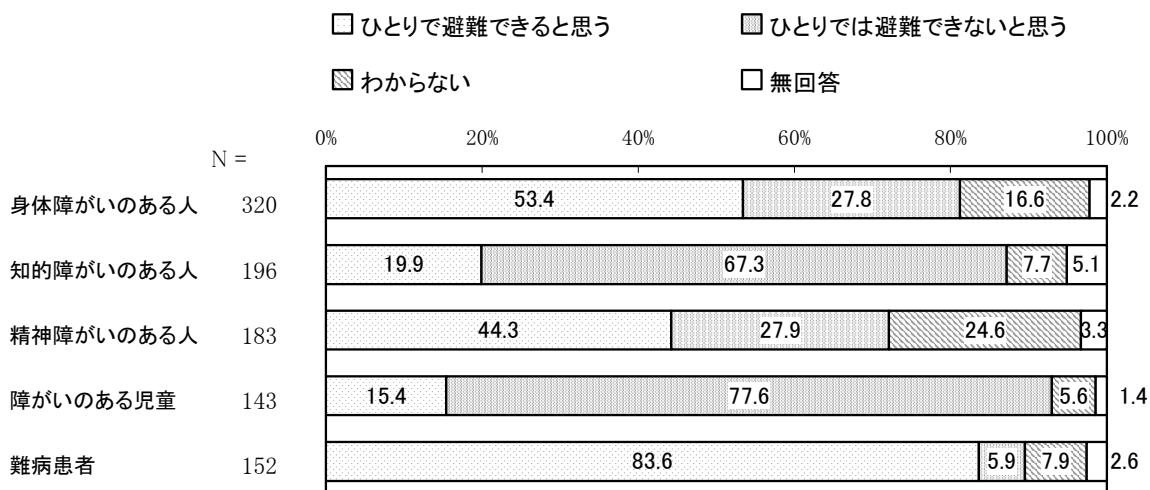
問 災害などの緊急事態が発生した場合の避難場所を知っていますか。【身体：問 43、知的：問 43、精神：問 44、児：問 37、難病：問 36】

知的障がいのある人以外で「知っている」の割合が高くなっています。

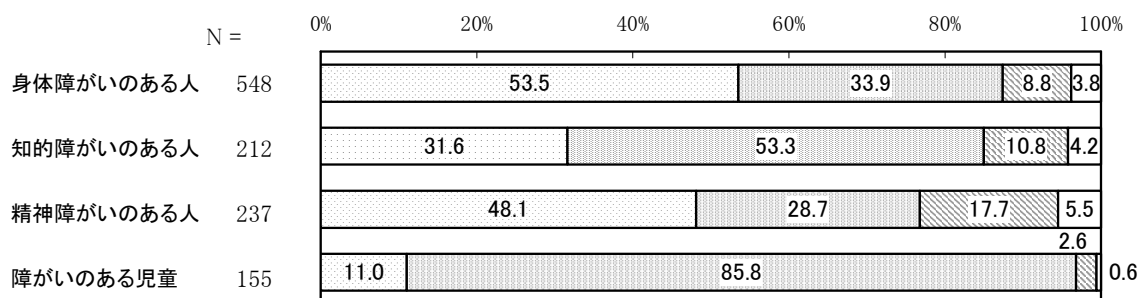


問 自宅にいるときに災害などの緊急事態が発生した場合、ひとりで避難場所まで避難できるとお考えですか。【身体：問 44、知的：問 44、精神：問 45、児：問 38、難病：問 37】

難病患者で「ひとりで避難できると思う」の割合が約 8 割となっています。



【参考：平成 22 年度調査結果】



問 一緒に避難場所まで避難してもらう人はだれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 45、知的：問 45、精神：問 46、児：問 39、難病：問 38】
 （「ひとりでは避難できないと思う」と答えた方に聞きました。）

全体的に「同居の家族」の割合が最も高くなっています。一方で、「一緒に避難してくれる人がいない」の割合が約1割となっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	同居の家族	別居の親族	隣近所の人	友人・知人	民生委員	区・町内会の役員	その他	一緒に避難してく れる人がいない	無回答
身体障がいのある人	89	85.4	7.9	15.7	1.1	2.2	3.4	4.5	6.7	1.1
知的障がいのある人	132	84.8	6.8	12.1	0.8	0.8	3.0	6.1	5.3	—
精神障がいのある人	51	56.9	7.8	3.9	2.0	2.0	—	23.5	7.8	2.0
障がいのある児童	111	84.7	17.1	3.6	7.2	—	—	3.6	9.0	0.9
難病患者	9	100.0	11.1	11.1	—	—	11.1	—	—	—

【参考：平成 22 年度調査結果】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	同居の家族	別居の親族	隣近所の人	友人・知人	民生委員	区・町内会の役員	園や学校の先生	その他	一緒に避難してく れる人がいない	無回答
身体障がいのある人	186	76.9	10.2	23.7	4.8	2.2	6.5		12.9	5.9	0.5
知的障がいのある人	113	78.8	8.0	10.6	3.5	1.8	3.5		30.1	—	0.9
精神障がいのある人	68	66.2	8.8	13.2	2.9	5.9	4.4		23.5	5.9	2.9
障がいのある児童	133	97.0	5.3	12.8	7.5	—	3.0	38.3	0.8	—	—

問 災害などの緊急事態に困ると思うことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 46、知的：問 46、精神：問 47、児：問 40、難病：問 39】

知的障がいのある人、精神障がいのある人、障がいのある児童で「どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい」の割合が高くなっています。

単位：%

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者
有効回答数 (件)	320	196	183	143	152
1位	自力歩行が困難で、安全なところまですばやく避難できない (28.8)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (71.9)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (41.5)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (74.8)	特に困ることはない (45.4)
2位	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (27.2)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (54.6)	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (36.6)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (65.0)	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (25.0)
3位	避難所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (26.3)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (54.6)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (34.4)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (59.4)	避難所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (12.5)
4位	特に困ることはない (24.4)	避難所で、被害状況や物資の収集などの情報が入手できない (45.9)	障がいへの理解が得られず、避難所で生活できない (27.3)	避難所で、被害状況や物資の収集などの情報が入手できない (54.5)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (7.2)
5位	障がいへの理解が得られず、避難所で生活できない (17.5)	障がいへの理解が得られず、避難所で生活できない (41.3)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (25.1)	障がいへの理解が得られず、避難所で生活できない (39.2)	避難所で、被害状況や物資の収集などの情報が入手できない (5.3)

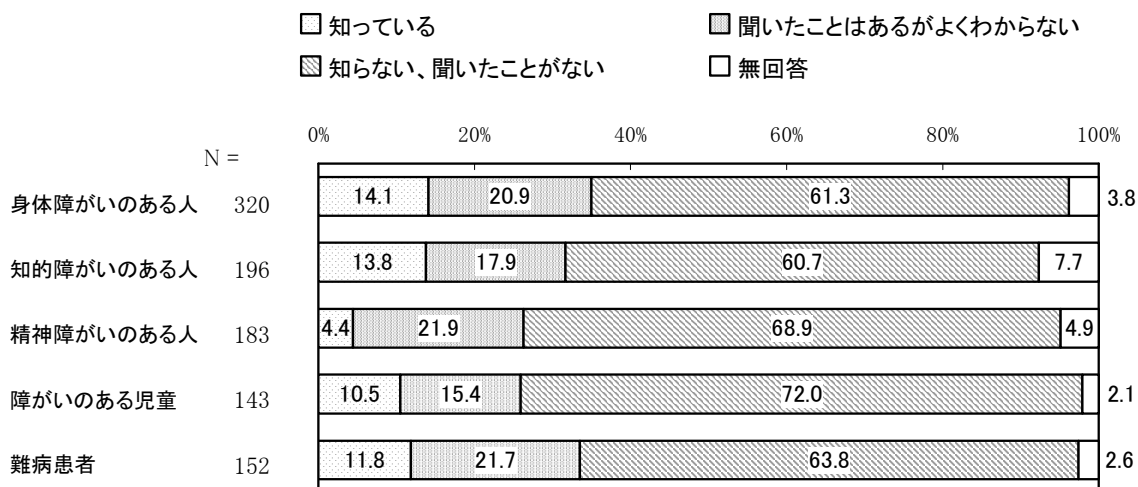
【参考：平成 22 年度調査結果】

単位：%

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童
有効回答数 (件)	548	212	237	155
1位	自力歩行がやや困難で、安全なところまですばやく避難できない (36.5)	どのように対応すべきか自分で考え、行動することがむずかしい (70.3)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (44.7)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (77.4)
2位	避難所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (28.8)	避難所で、被害状況や生活に必要な品物を集めるための情報を手に入れることができない (52.4)	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (42.2)	避難所で、被害状況や物資の収集などの情報が入手できない (60.0)
3位	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (28.5)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (51.4)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (34.6)	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (58.1)
4位	特に困ることはない (23.0)	自分の身体の状況を伝えることがむずかしく、周りの人に助けを求めることができない (42.0)	自分の身体の状況を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (22.8)	自分の身体の状況を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (55.5)
5位	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (18.2)	避難所に多目的トイレなど生活できる環境がそろっていない (24.5)	避難所で、被害状況や物資の収集などの情報が入手できない (20.3)	一般の避難所では、投薬や治療を受けることが難しい (25.2)

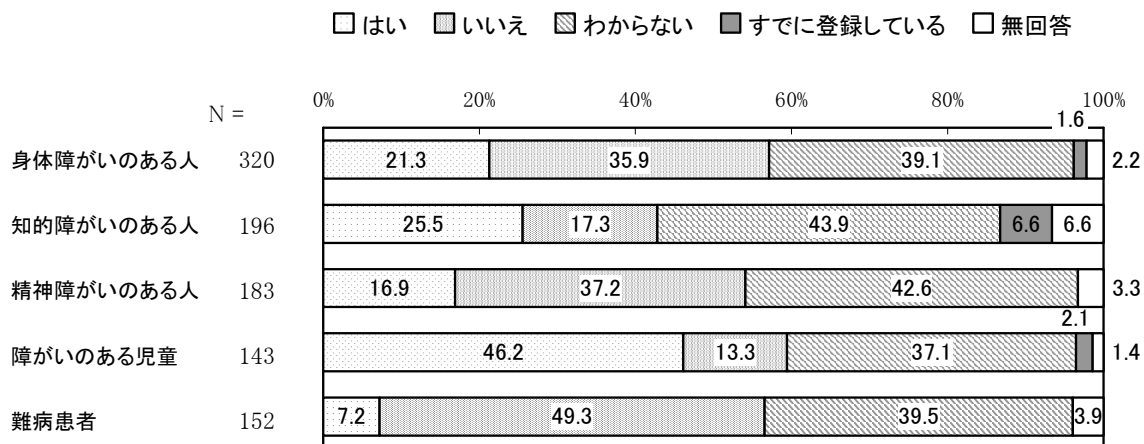
問 春日井市の災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。【身体：問 47、知的：問 47、精神：問 48、児：問 41、難病：問 40】

全体的に「知っている」の割合が2割未満となっています。



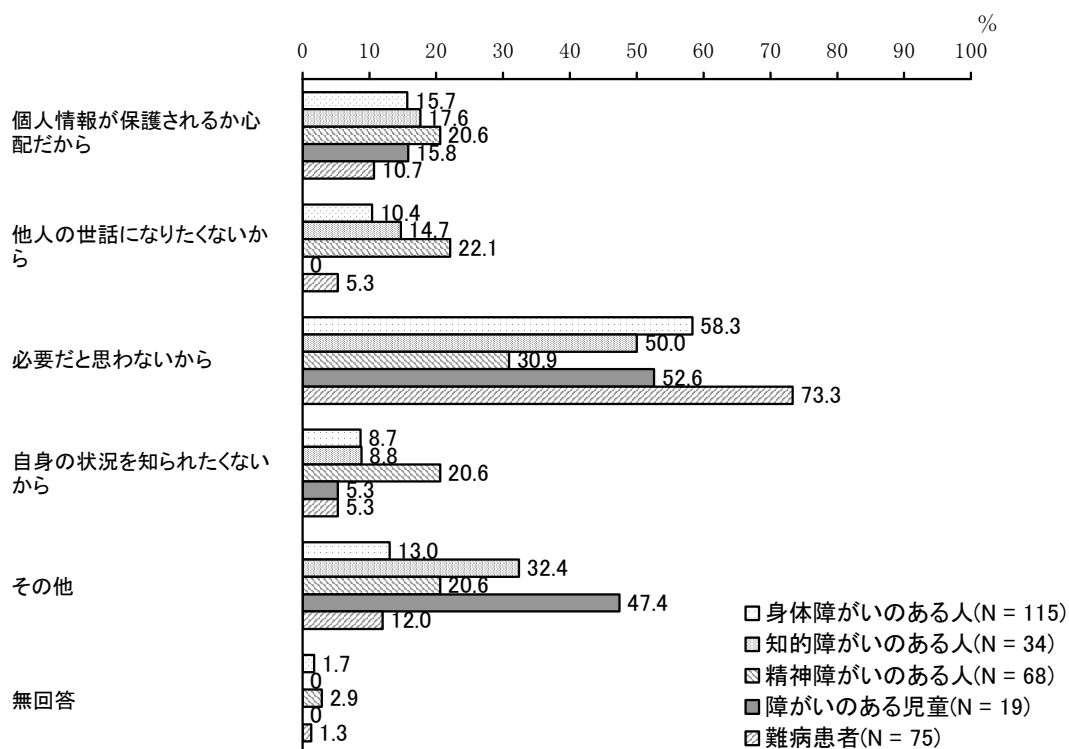
問 災害時要援護者名簿に登録したいと思いませんか。【身体：問 48、知的：問 48、精神：問 49、児：問 42、難病：問 41】

身体障がいのある人、精神障がいのある人、難病患者で「いいえ」の割合が高くなっています。



問 登録したくないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。あてはまるものすべてに○をつけてください。【身体：問 49、知的：問 49、精神：問 50、児：問 43、難病：問 42】（「災害時要援護者名簿に登録したくない」と答えた方に聞きました。）

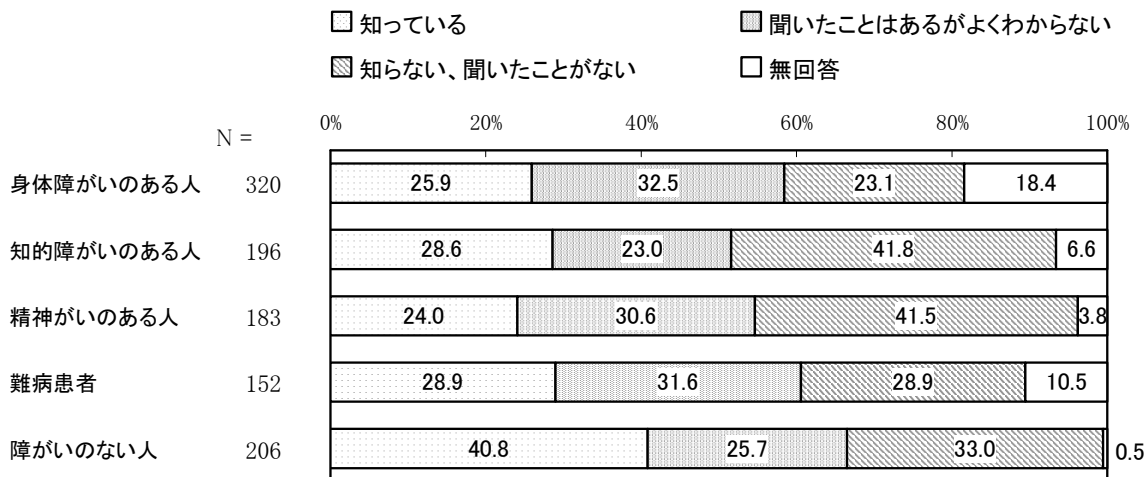
全体的に「必要だと思わないから」の割合が高くなっています。



10 障がい者の人権について

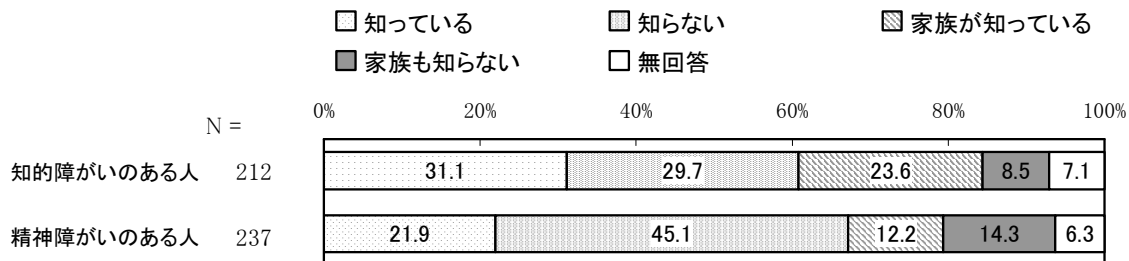
問 成年後見制度について、知っていますか。【知的：問 50、精神：問 51、家族：問 13、一般：問 23】

全体的に障がいのある人で「知っている」の割合が3割未満となっています。



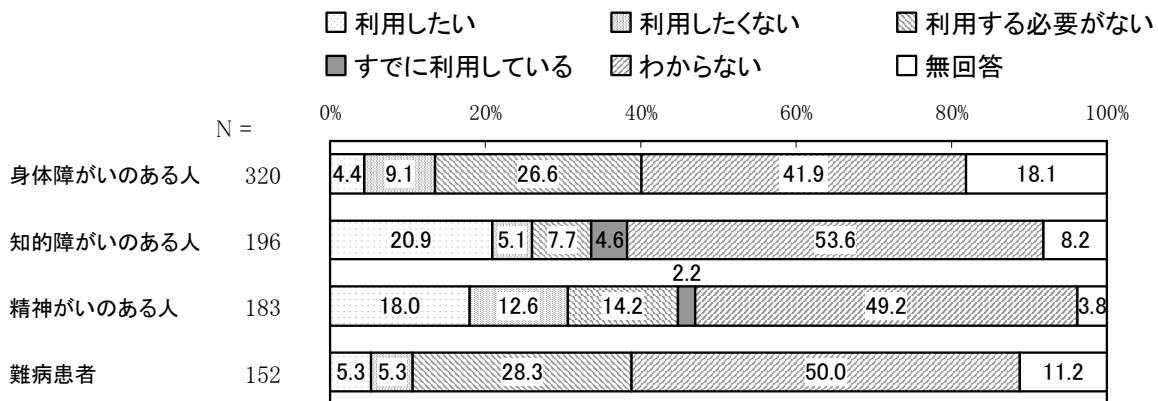
※身体・難病患者では、回答者は家族の方です。
 ※知的障がいのある人、精神障がいのある人では、回答者は本人です。

【参考：平成 22 年度調査結果】



問 成年後見制度について、将来的に利用したいと思いますか。【知的：問 51、精神：問 52、家族：問 14】

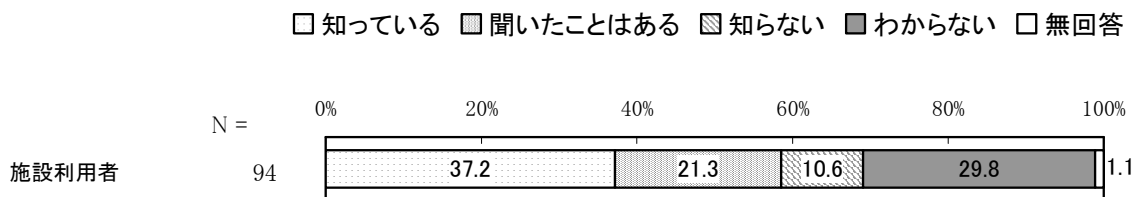
知的障がいのある人、精神障がいのある人で「利用したい」の割合が約2割となっています。



※身体・難病患者では、回答者は家族の方です。
 ※知的障がいのある人、精神障がいのある人では、回答者は本人です。

問 成年後見制度について、知っていますか。【利用者：施設問3】

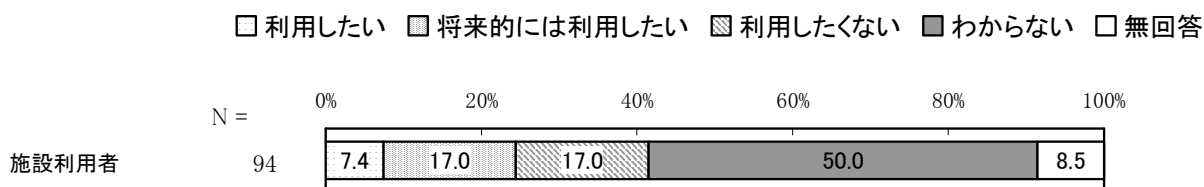
「知っている」の割合が約4割となっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

問 成年後見制度を利用したいですか。【利用者：施設問4】

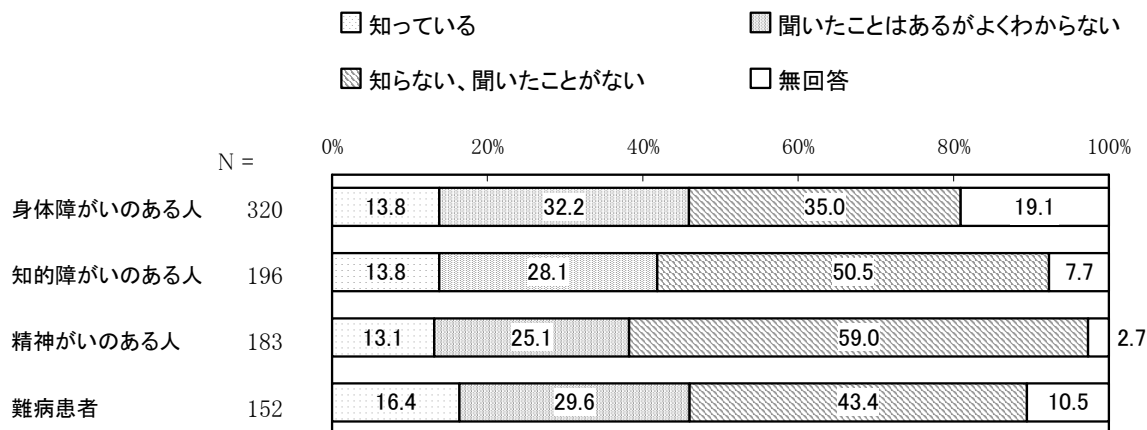
「利用したい」の割合が1割未満となっています。



※この集計は障害福祉サービス利用者に対して実施したアンケート結果です。

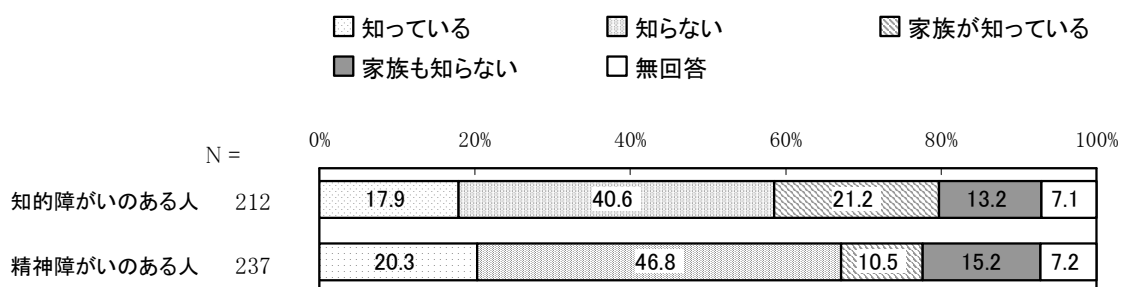
問 日常生活自立支援事業について、知っていますか。【知的：問 52、精神：問 53、家族：問 15】

全体的に「知っている」の割合が2割未満となっています。



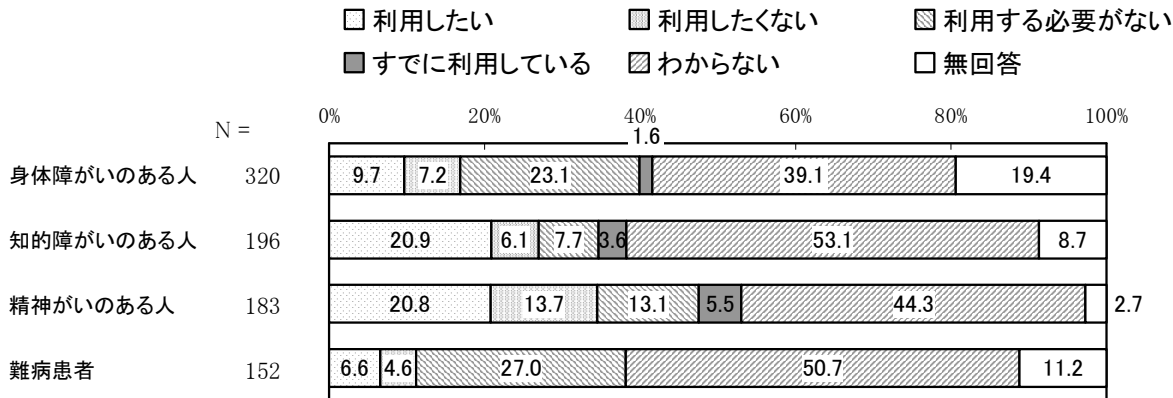
※身体・難病患者では、回答者は家族の方です。
 ※知的障がいのある人、精神障がいのある人では、回答者は本人です。

【参考：平成 22 年度調査結果】



問 日常生活自立支援事業について、将来的に利用したいと思いますか。【知的：問 53、精神：問 54、家族：問 16】

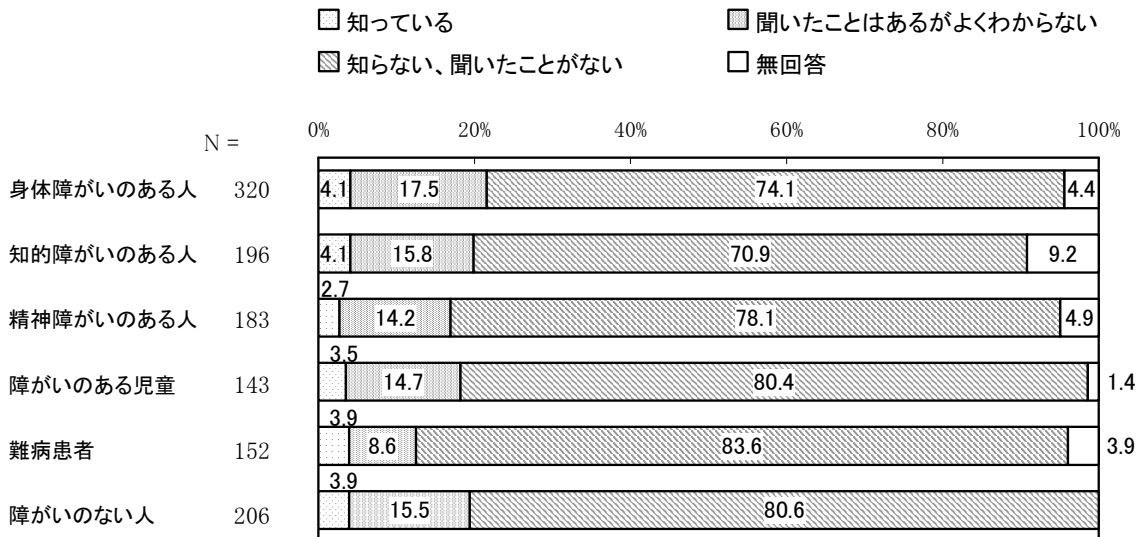
知的障がいのある人、精神障がいのある人で「利用したい」の割合が約2割となっています。



※身体・難病患者では、回答者は家族の方です。
 ※知的障がいのある人、精神障がいのある人では、回答者は本人です。

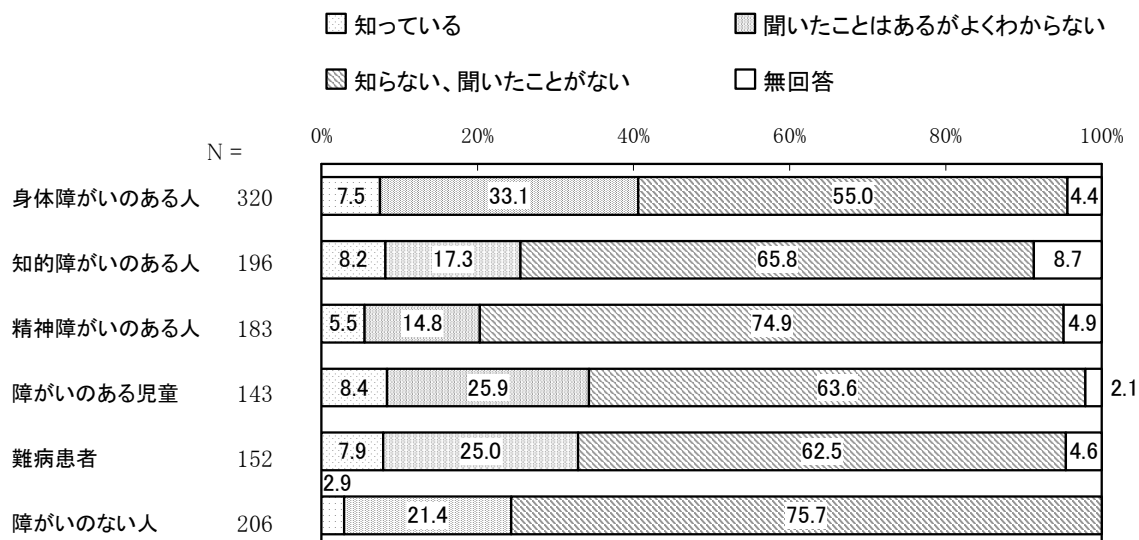
問 国連の障害者権利条約について、日本が批准する見通しであることを知っていますか。【身体：問 54、知的：問 58、精神：問 59、児：問 48、難病：問 47、一般：問 24】

全体的に「知っている」の割合が低くなっています。



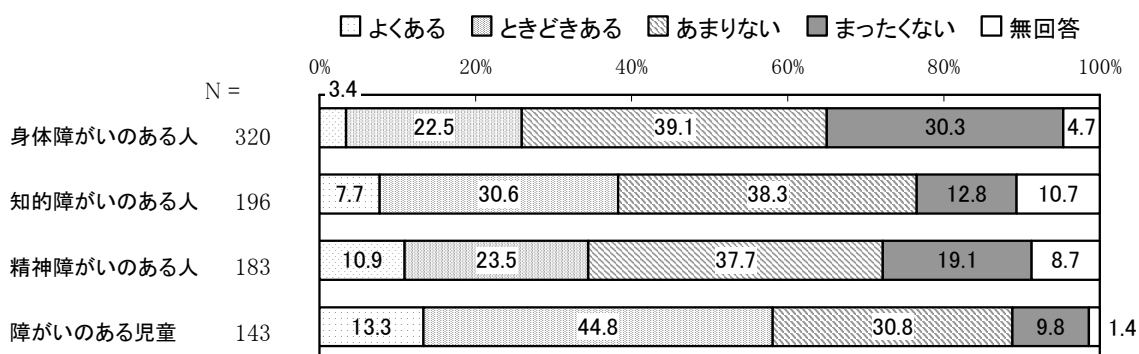
問 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）について知っていますか。【身体：問 50、知的：問 54、精神：問 55、児：問 44、難病：問 43、一般：問 17】

全体的に「知っている」の割合が低くなっています。



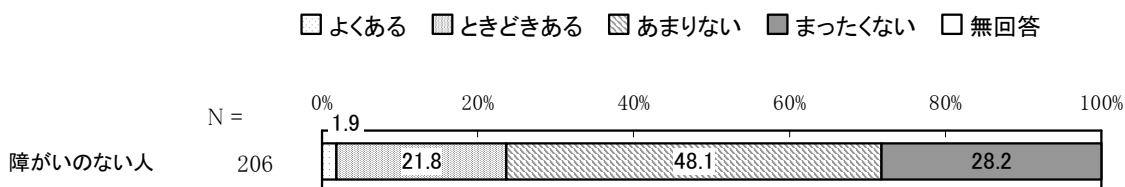
問 障がいがあることで、あなたはふだんの生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。【身体：問 53、知的：問 57、精神：問 58、児：問 47】

障がいのある児童で「よくある」、「ときどきある」の割合が高くなっています。



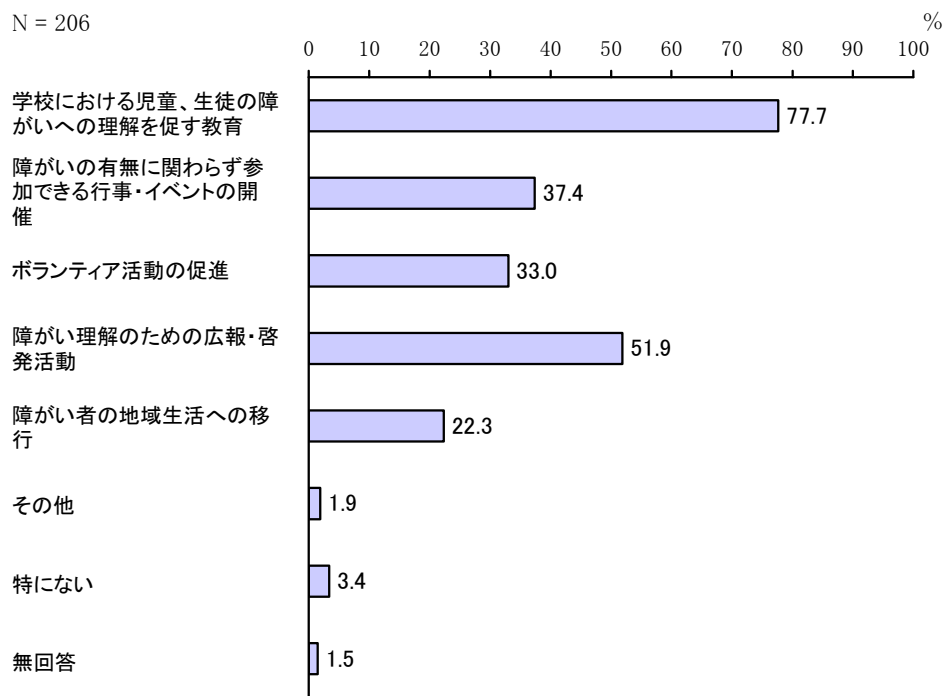
問 障がい（疾病）がある人が生活の場面で不適切な対応をされたり、いやな思いをしているのを見たことがありますか。【一般：問 21】

「よくある」と「ときどきある」の合計が約2割となっています。



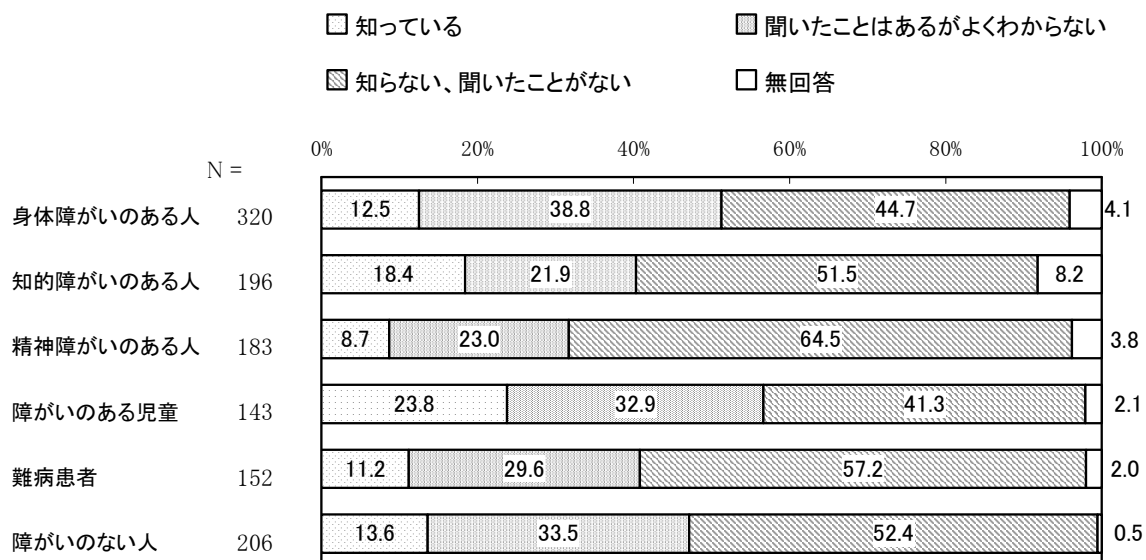
問 あなたは、障がいのある人への理解を深めるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。【一般：問 22】

「学校における児童、生徒の障がいへの理解を促す教育」の割合が最も高くなっています。



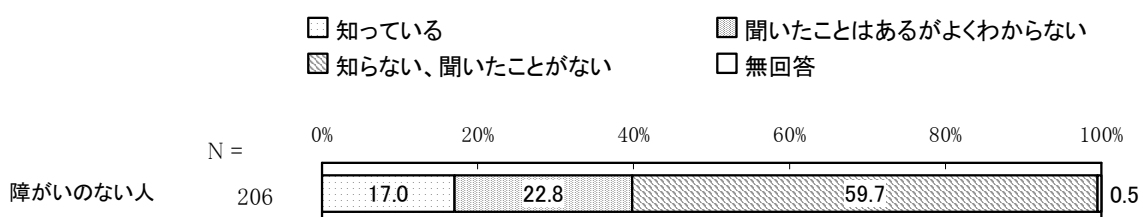
問 障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）について知っていますか。【身体：問 51、知的：問 55、精神：問 56、児：問 45、難病：問 44、一般：問 18】

全体的に「知らない、聞いたことがない」の割合は高くなっています。一方で、知的障がいのある人、障がいのある児童で「知っている」の割合が高くなっています。



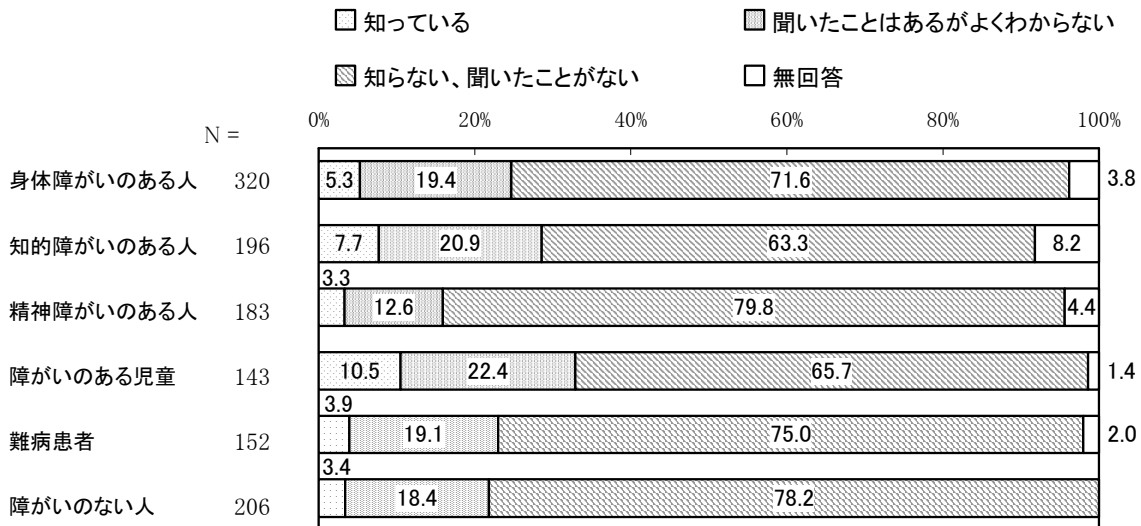
問 障害者虐待防止法について、虐待を受けたと思われる障がい者を発見した場合に通報する義務があることを知っていますか。【一般：問 19】

「知らない、聞いたことがない」の割合が高くなっています。



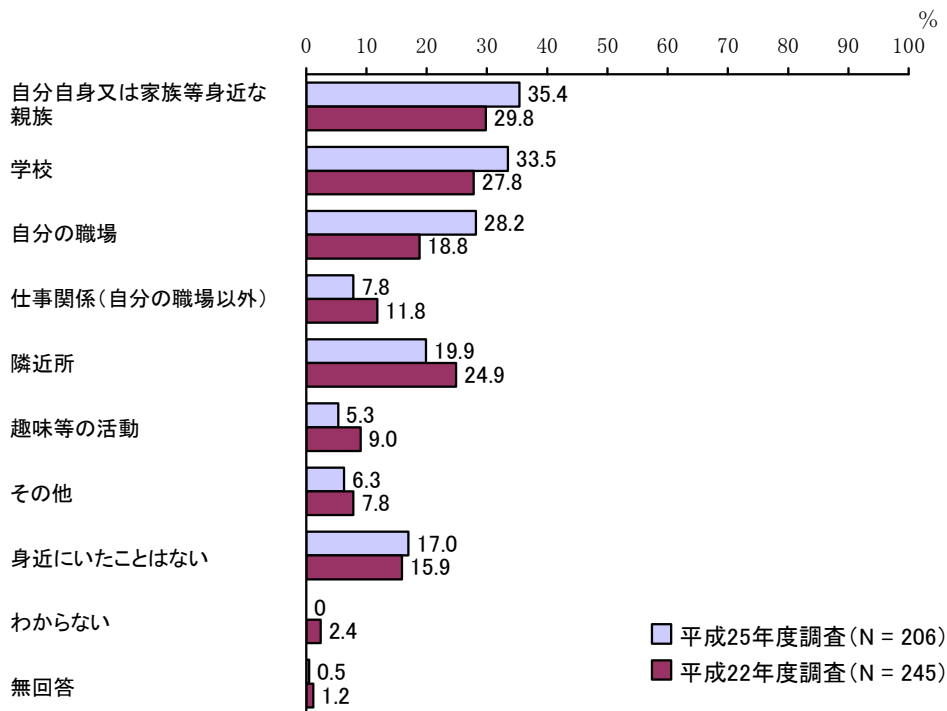
問 障がい者虐待に関する通報を受け付ける電話窓口の障がい者虐待防止ホットラインを知っていますか。【身体：問 52、知的：問 56、精神：問 57、児：問 46、難病：問 45、一般：問 20】

全体的に「知らない、聞いたことがない」の割合が高くなっています。



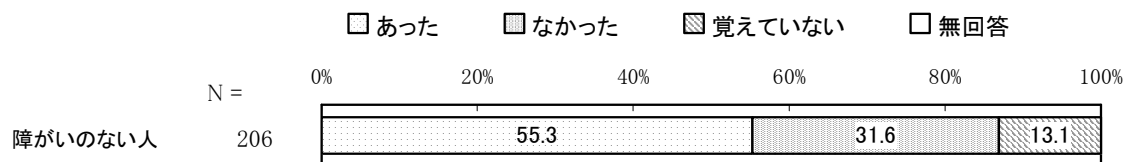
問 これまで、あなたの身近に障がいのある人がいたことはありましたか。また、それはどのような場面でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【一般：問 4】

「学校」、「自分の職場」の割合が高くなっています。

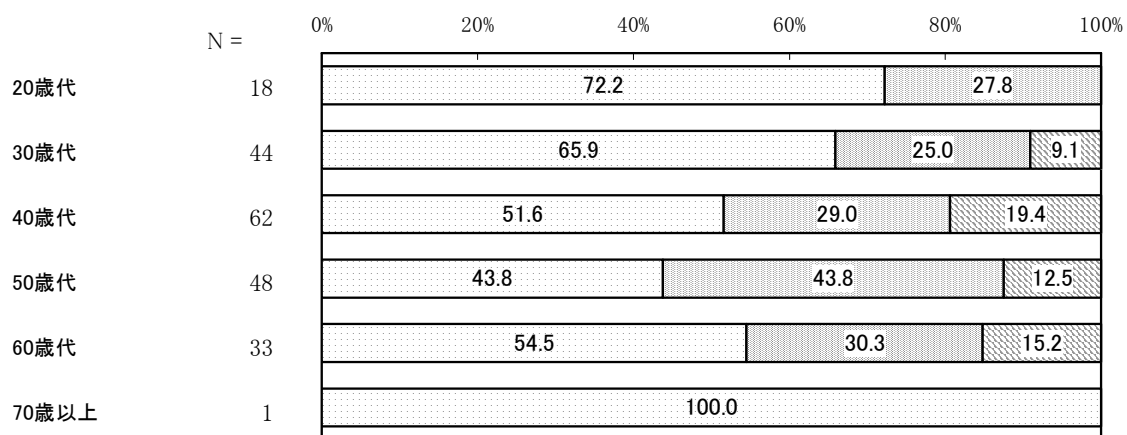


問 あなたは、これまでに学校の授業などで障がいについて学んだり障がいのある人に接する機会がありましたか。【一般：問5】

「あった」の割合が5割を超えています。また、年齢別にみると、年齢が低くなるほど「あった」の割合が高くなっています。



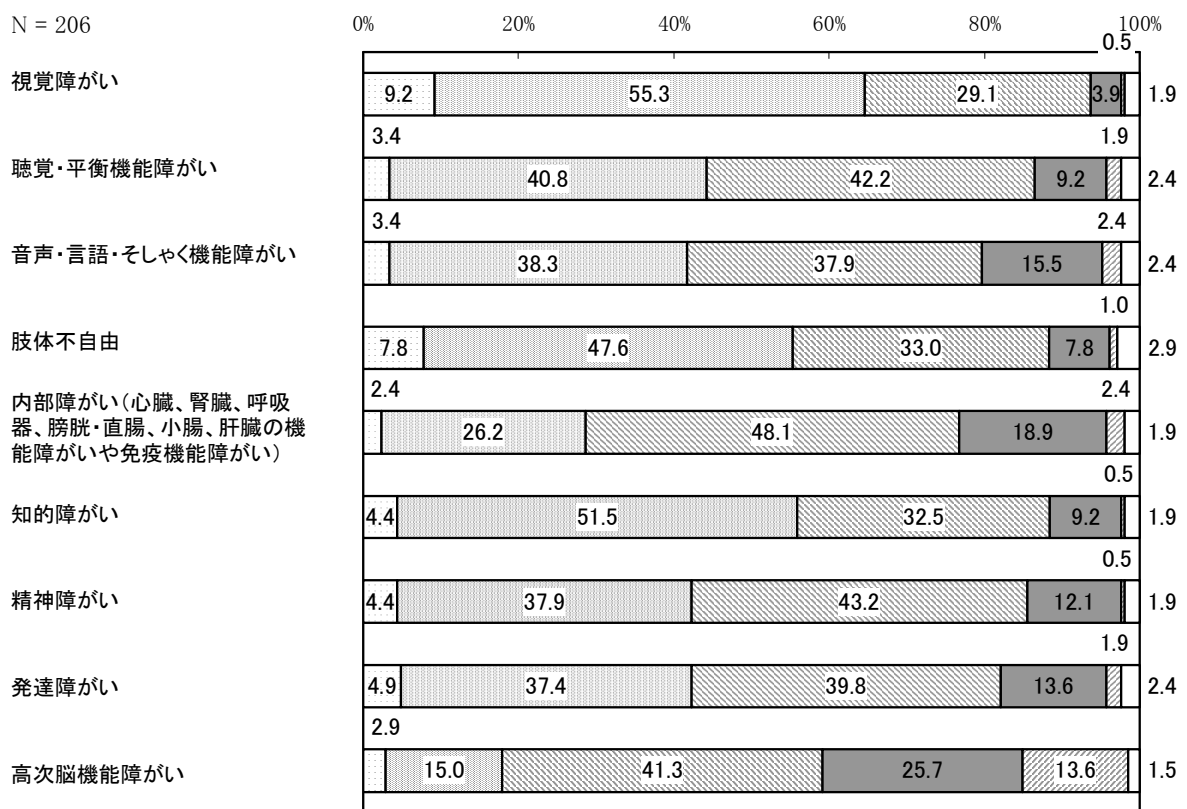
【年齢別】



問 あなたは、次の障がいについて、その特性やどのような支援が必要かを理解していると思いますか。【一般：問6】

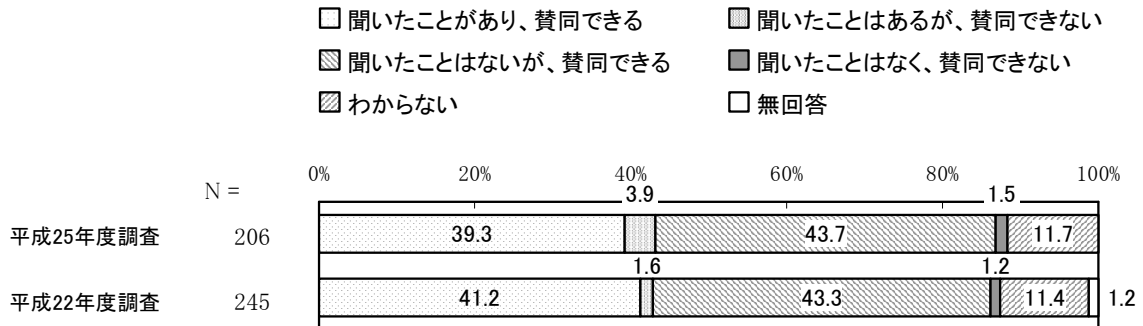
視覚障がい、肢体不自由、知的障がいで「よく理解している」と「だいたい理解している」の合計が5割を超えています。

- よく理解している
- ▨ だいたい理解している
- ▩ あまりよく分からない
- わからない
- ▤ そういう障がいがあることを知らなかった
- 無回答



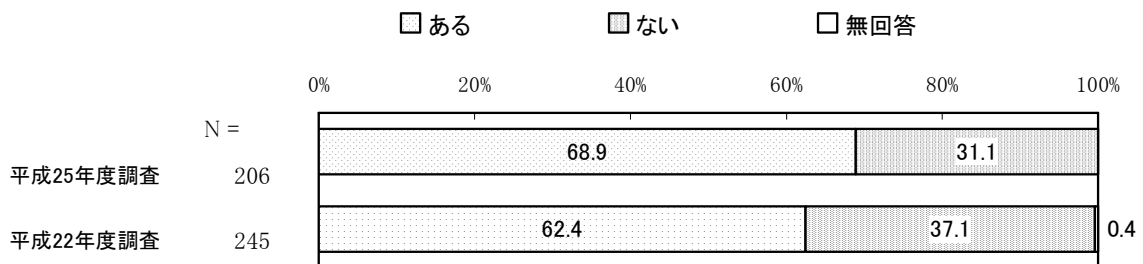
問 あなたは、「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。【一般：問7】

「賛同できる」（「聞いたことがあります、賛同できる」と「聞いたことはないが、賛同できる」の合計）の割合が8割を超えています。



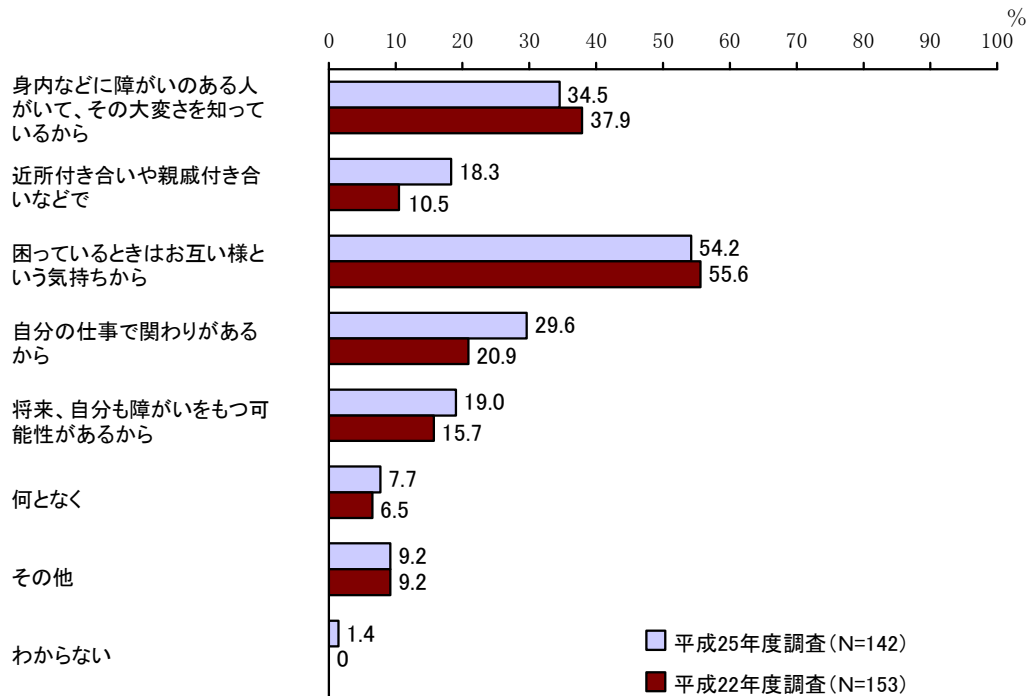
問 あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。【一般：問8】

平成22年度調査と比較して、「ある」の割合が増加しています。



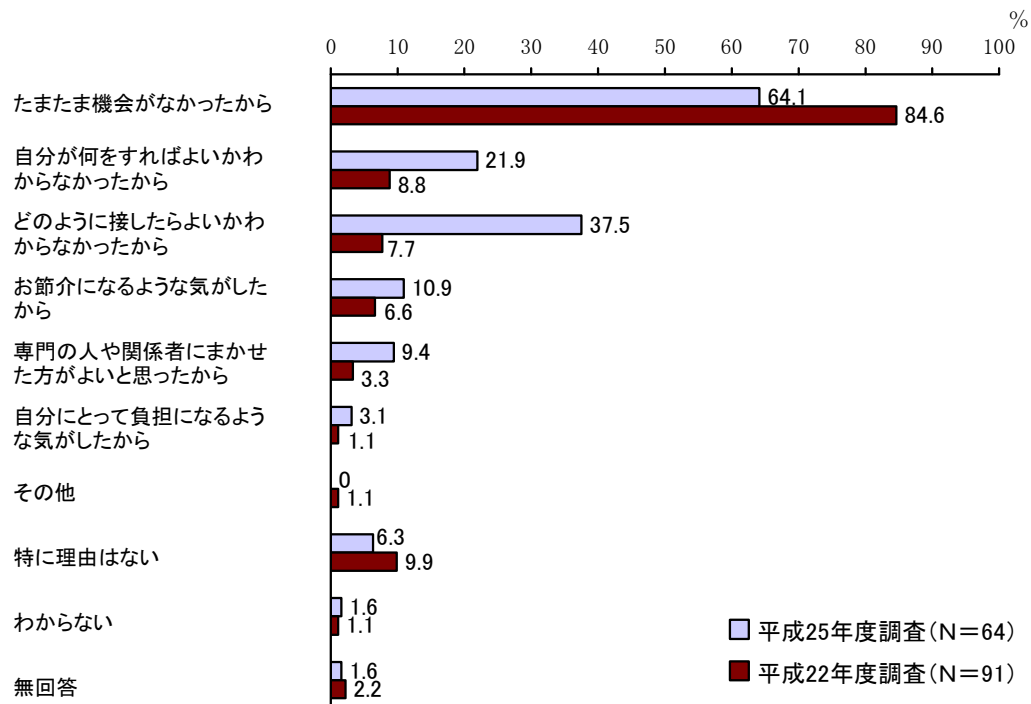
問 それはどのような気持ちからですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
【一般：問9】（「ある」と答えた方に聞きました。）

「困っているときはお互い様という気持ちから」の割合が高くなっています。



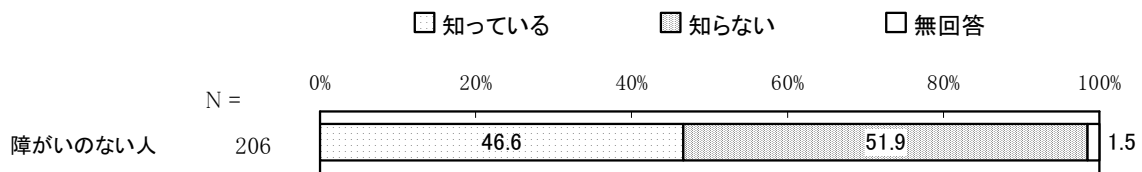
問 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【一般：問10】
（「ない」と答えた方に聞きました。）

「たまたま機会がなかったから」の割合が高くなっています。



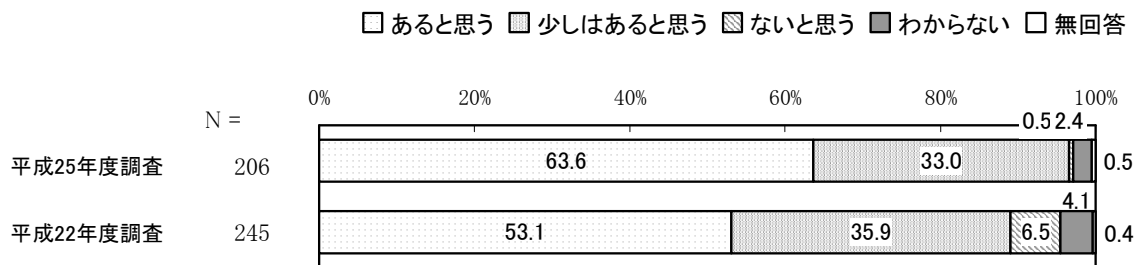
問 平成 25 年 4 月 1 日から企業における障がいのある人の法定雇用率が上がったことについて知っていますか。【一般：問 11】

「知っている」、「知らない」の割合がほぼ同数となっています。



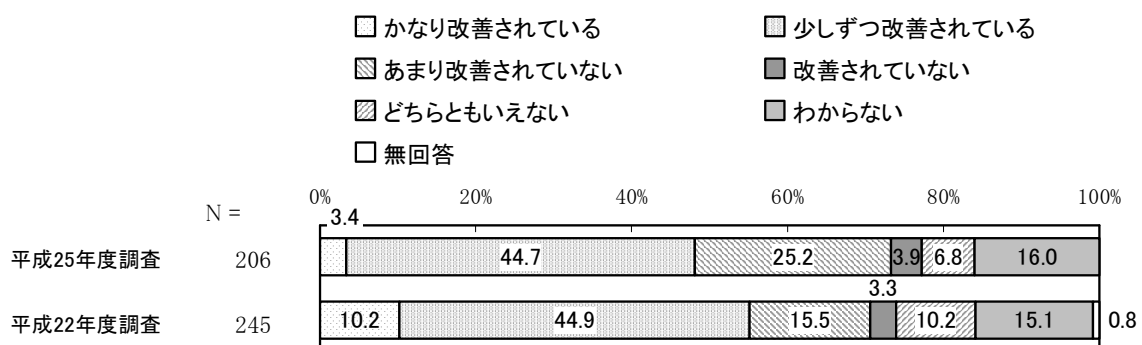
問 あなたは、世の中には障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。【一般：問 12】

平成 22 年度調査と比較して、「あると思う」の割合が増加しています。



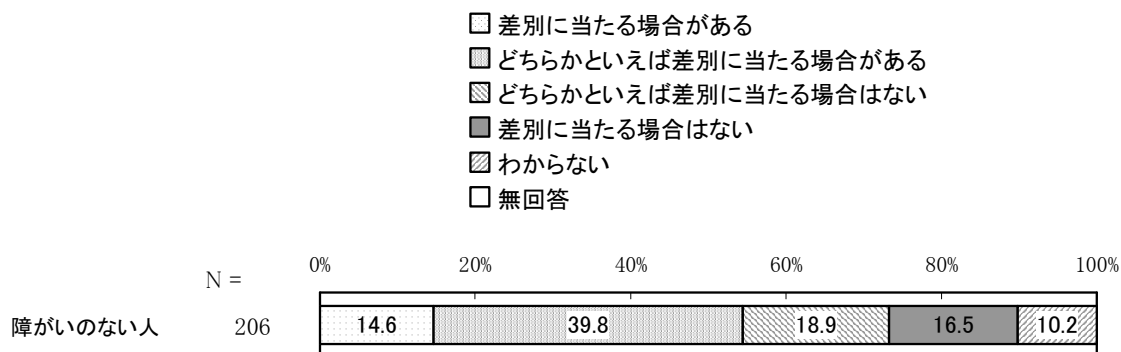
問 あなたは、5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。【一般：問 13】

「改善されている」（「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」の合計）が約5割となっています。



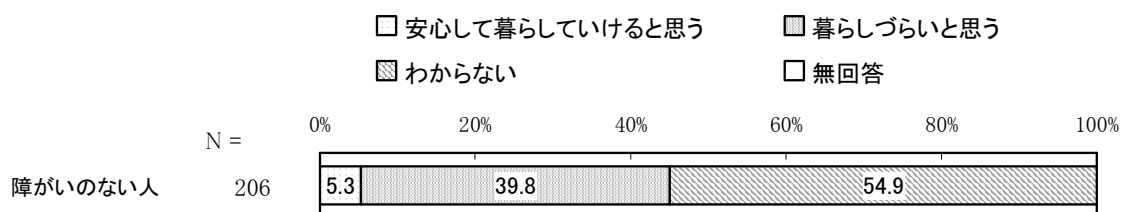
問 障がいのある人となない人が同じように生活するためには、生活するための不便さを取り除く、いろいろな配慮や工夫が必要になることがあります。あなたは、こうした配慮や工夫を行わないことが「障がいを理由とする差別」に当たると思いませんか。【一般：問 14】

「差別に当たる場合がある」（「差別に当たる場合がある」と「どちらかといえば差別に当たる場合がある」の合計）の割合が5割を超えています。



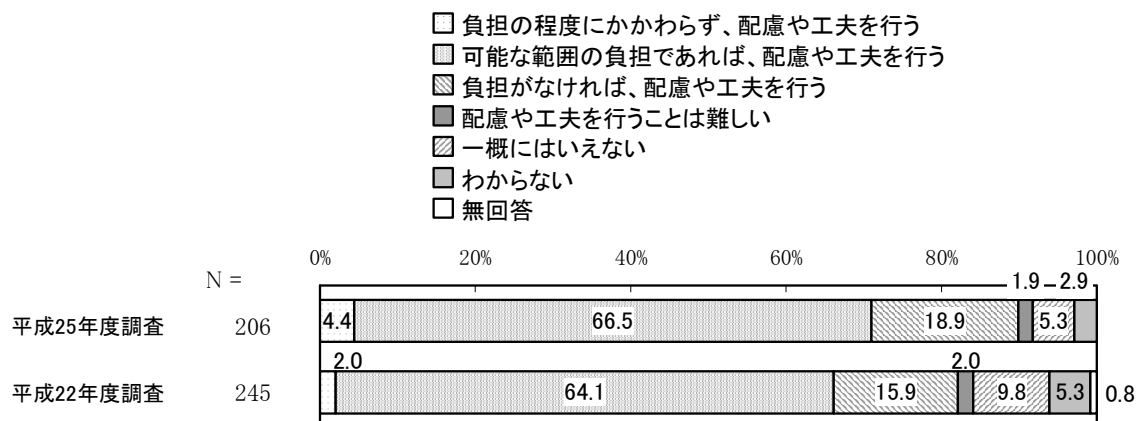
問 あなたが、もし障がいのある状態になったら、春日井市で安心して暮らしていけると思いませんか。【一般：問 15】

「暮らしづらいと思う」の割合が約4割となっています。



問 障がいのある人となない人が同じように生活するために、生活するための不便さを取り除く、いろいろな配慮や工夫を行うことをあなたが求められた場合、経済的な負担を伴うことがあります。あなたはどうしますか。【一般：問 16】

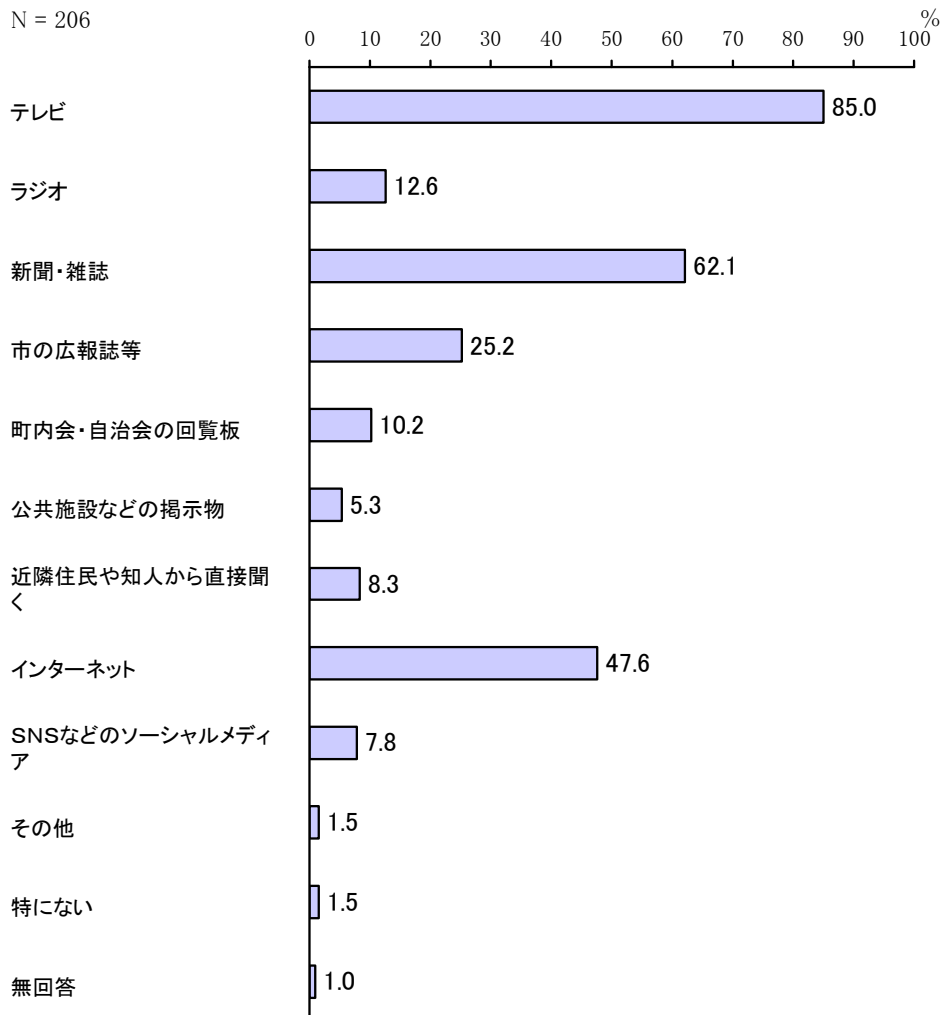
「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」の割合が約7割となっています。



11 障がい者施策について

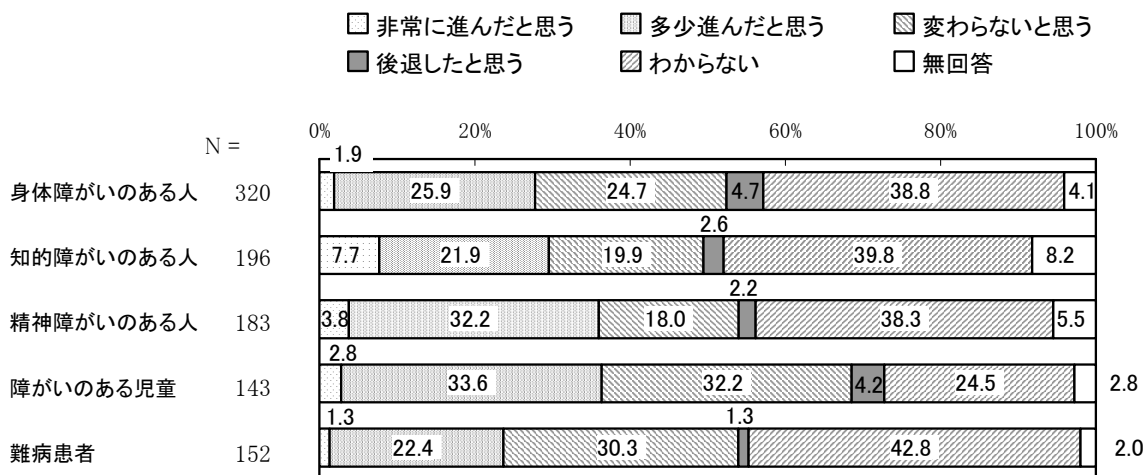
問 あなたが身近な情報を得ている手段は何ですか。主なものに3つまで○をつけてください。【一般：問26】

「テレビ」の割合が最も高くなっています。

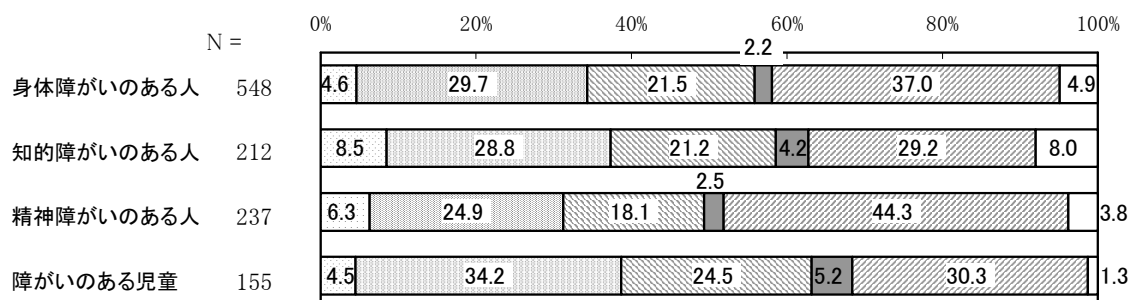


問 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。【身体：問 55、知的：問 59、精神：問 60、児：問 49、難病：問 48】

「進んだと思う」（「非常に進んだと思う」と「多少進んだと思う」の合計）の割合が約3割となっています。

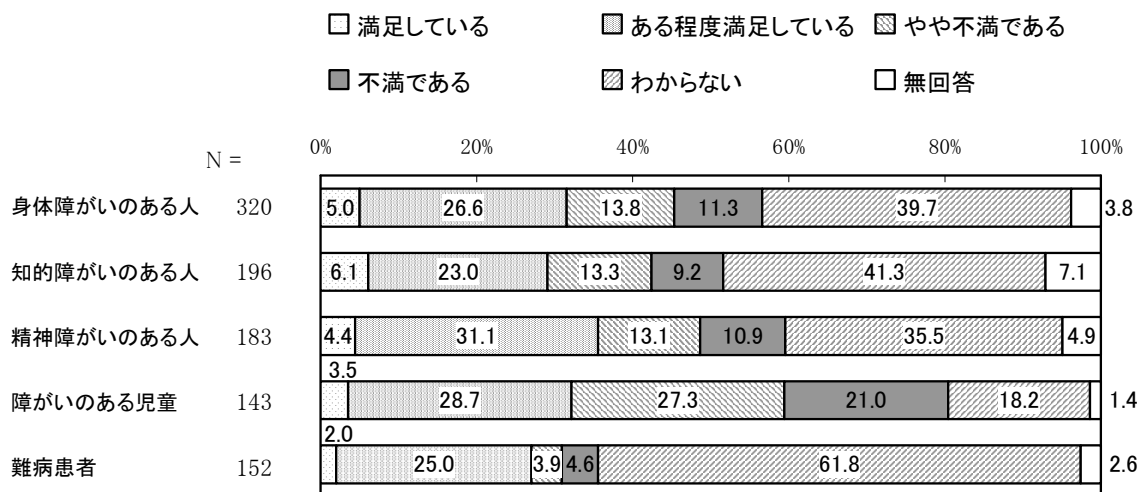


【参考：平成 22 年度調査結果】

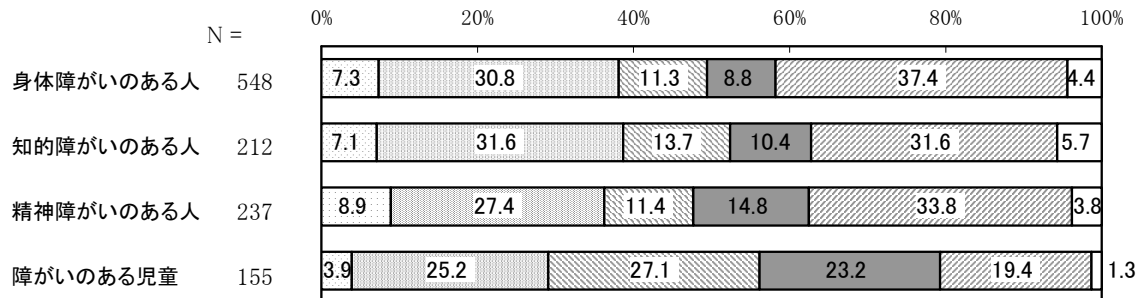


問 春日井市における福祉・教育・雇用・まちづくりなど、障がい者の施策について満足していますか。【身体：問 56、知的：問 60、精神：問 61、児：問 50、難病：問 49】

「満足している」（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）の割合が約3割となっています。

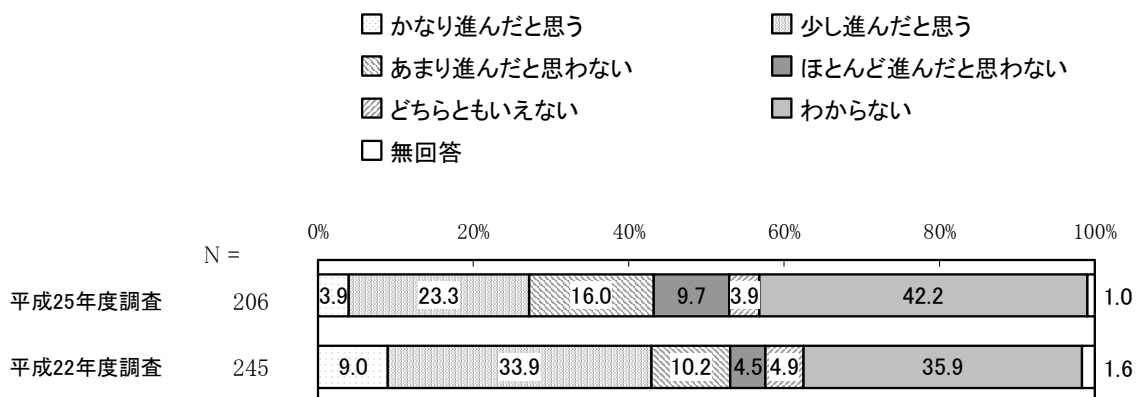


【参考：平成 22 年度調査結果】



問 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。【一般：問25】

「進んだと思う」（「かなり進んだと思う」と「少し進んだと思う」の合計）の割合が約3割となっています。



問 今後、特に充実すべきだと考える障がい者の施策についてお答えください。あてはまるものに5つまで○をつけてください。【身体：問 57、知的：問 61、精神：問 62、児：問 51、難病：問 50、一般：問 27】

障がいの種類によって充実すべきだと考える施策に違いが見られます。

単位：%

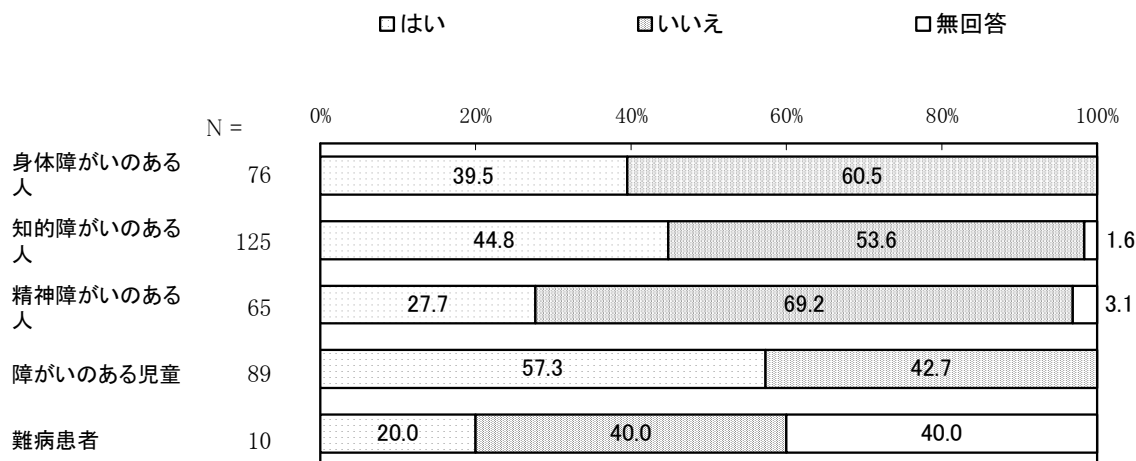
	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者※	障がいのない人
有効回答数(件)	320	196	183	143	152	206
1位	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (38.1)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の数や施設の数を増やすこと (40.3)	障がいのある人が負担する医療費を減らすこと (36.6)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう就労を支援すること (65.7)	医療費等への助成や手当の充実 (62.5)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう就労を支援すること (63.1)
2位	公共施設、駅、デパートなどをバリアフリー化すること (31.3)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (34.7)	障がいのある人に対する差別をなくすこと (33.9)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の数や施設の数を増やすこと (39.9)	近隣公立病院への特殊疾病専門外来の設置等、医療の充実 (39.5)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の数や施設の数を増やすこと (52.9)
3位	障がいのある人が負担する医療費を減らすこと (29.1)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (32.7)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう就労を支援すること (30.6)	障がいのある人に対する差別をなくすこと (35.7)	長期入院・入所できる施設の確保 (34.2)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (50.5)
4位	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう就労を支援すること (27.5)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう就労を支援すること (28.1)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (29.5)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (35.0)	難病検診の実施 (27.6)	可能な限り障がいのある児童・生徒が障がいのない児童と共に学ぶことができるようにすること (37.9)
5位	障がいのある人が身近な病院や診療所で検診や検査を受けることができるようにすること (21.3) 障がいのある人のための住宅を確保すること (21.3)	障がいのある人に対する差別をなくすこと (26.5)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の数や施設の数を増やすこと (26.2)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (34.3)	病気の人や障がい者、高齢者への理解を深めるための啓発・広報活動 (23.0) 福祉等の制度やサービスについての情報提供 (23.0)	公共施設、駅、デパートなどをバリアフリー化すること (35.9)

※難病患者のくらしに関するアンケート調査では他の調査と選択肢が異なります。

12 障がいのある人の家族について

問 あなたは仕事をしていますか。【家族：問5】

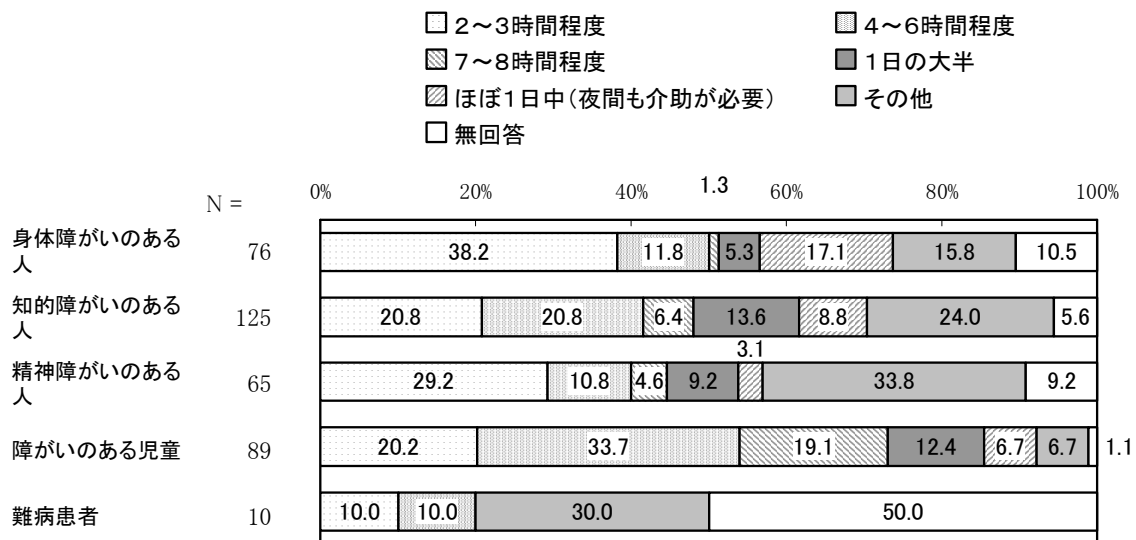
精神障がいのある人で「いいえ」の割合が約7割となっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたが1日あたりの介助にかけている時間はどれくらいですか。【家族：問6】

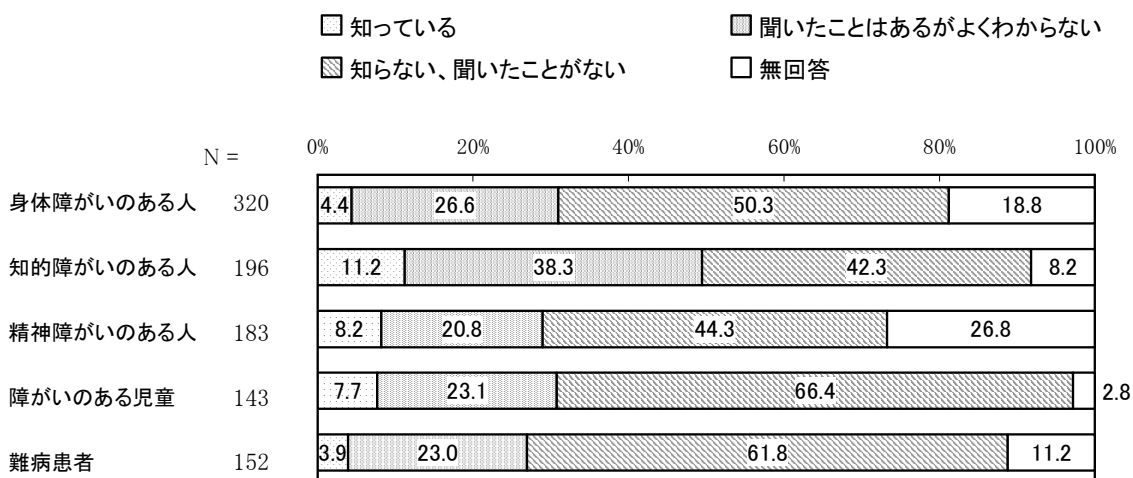
障がいの種類によって介助にかけている時間に違いが見られます。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）について知っていますか。【家族：問 11】

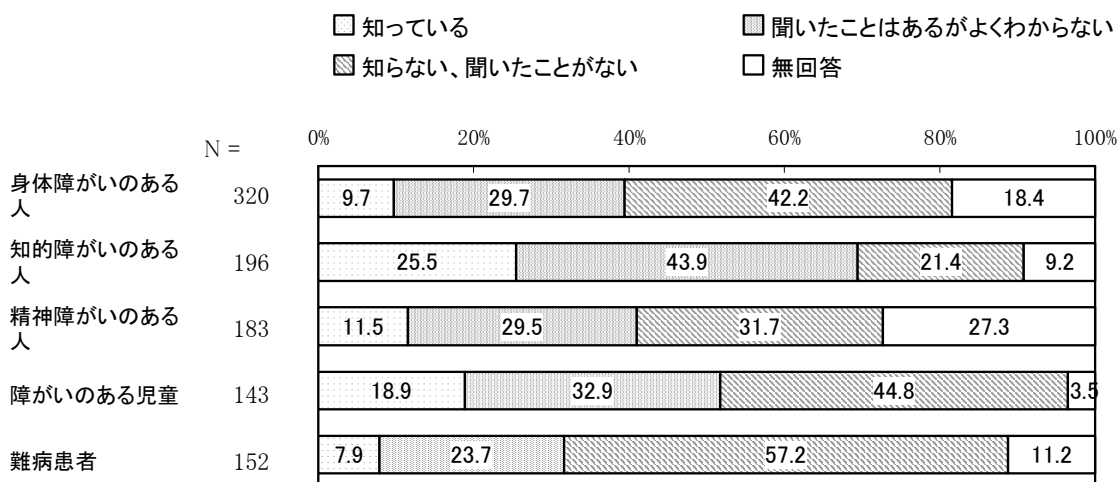
全体的に「知っている」の割合が低くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）について知っていますか。【家族：問 12】

知的障がいのある人、障がいのある児童で「知っている」の割合が高くなっています。

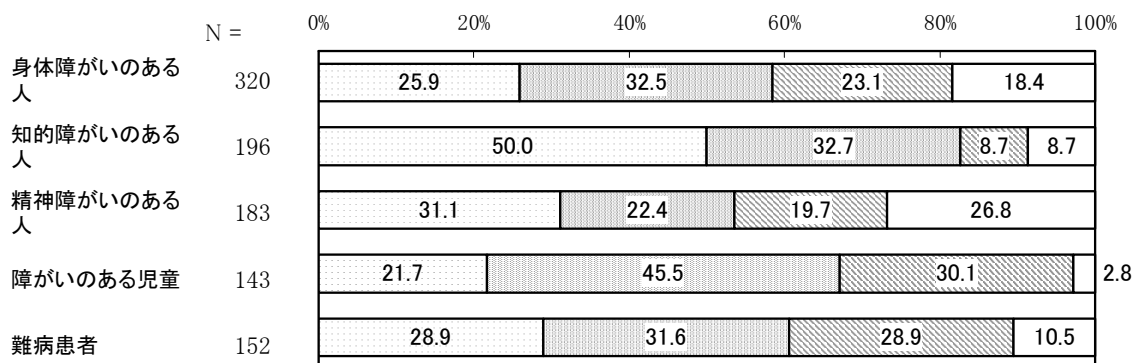


※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、成年後見制度について、知っていますか。【家族：問 13】

知的障がいのある人で「知っている」の割合が高くなっています。

- 知っている
- 聞いたことはあるがよくわからない
- 知らない、聞いたことがない
- 無回答

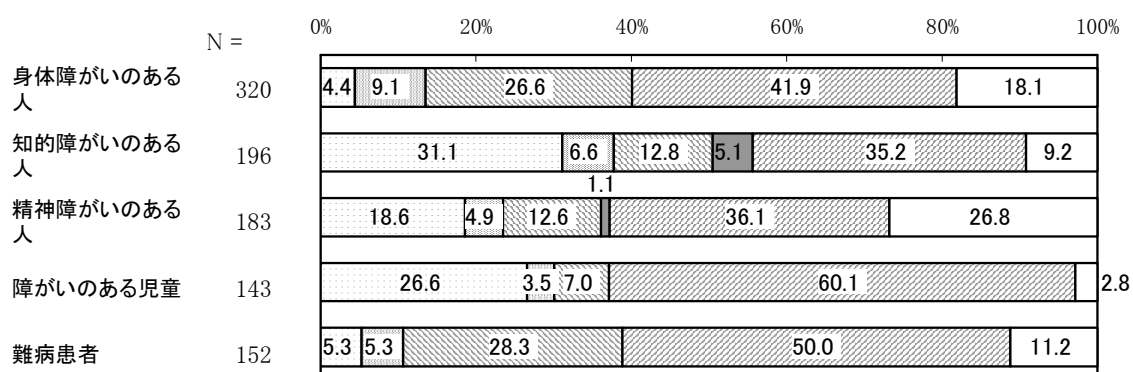


※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、宛名の方について、将来的に成年後見制度を利用したいと思いますか。【家族：問 14】

知的障がいのある人、精神障がいのある人、障がいのある児童で「利用したい」の割合が高くなっています。

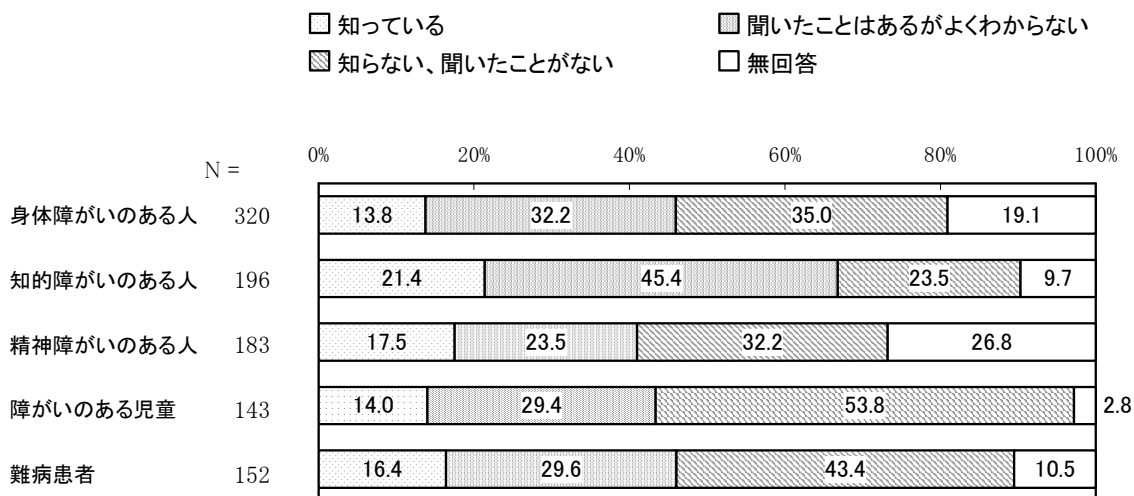
- 利用したい
- 利用したくない
- 利用する必要がない
- すでに利用している
- わからない
- 無回答



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、日常生活自立支援事業について、知っていますか。【家族：問 15】

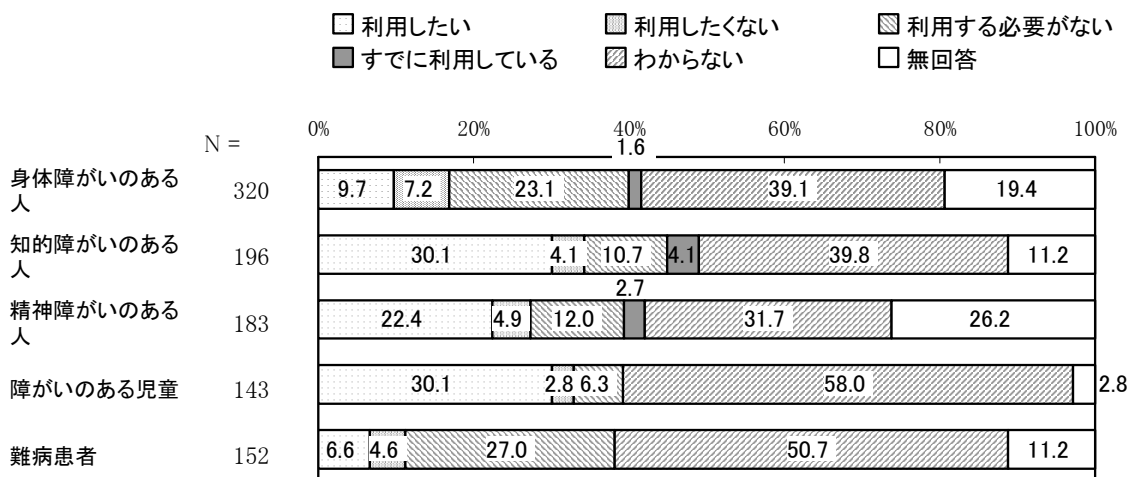
全体的に「知っている」の割合が低くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、宛名の方について、将来的に日常生活自立支援事業を利用したいと思いますか。【家族：問 16】

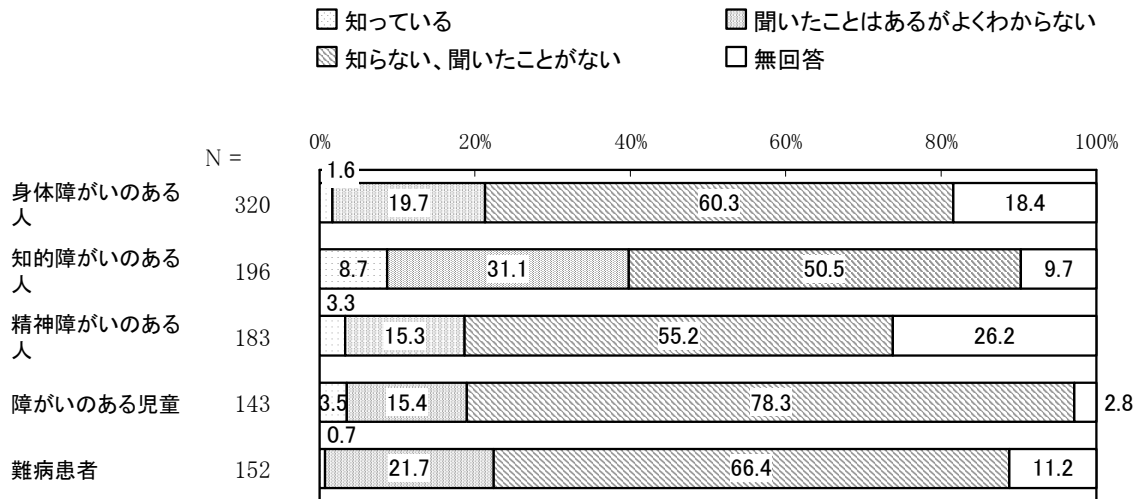
知的障がいのある人、精神障がいのある人、障がいのある児童で「利用したい」の割合が高くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 国連の障害者権利条約について、日本が批准する見通しであることを知っていますか。【家族：問17】

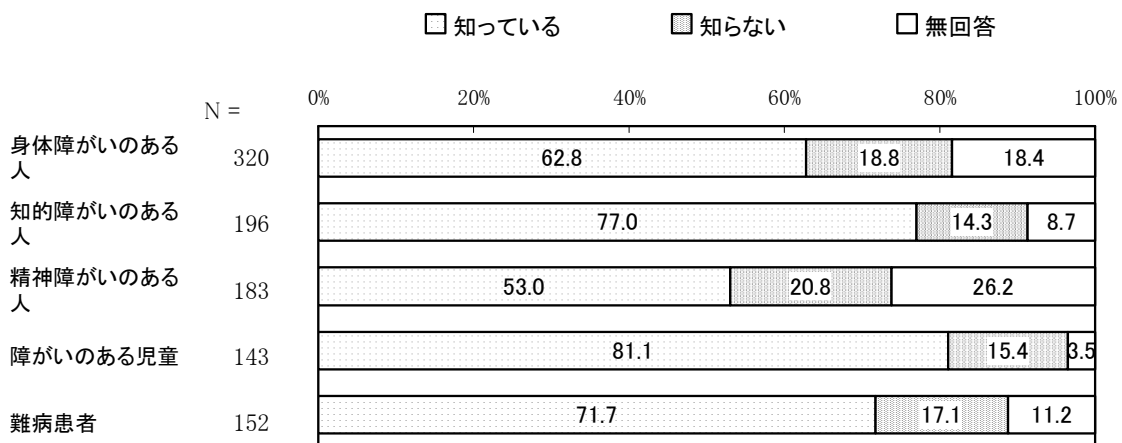
全体的に「知っている」の割合が低くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、災害などの緊急事態が発生した場合の避難場所を知っていますか。【家族：問18】

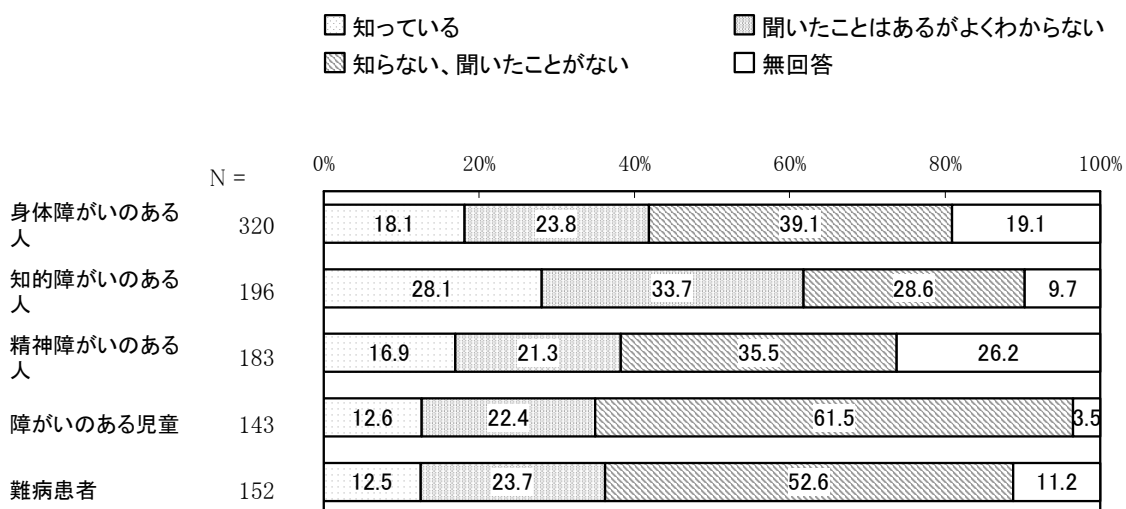
精神障がいのある人で「知っている」の割合が低くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、春日井市の災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。【家族：問 19】

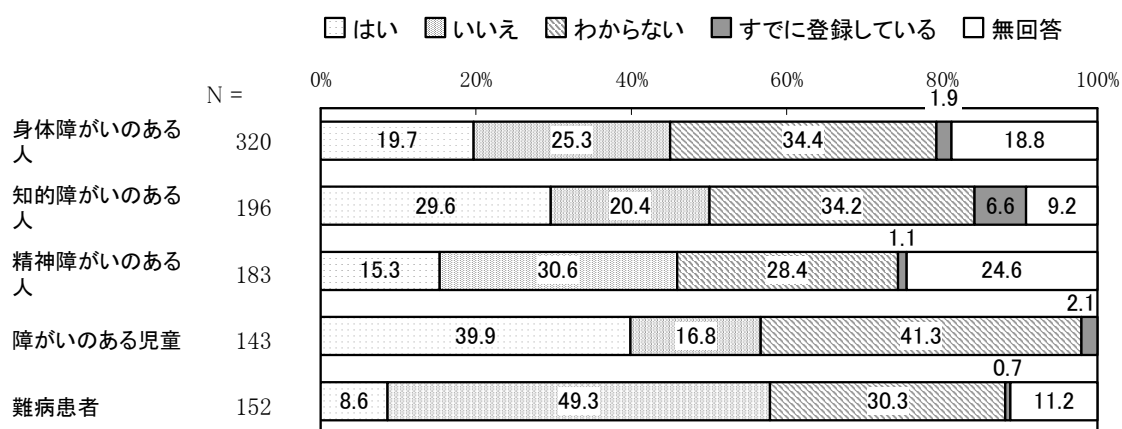
知的障がいのある人で「知っている」の割合が高くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 あなたは、宛名の方について、災害時要援護者名簿に登録したいと思いますか。【家族：問 20】

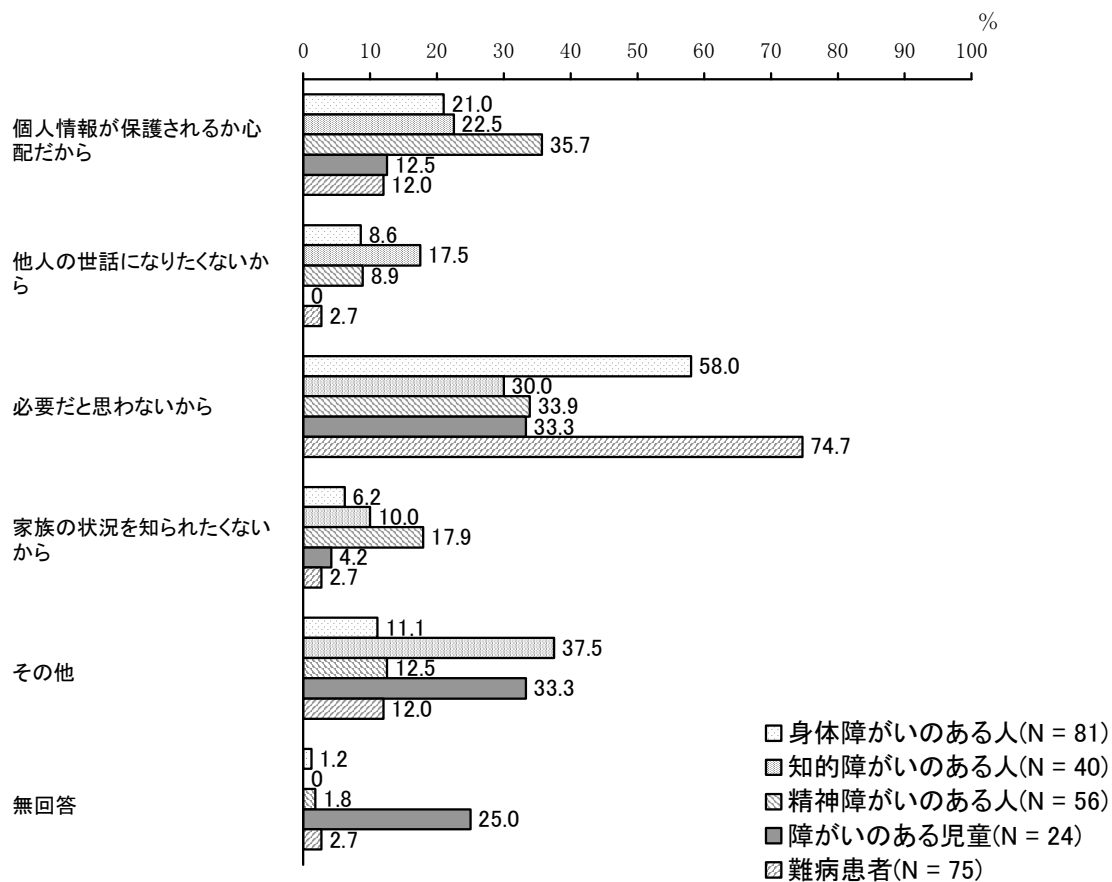
障がいのある児童で「はい」の割合が高くなっています。



※回答者はご家族の方です。

問 登録したくないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。あてはまるものすべてに○をつけてください。【家族：問 21】
 (「災害時要援護者名簿に登録したくない」と答えた方に聞きました。)

全体的に「必要だと思わないから」の割合が高くなっています。



※回答者はご家族の方です。

Ⅲ 自由意見

市の障がい者福祉について、多くの意見や要望等をいただきました。

1. 身体障がい	
(1) 日常生活について	6件
<ul style="list-style-type: none"> まさか自分が障がい者になるとは思っていませんでしたので最初はなかなか受け入れることができませんでした。しかし年数が経ち、自分が障がい者と認識できるようになり福祉について知っておかなければならないと思うようになりました。今後勉強して知らなければならないことを学び利用させていただきたいと思っています。 3級のため、現在タクシー利用券をもらっていますが、自身で車の運転をするので、あまり利用することがありません。以前のようにガソリン券が使えるようにしてほしいです。 入所施設を増やすこと特に若者が自活できるような施策を希望します。 高齢の障がい者が福祉施設に安価で入居できるようにしてほしいです。 	
(2) 情報提供について	3件
<ul style="list-style-type: none"> 春日井市の障がい者サービスに関係する冊子など、希望者の方には、毎年送ってほしいです。 要約筆記の依頼はいろいろな場面に合わせて使えるとよいと何年前から痛切に願っています。 視覚障がい者の交流できる場所などを知りたいです。 	
(3) 就労について	1件
<ul style="list-style-type: none"> 就労の情報が少なすぎます。 	
(4) 余暇活動について	2件
<ul style="list-style-type: none"> 障がいの多少にかかわらず、障がいのある人が、趣味や場を楽しめるイベントや機会を教えてください。情報がほしいです。妻がいなくなったら、すべてに不自由になるので今後の自分のためにいろいろな情報の提供を受けたいと思います。 障がい者がプールに行きたくても、車椅子では入れず、障がい者スポーツの指導員がいれば安心できるので、車椅子で入れるようにしてほしいです。障がい者が安心してスポーツができる施設があれば、車椅子でも利用できる所がほしいと思います。外に出られないので、指導員がいる施設があるとよいと思います。 	
(5) 移動・外出について	7件
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスを乗り降りする時にスロープを出すなど、もう一段昇り降りできるのをつけてほしいです。 自動車燃料利用券をいただいています。給油がどこのスタンドでもできると嬉しいです。自宅より離れた給油所なので、移動だけでもったいなさを感じます。 いろいろ障がい者のための行事がありますが、そこに行く手段がありません。もっと地域毎の行事を計画してほしいです。例えば供用施設を利用しての昼食会、茶話会等を定期的に行うなど、障がい者の人も参加して作業することで満足感が得られると思います。 タクシー利用券について、3級以上ではなく全障がい者に支給していただきたいです。また、近隣市では月の記入はなく年間〇枚となっており出かけなかった月もあるので助かります。支給額も基本料金とすれば値上がりした時に差額が出ないと思います。 	

(6) 医療について	3件
<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある者にとって医療費がかからないのは大変ありがたいことです。聴覚障がいの場合、高い補聴器や修理代、電池代などそれなりに負担が生じますので、補助していただき大変助かっています。補聴器購入、修理申請の際の両耳装用が認められないのはとても残念です。 透析できる医療機関を増やしてほしい。 医療費受給者証、タクシー利用券、使わせていただいております。大変助かっております。福祉に対するサービスが、今後、減らされたり助成がなくならないよう、心から願っています。障がい者が安心して、住んでいられる春日井市であってほしいと思います。 	
(7) 生活環境について	2件
<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設をもっと充実してもらいたいです。60歳未満の障がい者の利用施設を増やし、高齢者施設と分けてもらいたいです。 それぞれの地域に講座などを開いてもらい、付近にどんな方が居るのか、何かあったらどう対応すべきなのかを把握する必要があると思います。 	
(8) 差別や権利擁護、障がい者理解について	1件
<ul style="list-style-type: none"> タクシー利用券をいただきこれが大変ありがたいと思っておりますが、タクシーの運転手さんより対応が異なることが多々あり嫌な思いを何度か経験しました。障害者手帳には住所、氏名、年齢、と個人情報詳しく記されています。これを提示するには抵抗があります。人によりますが、住所やどんな障がいがあるのか、中を広げて詳しく見る人がいてすごく嫌な気持ちになります。 	
(9) アンケートについて	3件
<ul style="list-style-type: none"> 質問が理解できなかった。障がいの程度の違いがあり答えにくいところが多くありました。 これ自体が良くわからないので答えられません。 	
(10) 行政への要望	11件
<ul style="list-style-type: none"> 春日井市では「障がい者」としてはいますが、「障害者」でも障りはないと思います。かすがいシティバスの本数や路線が増えるとういと思います。身体のリハビリがあるように、心のリハビリ、すなわち訪問カウンセリングをぜひ実現させていただきたいと思います。1、今後老人社会になるに連れ、うつ病、自殺希望者が増加するため。2、その軽減対策にもなる。3、今後の福祉改善にもなる。 春日井市は他の市町より障がい者福祉に尽力されているように見受けられてよいと思っております。将来に向けて、障がい者の人数も増え、財政面で大変かと思っておりますが、なるべく、無駄をばぶき、必要なところは重点的に、速やかに行っていただきたく思います。障がい者の自立のための意識を高める広報活動支援を今後とも願っています。 障がい者、難病患者（特定疾患患者）への支援金があまり少ない印象です。 体調のよい時は、名古屋市、小牧市等、出かけることもあるので、近くの市町村の福祉サービスも冊子かなにかで知らせていただけるとよいです。（先日、名古屋市内の駐車場に停めたら、障害者手帳持参で駐車料金がかからずすみ助かりました。 障がい者が窓口で手続きするとき、保険、年金、福祉手続きが1か所でしか手続きできず、常に移動を求められることは、負担になります。 住宅手当など、もっと障がい者にも余裕のあるくらしができればと思います。今は、年金だけなのでぎりぎりなので、つらいです。 	
(11) その他	11件
<ul style="list-style-type: none"> 税金がどんどん上がって給料はあがらず、生きていくのに精一杯です。 障がい者の立場に立って職員の方々に考えていただきたいです。 	

2. 知的障がい	
(1) 日常生活について	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今はお父さんやお母さんが元気なのでよいが、作業所へ通うことも難しくなるのではないかと不安です。夕方にも早く迎えが必要なので困ります。 ・ 家族がどうしても用事のあるときに見てくれる施設がほしいです。短期入所も1か月から2か月前に用事がわかればよいが、それもなかなか取れません。それであれば必要ありません。 ・ 親もだんだんと年をとってきますので、障がい者を入所させるところが少ないです。現在障がいの子どもは入所していますが、親も年を取ると送迎、外出など難しくなります。予約してからでないとどうにもならないので、急の場合預かってくれるところがあればうれしいです。 ・ 現在作業所に通所しております。家族が障がいのある我が子を送迎しています。今はまだ大丈夫ですが、今後高齢になり送迎だけでなく日常のことをできなくなると思うと不安が募ります。障がいのある子が30歳位にはケアホーム、グループホームの設備をしていただきたいです。 	
(2) 相談について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談できる事業者の営業時間のことで意見があります。まず営業時間を20時または21時まで延長してほしいです。理由はその日に相談したいことがあっても、仕事がありどうしても営業時間に間に合わないため、結局相談できないまま終わってしまうのが困ると思います。 	
(3) 情報提供について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援、相談、窓口知らないので、障がい福祉課に行ったとき、電話番号など教えてくださいと助かります。 	
(4) 就労について	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役所関係の仕事や作業の中で、障がい者にできる作業もあるのではないかなと思います。それらを障がい者に依頼することで、工賃を少しでも上げることができないものかと思います。 ・ 賃金があまりにも安いこと。お尻にあせもをつくってもなお一生懸命仕事をして1時間60円です。あまりにも気の毒です。仕事をせず作業所に行くだけでも60円です。また、身体障がいの区別もおかしいです。職員も障がい者の理解がないと思います。 ・ 福祉支援の職場を増やすこと。時給を増やすこと。 	
(5) 移動・外出について	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー利用券が使いがらみです。月の指定がされているとその月しか使用できず、多く必要な月と全く使用しない月があり不便です（月の指定をしないで1年間通用できるように）。他の市では指定されていないためにいつでも使え便利です（1か月に2枚では一往復しか使えない）。 ・ 施設までの送迎を、移動支援で使えるとよいです。 ・ 親が死んでも生活できるようにグループホームをつくってください。そこから作業所に通えるように送迎支援してください。 	
(6) 医療について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吸痰行為ができるヘルパーさんたちをたくさん養成していただければよいように、働きかけをしてほしいです。また、主たる介護者である親がなくなった後、医療的ケアが必要な重い障がいのある人たちを受け入れてくださる施設の情報を、各方面に打診して入手してほしいです。受け入れ可能な施設、県下で何処かあるのでしょうか。養護学校卒業後、医療的ケアの内容が重過ぎるため、通所施設になかなか受け入れてもらえず、仕方なく、在宅生活を余儀なくされている障がい者さんや、お母様方の存在を忘れないでください。特に介護しているお母さんたちは、へとへとに疲れています。 	

(7) 生活環境について	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいの特性や重さにより生活の形態はいろいろだと思います。誰でもが一人暮らしやグループホームで生活できるわけではありません。個々の人に一番適した生活を提供できるよう、一人暮らしのサポート、グループホーム、ケアホーム入所とそれぞれ充実させることが必要だと思います。 ・ 障がい者のグループホームの設立、人材の確保に市としてももう少し力を入れてほしいです。外出支援など、色々なサービスを利用したいと思っても、詳しいことがわかりません。冊子などにして、送ってくれると助かります。 ・ 知的障がい者のグループホーム、ケアホーム、入所施設が不足しています。高齢者施設は次々とできているのに、なぜでしょうか。 ・ 障がい者も現在は良くても年を取って高齢者になっていきます。人の世話になるようなこともあります。その時のための施設を建設してほしいです。 	
(8) 差別や権利擁護、障がい者理解について	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幸せな日常（不自由を抱えながらも）を送れていますことは、一昔と比べますと、障がい者に対する見方などが変わってきたと思います。 ・ 養護学校の先生方の専門性や福祉制度への理解など高めてほしいです。 	
(9) アンケートについて	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの調査のことですが、何かと忙しい12月ではなく、10月頃にしてください。 	
(10) 行政への要望	7 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ これからも障がい者が一生安心して過ごしていただける支援をよろしくお願いします。 ・ いろいろな手続きが煩雑です。 ・ 東部に事業所などが集中していると思います。特別支援学級などにおいて、一般のボランティア、無資格でも良いから支援員を入れると良いと思います。しっかりしたA型の増設と事業所の質を本当に高めてほしい。総合福祉になるようであれば、高齢者と抱き合わせて大きい法人に障がい者用の施設、就労先などをつくってもらえるように働きかけてほしいです。（特例子会社が少ないもの働きかけていただきたい。企業に）他の都市でよい所があるので、見学したのならば取り入れてほしいです。 ・ 施設の中の支援員さんの人数が少なく増員してほしいです。 	
(11) その他	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての障がい者が希望に沿って生活できるようになるとよいです。 	

3. 精神障がい	
(1) 日常生活について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在夫婦ともに精神障がい者です。同居の母に家事のほぼすべてを任せています。小学生の子どもも二人いて、将来的な見通しが立たないのが不安です。 ・ 自分が1人になった時に生活を1人でやっていけるのでしょうか。 ・ 生活保護費、障害年金などの額を増額してほしいです。 	
(2) 相談について	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ その障がい者にあった具体的なアドバイスができるヘルパーを育成し、家をまわるところから始めるとよいと思います。健常者との付き合いは、そこそこありますが、僕の病気のこと、女房との関係など、具体的に相談できるのはひとりきりです。障がい者同士が相談しあっても、ただ自分の病気で手一杯で、僕自身、月に1度デイサービスに通っていますが、まじめに聞きたいと思う時はスタッフに相談します。まず、そういった関係を市のヘルパーと障がい者と家族とでつくること。これだけやれば彼あるいは彼女がかかえる問題の所在がおのずとわかると思います。 ・ 医療費助成は大変ありがたく思っています。相談機関とより密に連絡を取りたいと思います。手帳など、事務的手続き更新するだけで他の情報がまるで入ってきません。 ・ 相談者の苦しみ、つらいこと、心のたまった、吐き出すところがあれば、少しは楽になり、また、介助の励みになるかと思えます。 ・ 私の病気は外見ではわかりません。多分同じ病気の人もそうだと思います。1度も同じ病気の人たちとSNS以外で悩みを話したことがありません。きっとみなさん苦しんでいるのだと思います。しかし相談できるところがありません。 	
(3) 情報提供について	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「このようなサービスがある」など情報がほしいです。 ・ 毎週1回地域活動支援センターに通わせてもらっているのですが、そういった施設の数を増やしてほしいのと、そういった施設がどこどこにあるといった情報をもっと簡単に手に入れたいです。今の支援センターを探しあてるまで、長い時間がかかり、偶然に見つかったという感じだったため。障がい者で無職の人間の人に職業訓練などサポートしてくれる場所がほしいです。知りたいです。 ・ 申請がなければ対応がありません。それを知らずに過ごした期間があったので、広報の仕方を検討してください。 	
(4) 就労について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者を雇用する企業を増やす政策を進めてほしいと思います。 ・ 就労支援A型を利用し、生活リズムを整えています。いずれは一般就労しようと思っています。 ・ 今現在、豊田市の某社で働いていますが、生まれ育った春日井市への思い入れも強く、いずれは（障がい者の枠にとらわれず）この市で働きたいと思います。そのためにも是非市内の企業にすべての障がい者の雇用促進をしていただければと思います。 ・ 製造等の造り流れ作業、分業等素人でも速く慣れてできるよう指導を受けて早く一般社会の生活に戻りたいです。1日4～7時間くらいの勤務時間を行えるように鍛えたいです。 	
(5) 余暇活動について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者が楽しめるカルチャーセンターがあるとよいです（自宅の近く）。絵手紙、英会話、手芸、体操などが楽しめる場所があるとよいと思います。タクシー利用券はあるが、タクシー利用券は使わないので、ガソリン代を出してほしいです。 	

(6) 移動・外出について	6件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 車がないので、常にタクシー、自動車、歩きが多くなりますが、タクシー利用券は1か月に少ししか使いません。使えるのが1回につき1枚だと困る、意味がありません。1回に2枚、3枚使えると助かります。 ・ 現在タクシー利用券を発行してもらっているが、現実には動くことができず、家族の車で補助している（近くの病院など）したがって従前の自動車燃料利用券の利用ができるのが望ましいです。一度もタクシー利用券を利用できません。 ・ タクシー利用券に関して、お迎え料金、初乗りなど、結構お金がかかるので、枚数を少なくしていただいてもよいので、金額をあげるか100円単位のチケットをつくっていただきたいです。 ・ ヘルパー事業所が増えたことがよいです。ヘルパーによって、対応が良い人悪い人がいます。車が無いのでタクシー利用券続けてほしいです。 	
(7) 医療について	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援、障害者手帳を発行していただいて通院費が助かっています。 ・ 各務原にいたときは障がいの級がなくても関係なく、医療費がすべて無料でした。そのようにしてもらいたいです。 	
(8) 差別や権利擁護、障がい者理解について	1件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者をよく理解しないで就労している方がいます。看護師さんもいらっしゃるため、もう少し勉強してほしい方もいます。 	
(9) アンケートについて	1件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉の方たちには、親切に書類の書き方などを教えていただいています。これからも書類の書き方などを変わず教えていただければと思います。 	
(10) 行政への要望	15件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害年金がもらえないのに、手帳は2級で補助金が少なすぎます。厚生年金をかけたり、国民年金をかけているのになぜでしょうか。病気の種類で年金がもらえたり、もらえなかったりするのでしょうか。働きたくても働けない人のために、もっと福祉に力をいれてもらいたいと思います。生保もだんだん少なくなり、子どもの学費、給食費、食費とお金が必要なのに、服すら買えずにいる状態です。制度の見直しをしていただきたいです。中学校にあがればもっとお金が必要になるし、正直、家事もできないときもあり悩んでいます。改善を望みます。 ・ 障がい者の方々は弱い立場になりやすいと思います。しかし一般の方々も弱肉強食の社会の仕組みの構造の中で暮らしています。切り捨て社会の中で、これから安定した職や生きる実感が持てない生活労働者が増えていくような気がします。自助努力を促したり、市の行政が公助と共助を差し伸べてくれたら嬉しいです。 ・ 母親が身体障がい者で、兄も精神障がい者で2人とも働いていないので家族への生活医療費援助金を市町村の方から出してくれるようお願いしたいです。 ・ 各種の施策がわかりにくく思えます。もっとわかりやすく、知らない人にも伝わるようにしてほしいです。 ・ 障害年金が年々減額されていくので心身障がい者扶助料で補填していただきたいです。ガス、電気、水道などの公共料金を減額してほしいです。市営住宅に優先的に入居させてほしいです。 	
(11) その他	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理をしないことだと思います。プレッシャーをかけすぎないことだと思います。嫌なことは嫌だとはっきり言うことだと思います。 	

4. 障がいのある児童	
(1) 日常生活について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学について、障がいのない子たちと学ばせたい(遊ばせたい)です。周囲への理解や社会で生きていく力をつけさせたいが、受け入れてもらえるか不安です。また親が常に学校で待機しているなどと聞くと、地域の学校に行く意味があるのか疑問に思います。「支援者」を配置する制度も春日井市にはないとのこと。「自立」して社会で生きるために学校のことも充実させてほしいです。 ・ 聾学校から普通学級へ変わりました。忙しいかと思いますが、先生に難聴についてももう少しでも理解していただきたいです。その橋渡しをしてもらえると嬉しいです。個人でその都度お話ししてもなかなか難しいのが現状です。 ・ 名古屋のように学校の付き添いがヘルパーを使ってできるようにしてください。親が1日中、学校で付き添っているのは負担が大きすぎます。家事も仕事もできません。もっと障がい児・者の部分に力を入れてほしいです。他の市町村から、うらやましがられるぐらいにしてほしい。福祉が一番整った街になってほしい。 	
(2) 相談について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会やサービス等の説明会など、高蔵寺地区の方でもやってほしいです。高蔵寺地区でいただければ、仕事の合間に少し抜けて、ちょっとでも話を聞きに行きたいといつも思っています。それぞれの地区に1人、障がい児担当の人をつけてほしいです。相談や聞きたいことができた時、同じ人の方が気軽に聞けるので。できれば年に1回でよいので、面談などする機会もほしいです。 ・ 療育を行っている機関は多く、充実していると思いますが、空き待ち状態であることも確か。特に個別対応の療育は少なく、就園、就学後、相談できる機関が少ないです。改善していただけたらありがたいと思います。 ・ 子どもの就労についての相談、フォロー、支援学級、学校の充実をお願いしたいです。もっと気軽に相談できる場所が多いとよいと思います。 	
(3) 情報提供について	3 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスの追加や変更があっても、利用者には情報が届かないことが多くあります。利用している人にわかりやすく、早く知らせてほしいです。 ・ 福祉サービスがいろいろとあり、春日井市は頑張っていると思うのですが、それぞれの福祉サービスが、どういう人がどういう時に、どこの事業所で利用できるのか、サービスの名前だけではよくわからなかったり、どこの事業所でどのように利用できるのか、利用するにはどうすれば良いのか、わからないことが多いです。福祉サービスや災害時の避難に関する冊子や説明会を開くなど、利用者にわかりやすい説明がもう少しあれば良いなと感じています。これからも障がい者やその家族が少しでも生活しやすい環境づくりに力を入れてがんばっていただきたいと思います。 ・ 福祉サービスの変化等、告知がないように思います。事業所等にこちらから聞いて初めて知る情報も多いです。学校卒業後の若者の支援がないように思います。高齢者とは違うので、年齢に合った支援がほしいです。地震の時はとても不安です。障がい者専用のサポートがあったらよいと思います。コールセンターや避難所があればと思います。 	
(4) 就労について	5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今は学校だけ、いずれ作業所などに入れたいと思っていますが、空きが無い所が多数見受けられます。作業所を増やしてくれるとありがたいと思います。また、作業所等へ通わなくなった後、親はその頃本人を見れない可能性があります。入れることのできる福祉の施設があまり無い気がします。財政難とは思いますが、これからまだまだ増え続ける障がい児のために考えていただけるとありがたいです。 ・ その子の適性に合った就労支援等を充実させてほしいです。 ・ 就労支援の施設との連携が充実。企業への受け入れ、ジョブコーチ等の計画を支援。 ・ 就職できる職場等を増やしてほしいです。成人して、普通生活ができていくような、道筋をきちんとつくってほしいです。 	

(5) 移動・外出について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> 移動支援の時間をもう少し増やしてほしいです。 	
(6) 医療について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> 療育判定C判定の者にも医療費を無料にしてほしいです。 	
(7) 生活環境について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> 市役所の障がい者用の駐車スペースが少ないです。障がい者個々に合わせた支援が必要です。 養護学校も近いですし、保育園にも障がい児の枠がありますし優しい市だと思います。 高校が少ない。あっても遠い場所しかない。もう少し春日井市内で福祉施設や高校などをつくってほしいです。 サンプラック(温水プール)利用料は判定の程度に関係なく、本人と介助者の利用料を免除してほしいです。プールが好きな息子(5歳)のために利用したいが、大人1回500円取られるため、名古屋市のプールを利用しています。その日の気分ですぐに出てしまうこともあるので、利用料が免除されていれば気軽に連れて行くことができます。体操、スポーツ教室など、発達に問題がある子のための教室をつくってほしいです。同じ年代の子が集まる教室は同じようにできないし、他の親の目も気になり、気兼ねして申し込みしづらいです。同じ境遇の親同士、交流の場にもなるし、子どもも伸び伸びさせてあげられます。親子の居場所がほしいと思います。 	
(8) 差別や権利擁護、障がい者理解について	3 件
<ul style="list-style-type: none"> 公共の療育施設がありません。療育に関する情報も、どこで得たら良いのか全くわかりません。小学校の時から、自閉症、ダウン症、発達障がい等の障がいの特性や差別をなくす教育を取り入れてほしいと思います。 障がいがある人でも、障がいのない人と同等になる世の中になると良いなと思っています。 施設や道路とのハード面のバリアフリー化も重要かと思いますが、市の担当部署以外でも障がい者に対して理解を深めてもらえるようにしてもらいたいです。障がい者が、地域の中で思いやりなど配慮は当然ないと生活できませんが、差別や偏見がなく、生活や働くことができるような市であってほしいです。障がい者だけでなく、健常者も暮らしやすい市になっていくかと思っています。 	
(9) 安心・安全について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> 大震災が起きた時、避難所での対応を考えてほしいです。障がいを持っていると、そのような時、周りに迷惑(声、騒音)をかけてしまい、いざらくなりそうなので、障がいを持っている人(家族)のことを考え、措置を取ってほしいです。 	
(10) 行政への要望	24 件
<ul style="list-style-type: none"> 市内での療育機関が少ないので増やしてほしいです。特別支援学校も1校しかなく、満員状態なので、もう1校増設してほしいです。 障がいがあっても普通に暮らしていけるように、社会的不利をできる限り無くせるようにしていただきたいと思っています。国の制度に縛られることや、財政上の問題もあるかと思いますが、インフォーマルなサービスも含め、よりフレキシブルに対応いただけたらと思います。 高校を卒業してからの受け入れ先(作業所や福祉施設など)がどこもいっぱいに入れないと話を聞きます。この先、自分の子どもが入る頃には、もう少し受け入れ先を春日井市でも増やしてもらわないと困ります。家族が子どもの働けるようなお店などもつくる話もありますが、お金や人員など限界があると思います。市の方でもっと福祉に対して、しっかり考えてもらえるとうれしいです。 	

- ・今は家族がいて一緒に過ごしていますが、親がいなくなったときに、安心して生活ができる場所がたくさんあれば本当に私たち親が安心できます。デイサービスなどの利用料が多く、収入の少ない家庭では、十分に利用することができません。もっといろいろな体験をさせてあげたいのですが、普通の子のようにはできません。貧乏の家庭の障がい者は、家に引きこもっていいのでしょうかといろいろ考えてしまいます。
- ・障がい者に対してよりも、介助者へのサポートを充実させてもらいたいです。コロニー以外で障がい者を診てもらえる医療機関を増やしてもらいたいです。
- ・保育園の入園について、働いている人が預ける所だということは理解できますが、障がい児枠で希望しても働かなくてはいけないことに疑問を感じます。障がい児の場合、健常児と比べて支援が必要な場合や幼稚園の受け入れがなかなかないので、たとえパートであれ、就労状況も厳しいと思います。せめて障がい児枠を希望している場合は必ずしも就労していなくてもはならないという条件は免除してもらうか、必ず希望の園に入れてもらえるなどの配慮していただけると助かります。

(11) その他

8件

- ・共働きですが、障がいの有無にかかわらず、日曜日に子どもを預かっていただけるところが見つかりません。祖父母も近くにおりませんので、仕事でどうしても行かないといけない時、職場に連れて行っていました。障がいのこともあり、おとなしく待ってられないので困っています。日曜日も見てもらえるところがあると助かります。来年、小学生になりますが、できれば普通学級で障がいのことを先生にはもちろん、子どもたちにも理解してもらった上で、できるだけみんなと一緒に学ばせてあげたいと思っています。補助の先生に毎時間ついてもらうものは、できないようすが、それができるようになれば嬉しいです。どんな子どもでも共に学べる環境にしていただきたいです。
- ・先日学校PTAで主催された春日井市の防災研修会に出席し、避難場所についていろいろ考えられていることを知りました。これからさらに詳しく取り決められることと思いますが、期待しております。何か避難所であっても、もしかしたら移ることができるかもしれないと気持ちが楽になりました。
- ・デイサービスや子育て支援（障がい者の）施設は春日井は県内でも多いと聞いています。しかし、地域に偏りがあると思います。私の知る限りでは、高蔵寺方面は事業所も多く、いろいろ選べる（家から近いので）と思います。しかし、家の近くにはありません。もっと療育を受けやすい環境になるとよいと思います。
- ・障がい者（大人）と障がい児を分けて制度を考えてもらえませんか。子どもは成長します。車椅子やバギーを、何年も使うのは不可能です。住宅改修で手すりをつけても、成長すれば新たに改修が必要となります。補助していただけるのはとてもありがたいですが、1回しかつかえないなど、1度つくると何年もつくれません。本人のベストなタイミングでつくってあげることができません。また、街中でも大人のための車いすはあっても、子ども用はありません。学校ですら手すりがほとんどついていません。教育委員会ともう少し連携して、入学前から地域の学校にどんな障がいがあるのか。呼びかけていってもらいたいです。現状では親が学校に出向くまで、地域の学校はどんな子どもがいるのか全く把握していません。呼びかけしていけば、何年か前から少しずつ改修したり、心構えしてもらえるんじゃないかと思います。

5. 難病患者	
(1) 日常生活について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> なるべく自分でできることは先のことも考えてやっています。私より大変な人はたくさんいます。どうぞその人に手を差し伸べてください。 	
(2) 情報提供について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> 基本的に障がい者は情報難民です。サービスの充実もよいですが、情報を発信したり『あなたはこのようなサービスや支援が受けられます』と市から伝えることをしてもよいのではないのでしょうか。 自分でホームページ等で情報を得ないとサービス等のことを知ることができないはいけません。まだまだ障がい者福祉というのは特別なもので少数の人のためという感じがします。健康な人も同じサービスを受けることができればみんなに知ってもらえるのではないかと思います。 病院内のわかりやすい場所に、福祉サービスについてのリーフレットやパンフレットを置くなど、受けられるサービスを知ることができるようにしてほしいと思います。東京都では、電車内で難病患者が困らないように「難病者マーク」を配布されており(妊婦さんのワッペンのようなもの)、電車やバスで気軽に優先席が利用できたり、駅員さんに助けを求めたりしやすいようになっています。春日井市でも取り入れてほしいと思います。 広報の記事を増やしてください。(新しい政策、制度についてわかりやすい記事) 	
(3) 移動・外出について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> 以前には町の中まで入ってきていたバスがもう何年も前から廃止されてしまい、不便きわまりないです。市民病院、市役所等、銀行、郵便局、もよりの駅まで運行してほしいです。家にいるものがすべて車を持ち運転できるとは限らないのでよろしくお願いします。 	
(4) 医療について	4 件
<ul style="list-style-type: none"> 他県から引っ越してくると、特定疾患の受給者証を新しく作成してもっている際に、病院に行きたくても、受給者証が無いため治療費をすべて負担しなければならないのがとても困る。何か対策を考えてほしいです。例えば、仮の受給者証でも良いので、手続きの際にすぐ発行するなど、受給者証の交付までに時間がかかり過ぎです。 医療費の助成、手当ては削減せずに継続。または充実させてほしいです。 障がいを持つと医療費がかかります。難病支援をなくさないでください。 	
(5) 行政への要望	2 件
<ul style="list-style-type: none"> 春日井市の話ではありませんが、障がい者の方が電車の優先席によりすわりやすいようにアピールしてほしいです。上記に限らず、もっとアピールしてほしい。 市内には、大きな施設も建てられ、充実されてきたと思うが、そこで働く職員さんの手当ても充実されると良いとおもいます。 	
(6) その他	3 件
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会にも登録しお世話になっています。 	

6. 一般市民	
(1) 障がい者の日常生活について	7 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際自分が骨折した時にバリアフリーがなく、あってもとても遠回りをしなくてはいけなかったりして大変苦勞をしました。幸い今は普通に歩行できますが、一生車椅子の人たちはどんなに大変だろうかと気づきました。多くの人はこのような経験をしないため、障がいを持つ人が普通に生活することがどれくらい大変か想像できにくいし、想像することもないのではないのでしょうか。 ・ 駐車場でまだまだ健康な人が障がい者用のスペースに車をとめています。 ・ 正直障がい者の視点で市政を含めて物事を見ることができていない自分を実感しました。障がいを持っていない多くの方々に障がいを理解しわかち合えると良き社会になると思いました。 ・ 自分なりに障がいについてはテレビや新聞で見聞きしたつもりだったのですが、実際にはどうなのだろうと考えさせられてしまいました。例えば、点字ブロック上の通行の邪魔はしないようにしようなどの間接的な配慮はしても積極的には何もできていません。シルバーシートエリアにいても誰も携帯電話の電源は切らずゲームやメールをしている人もいます。そのことに違和感を覚えはしても、怒りは感じなくなりました。他人の目には見えない障がいの方々にも優しい世の中だと思います。 	
(2) 障がい者の相談について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者になり、介護の認定（母親）が出て、デイサービスなどの利用ができるようになり、家族としては安心（いろいろ心配なことなど相談にのってもらえるなど）できる部分も増えました。しかし、本人の希望などあり、上手に利用できてない面もあって、難しさを感じているところです。個々に、違う対応が必要になるので、大変とは思いますが、これからも本人や家族のために力になれるようよろしくお願いします。 	
(3) 障がい者の情報提供について	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者福祉行政について、広報などもっと情報提供を行う必要があると思う。 ・ 視覚障がいのある子の父親です。春日井市で視覚障がい者をサポートする組織・会合ボランティア等を聞いたことがありません。情報をいただいたことすら全くありません。一度総合福祉センターで聞きましたが何もわかりませんでした。 	
(4) 障がい者の就労について	2 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目で確認できない（わかりにくい）精神障がい、聴覚障がいなどそういった障がいの人でも外に出られる場があると良いと思います。最近増えている精神障がいの人外に出て、知的、身体障がいの人のような作業所のようなものがあれば良いと思います。医者の充実をはかってほしいです。春日井市はコロニーがあるので他の市より障がい者に力が入っていると友達などは入っていますが、実際にはわかりません。この症状の時はこの科に行くなど、もっとわかりやすく行きやすいようにしてほしい。 ・ 障がい者にスポットライトを照らすだけでなく、支援する人が働きやすい環境を整えることや賃金水準を向上させることも重要であると考えます。 	
(5) 障がい者の移動・外出について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ JR春日井駅のリニューアルで、車椅子用の坂があったが、エスカレーターやエレベーターがないため、階段の登り降りがづらいです。障がい者やお年寄りはおさらだと思うので、早急に対策をお願いします。名古屋の地下鉄などを見ると痛感します。設備費用や維持費、電気代などのコストがかかるとは思いますが、しっかり予算をつけて取り組んでほしいと思います。 	

(6) 障がい者の生活環境について	6 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある人とない人みんなが安全に暮らせる地域になってほしいです。 ・ 障がいは明日は我が身です。子どもを育てていますが、子どもに障がいがないことを祈る＝障がいがあると生きにくい社会であることを何となく感じているかもしれません。自分で何ができるかわかりませんが、市の取り組みがもう少しわかっただら参加しやすいなとも思います。 ・ 私の職場に現在いる心臓に疾患がある人は、見た目は全く障がい者とわかりません。また、本人もなるべく他の人と同じようにできることをしようとしています。私の同僚も、それがどの程度の障がいなのかかわからず、かまえていましたが、だんだん様子がわかってきて、なじんできました。障がいの種類は実に多様で、また程度も個人によってまちまちであるので、すべての障がいについてすべての人が知っているという状態をつくるのは大変難しいことと思います。また見ただけでは障がいがあることがわからない、と言う方も多いためです。どんな人がどんな助けを必要としていて、どう助けたら本当の支援、援助になるかも違うと思います。行政からできる支援もあれば、私たち、個人個人が行う方が適している支援もあるので、お互いにできることをと思います。 ・ 目に見える障がいのある人以上に、今は心の障がいのある人の方が多く感じます。疎遠になりつつある、人間関係や社会生活の中で心の教育、情緒を育てる環境づくりが大切かと思っています。昔の人間性の育て方と違い、今の世の中はインターネットが充実しすぎてしまい、人と人とのつながりが薄くなってきていると思います。近隣や、市の中での交流を老若男女問わず深める場をもっと増やしていくことと思います。町内対抗の体育大会など、町内の絆を深めたり、身近なところから交流をつくる内容が良いと思います。 	
(7) 障がい者の差別や権利擁護、障がい者理解について	6 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の心から差別意識をなくすことは難しいが、理解し、援助することはできる。広報し、場づくり、援助者を育成する必要があると思います。 ・ 障がい者という良いイメージがないのは、今も昔も変わりません。なぜか、小さい頃からどこかで差別をしてしまっていたからだだと思います。大人になるにつれ、そのようなことを簡単に取っ払うことができづらいつ感じるので、小さい頃からの障がいのある人と触れ合うことって大事なのかと思いました。でも、やっぱり、大人はやっぱり一緒に遊んじゃダメなど言うのだと思います。本当に差別なく過ごせる日はまだ遠いのでは。自分自身障がいになったり、子どもが障がいになったら、不安で仕方ありません。そのような状況になっても国や市から援助があると過ごし易くはなるのだと思います。 ・ 人は皆、平等に生活することができます。人生を豊かに生きることができます。このような基本が小さい頃から身につくように教育の中で共に生活したり学んだりできる場、設定をしてあげる必要があります。障がいのある子の特性を活かし、合った教育ができるとみんなが豊かに過ごせると思います。 ・ 私もそうですが、実際に身近で障がいのある人との接触がないと自分とは無縁と考えている人が多いと思います。私の友人の話ですが、その子どもが〇〇性〇〇症候群などとちょっとした行動や様子で障がいの一部であろう病名をつけられ親はひどく悩んでいるといった話を聞きました。今の社会はとにかく何でも病名をつけたがる傾向があると思います。昔は小学校の普通のクラスに障がいのある子がおり特別扱いなどしていなかったと思います。でも今は学校側がそういった特別支援学校への転校を勧めるそうです。私はそれが既に差別だと思います。子どもの頃から障がい者に対する教育が一番大切なのではないでしょうか。 	
(8) 障がい者の安心・安全について	1 件
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての障がいの人たち、健康な人たち皆が協力し合い暮らしやすい優しい春日井市（日本）であるようにすこしづつでもよいから近づきたいと思います。まずは、自分からいつだれでも障がい者になりうるのですから。 	

(9) アンケートについて	2件
<ul style="list-style-type: none"> アンケートをいただいたが身近にそういった人がいないし接していないので詳しくはわかりませんでした。 身近に障がい者がいないこともあり、普段の生活で障がい者福祉について考える機会がないのでこのようなアンケートも考えるきっかけのひとつになると思いました。 	
(10) 行政への要望	10件
<ul style="list-style-type: none"> 福祉の都市として全国的にも上位レベルになるように、予算配分を充実させてほしいです。 障がい者福祉については、知らないことばかりですが、本人だけでなく、家族へのサポートが充実していれば、虐待を減らすことになるのではと思います。 車で街を走っていると、道路の幅が狭いため、車椅子での移動に困難なのではと思うことがあります。また、バリアフリーが進んだとはいえ、ベビーカーですら段差で歩道に乗り上げられなかったことがあります。健常者の目線で作られているため、そのような現状があると思います。そのような点で、もうすこし、障がいのある人の目線に立って、春日井の街づくりを行っていったほうが良いと思います。 バリアフリー化、施設、設備を充実させることよりも、先に、困っている人を見かけたら声をかける、手伝う（駅やスーパーなど身近なところで）姿勢をみんなが持つことが大切だと思います。そのために何ができるのか、どうすることが望ましいのか、といった具体的な方法を市民一人一人がわかるように学校や広報などで、定期的に学ぶ機会があると良いと思います。 障がい者の福祉はもちろん大切なことなので健常者をもっと障がいや彼らの生活について知ったほうがよいと思います。また、市が障がい者の福祉を充実させるということは素晴らしいが全体の福祉の充実という観点も忘れてほしくないです。障がい者を市が守るのではなく、市民全体が障がい者と共生しそれを市が守るという構図でありたいです。そういった意味ではまだ私たちは障がい者について知らないことが多すぎるので、様々な場面で障がいについての施設等を広く情宣していただきたいです。障がいをもつ方やその家族が苦しむことのないようそちら側の声をしっかりと聞いてもらえる福祉課であってほしいです。 	
(11) その他	3件
<ul style="list-style-type: none"> 接する機会がないので何とも言えないが、そのような機会のための練習、トレーニングをしていないと、自然に接することはできないであろうと思われます。そのため「さける」という行為に多くの人が流されます。必要性は感じても、当事者意識が芽生えないと金は払えないと思います。子どもたちやできれば大人にも何らかのトレーニングをつまらせてほしいです。 近年、小学校入学時などに障がいの強い子を普通学級にと望む方が多くなってきているように感じます。確かに障がいのあるなしにかかわらず、多くの他人と接することが成長過程でとても大切な経験だと思います。しかし一部の人々に大きな負担がかかるのはどうかと思います。基本的には集団生活において、自分のことは自分でやるというのが原則です。少々のは助け合い、お互い様ですが、あまりに大きな負担を負わせることは本人にとっても、廻りの人にとってもよくないと思います。全く同じという訳にはいきません。命にかかわる責任を、医師でもない教師に求めるのはどうかと思います。両親が認めたくないのでしょうか。障がいを認め、受け入れ、同じではないけど、よいバランスで皆と関わっていくという方法を考えていくべきです。春日井市にはコロニーがありますが、あちこちから、ここ1か所に障がいを持つ児童を集めてくるのは反対です。もっと規模を小さくした、同レベルの施設を各地域につくり、地域で見守るべきだと思います。重い障がいのある子に対しては、地域の病院と連携して対応してほしいと思います。サポートが必要な人には、きちんとサポートを提供できるようなまちづくりをして行ってほしいと思います。 20年ほど前に春日井市に来て、たまたま総合福祉センターが自宅の近くにあるので総合福祉センターの活動や福祉との集いなど障がい者福祉に力を入れているのだと思っていました。5年間で改善されたか、進んだのかというアンケートにはわからないとしか答えられませんでした。以前からいろいろ取り組んでらっしゃるとは思います。先日市役所に行って、団体の方たちがパンやお豆腐を売って見えました。そのような場を提供してくださっていることも嬉しく思います。 	

春日井市障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査 報告書

発行年月 平成26年3月
発行 春日井市
編集 〒486-8686 愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地
健康福祉部 障がい福祉課
電話 0568-85-6186
FAX 0568-84-5764
URL <http://www.city.kasugai.lg.jp>